

みんなくファクトブック

FACT BOOK 2023



Contents

1 組織

2

- 1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴 2
- 1-2 組織の概要 3
- 1-3 構成員の一覧 9

2 研究

12

- 2-1 令和5年度の研究業績 12
 - 2-2 研究出版活動 15
 - 館内の出版物 15 / 本館助成による館外出版物 16 / みんぱく映像民族誌 17
 - 2-3 みんぱくで実施した研究プロジェクト 17
 - 特別研究 17 / フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト 20
 - 公募型共同研究 25 / 文化資源プロジェクト 28 / 情報プロジェクト 30
 - 2-4 外部資金による研究 30
 - 科研費による研究プロジェクト 30 / 民間助成などによる研究プロジェクト 32
 - 2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト 33
 - 広領域連携型 基幹研究プロジェクト 33
 - ネットワーク型 基幹研究プロジェクト 35
 - 2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト 37
 - 共創促進研究 37
- | TOPIC | 廣瀬浩二郎教授が「令和5年度文化庁長官表彰」を受賞 14
- 国際マルチメディア・オンラインジャーナル TRAJECTORIA 16

3 共同利用

39

- 3-1 国内における研究連携 39
 - 国内学術協定 39 / 共同利用型科学分析室 40
- 3-2 研究員制度 42
 - 外来研究員 42 / 特別共同利用研究員 43
- 3-3 資料の収集と利用 44
 - 標本資料および映像・画像・音響資料 44 / 文献図書資料 47 / データベース 50
 - 民族学研究アーカイブズ 52 / 学術情報リポジトリ 54

4 展示

55

- 4-1 本館展示 55
- 4-2 特別展示・企画展示等 58
- 4-3 公募型共創メディア展示 59
- | TOPIC | 自動運転モビリティの体験走行 56

5 国際連携

60

- 5-1 海外研究機関との学術交流協定 60
- 5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース 62
- | TOPIC | 本館が「令和5年度外務大臣表彰」を受賞 63

6 社会連携

64

- 6-1 受託事業 64
- 6-2 学校教育・社会教育活動 65
 - 大学等授業利用 65 / キャンパスメンバーズ 66 / 貸出用学習キット「みんぱっく」 67
 - 職場体験活動 70 / ボランティア活動の受入 70
- 6-3 インターネットによる情報発信 71
 - ホームページ 71 / メールマガジン 71 / SNS 72
- 6-4 開催イベント 73
 - 公開講演会 73 / みんぱくゼミナール 73 / みんぱくウイークエンド・サロン 74
 - 研究公演 76 / みんぱく映画会 76 / ワークショップ 77
 - イベント開催件数と参加者数の推移 78

7 産学連携

80

産学連携活動の実施状況 80

民間企業との共同研究 80 / 知的財産形成・特許出願 80

8 大学院教育

81

総合研究大学院大学 81

8-1 教員数・在籍学生数 81

8-2 入学・志願状況 83

8-3 学生支援状況 85

8-4 退学者 87

8-5 学位取得 87

8-6 卒業後の進路・就職 89

8-7 研究生 89

9 業務運営

90

9-1 収入・支出 90

9-2 自己収入と外部資金受入額の推移 91

9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について 92

はじめに

国立民族学博物館インスティテューション・リサーチ室（以下、IR室）は、本館の研究、教育、共同利用、展示等に関する活動についてのデータを収集・分析することにより、館の運営機能の強化・改善に資することを目的として、2016年4月に設置されました。

本館は、人間文化研究機構の一員として6年間の中期目標に基づく中期計画及び年度計画を策定し、その実施状況について国立大学法人評価委員会の評価を受けています。また、本館独自で自己点検・評価を実施しており、本館の研究教育活動等の状況をまとめた「自己点検報告書」を作成しています。

IR室は、これらの点検・評価等において、情報の収集、分析、取りまとめ等を担っており、2022年度より「みんぱくファクトブック」を作成することにしました。目的は、本館の活動に関するさまざまな数値や指標を表やグラフの形で可視化し、館内で現状を的確に把握して改善や計画策定に利用するとともに、ステークホルダーの皆様に本館の現状や取り組みについてより一層理解していただくことです。

みんぱくファクトブックは、数値データについて6年間の経年変化をグラフ化することによって、これまでの傾向を端的に把握し、今後の課題を検討しやすくしています。

館員はもちろん、国立民族学博物館の活動を支援してくださるステークホルダーの皆様や活動に関心をもってくださる市民の皆様に、本ファクトブックを活用していただければ幸いです。まだ不十分な点があるかとは思いますが、今後も改良を続けていきますので、皆様からのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2024年10月
国立民族学博物館
IR室長 宇田川 妙子

1 組織

1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴

● ミッション

国立民族学博物館は、文化人類学・民族学及びその関連分野の調査研究を行うとともに、世界の諸民族に関する資料を収集・保管し、公開することを目的とする。また、当該分野の共同研究・共同利用の世界的な研究拠点、文化資源と研究情報の国際的集積センター、ならびに博物館機能を活かした大学や一般社会への貢献の役割を担っている。

● 特徴

- 文化人類学・民族学及びその関連分野の世界的研究拠点

世界全域を対象とする研究者より組織される文化人類学・民族学の研究所であり、大学共同利用機能・大学院教育機能を有する世界で唯一の民族学博物館である。

- 国際的研究ネットワークのハブとしての共同研究拠点

共同研究の公募と外国人研究者の受入を積極的に推進するとともに、国内外の大学・研究機関と学術協定を締結し、国際共同研究を推進している。また、文化の担い手であるソースコミュニティと研究者、そして地域社会の結節点となることで、共同研究・共同利用による文化資源情報の充実と人類の共有財産化を推進している。

- 人類の文化資源と研究情報の国際的集積センター

20世紀後半以降に築かれた世界最大規模の民族学資料、映像音響資料、図書資料のコレクションを所蔵し、整理・公開している。また、世界各地でのフィールドワークに基づく研究成果を展示によって公開している。

- 博物館機能を活かした研究成果の発信による大学・社会への貢献

民族学資料、映像音響資料、図書資料の収集・保存・公開等の活動を通じて大学の研究・教育における機能強化や社会一般の異文化理解・国際理解の促進に寄与している。

（人類の知の「フォーラム」）

研究機能

文化人類学・民族学の世界的な研究・共同利用拠点

【ミッション実現戦略】

フォーラム型人類文化アーカイブズにもとづく
持続発展型人文学研究の推進

■特別研究

「ポスト国民国家時代における民族」

■公募型共同研究

新領域開拓型・学術資料共同利用型・研究テーマ設定型
若手共同研究

博物館機能

研究資料の集積と、研究成果の公開の回路としての博物館

【基盤的設備整備】

フォーラム型資料保存・研究利用システムの構築

■持続可能な人類共生社会を目指す

ユニバーサル型メディア展示の構築

モノの展示と情報メディアを高次元で統合し、展示空間のユニバーサル化を実現

- ・インターネット及び可搬型ビデオマークによる展示の大学共同利用
- ・公募型共創メディア展示による大学博物館支援
- ・展示へのデータサイエンスの応用

人類の文化と社会についての理解を深め、人類共生のための指針を示す

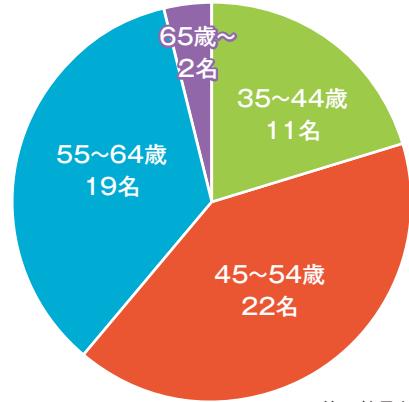
グローバル人間共生科学の創成

1-2 組織の概要

●組織の特徴

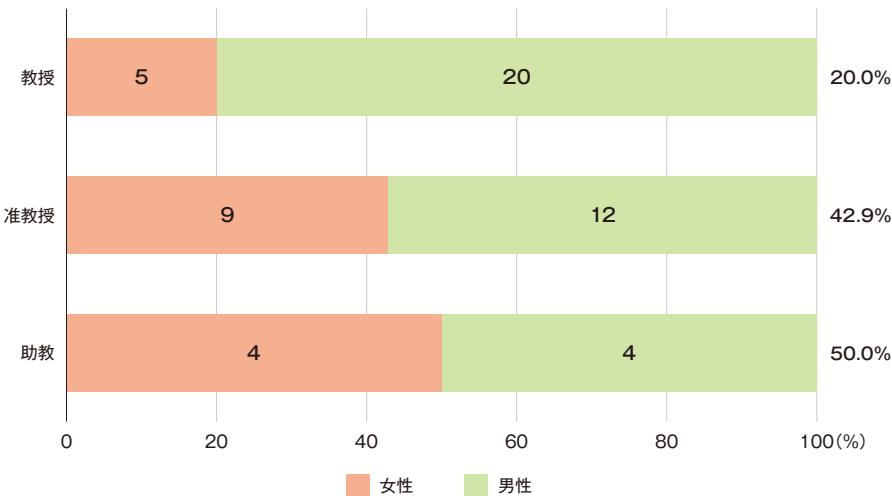
常勤教員数	55名（館長を含む）
女性	18名（32.7%）
外国人	3名（5.5%）
職員数	164名（常勤51名）
女性	125名（常勤21名）
運営費交付金	2,691百万円
敷地面積	40,821m ²
収蔵資料数	419,937点

●常勤教員の年齢構成（令和5年5月1日現在）



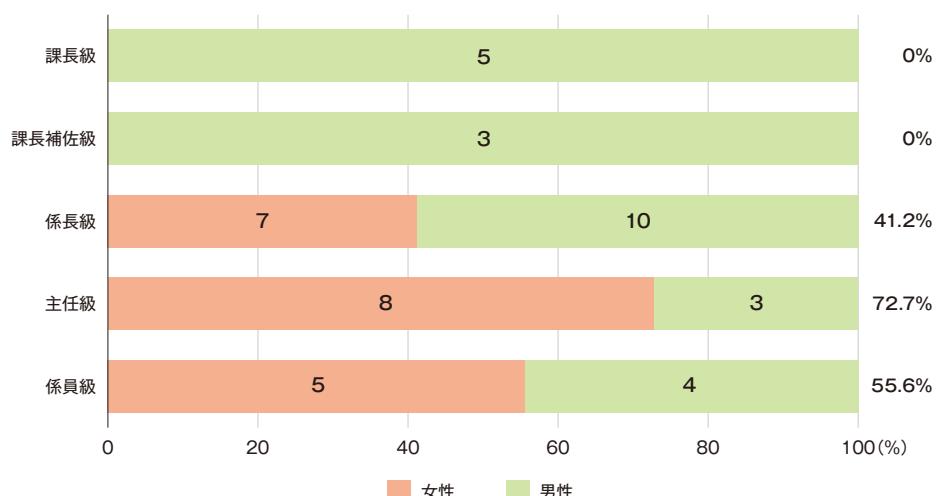
注：館長を除く

●女性教員（常勤）の職位別の数と割合

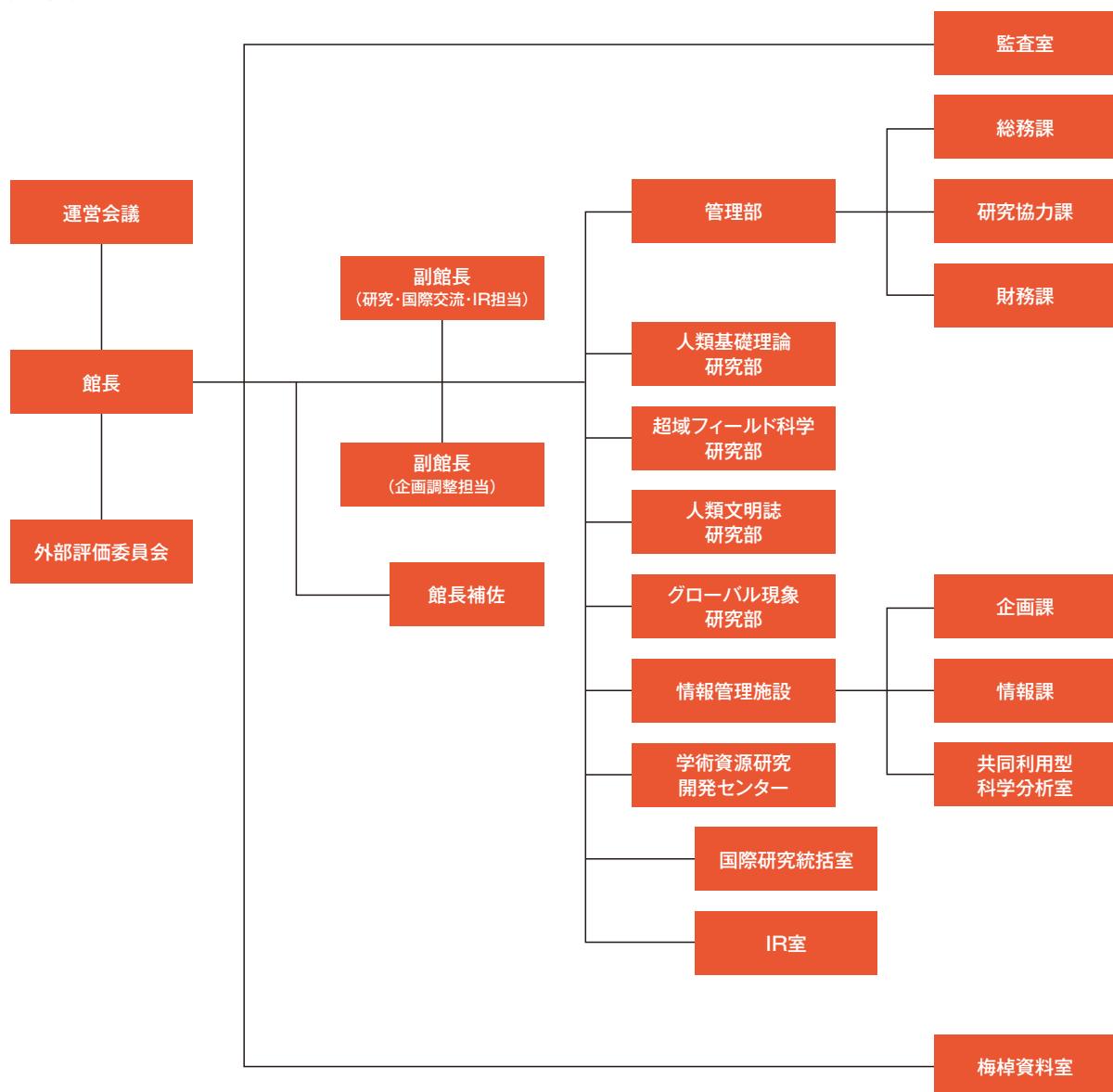


注：特任助教1名を含む。館長は含まない

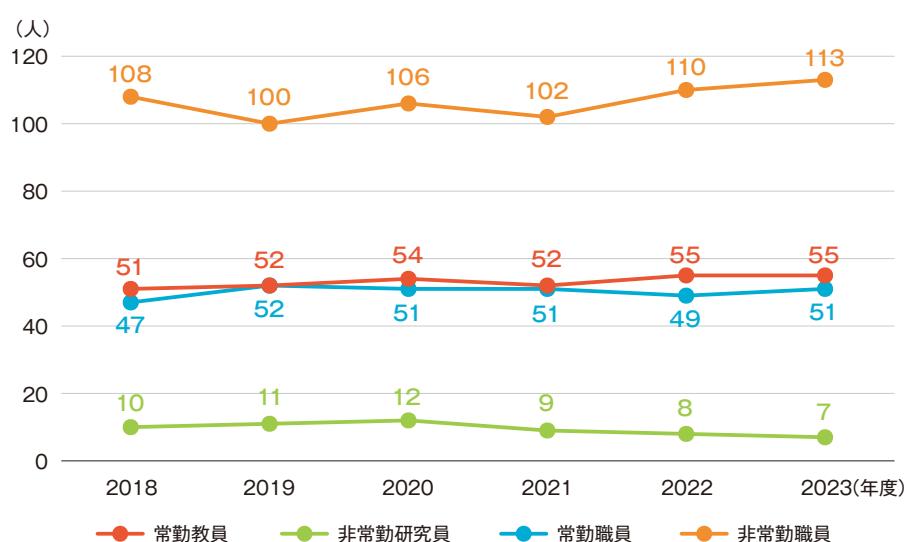
●女性職員（常勤）の職位別の数と割合



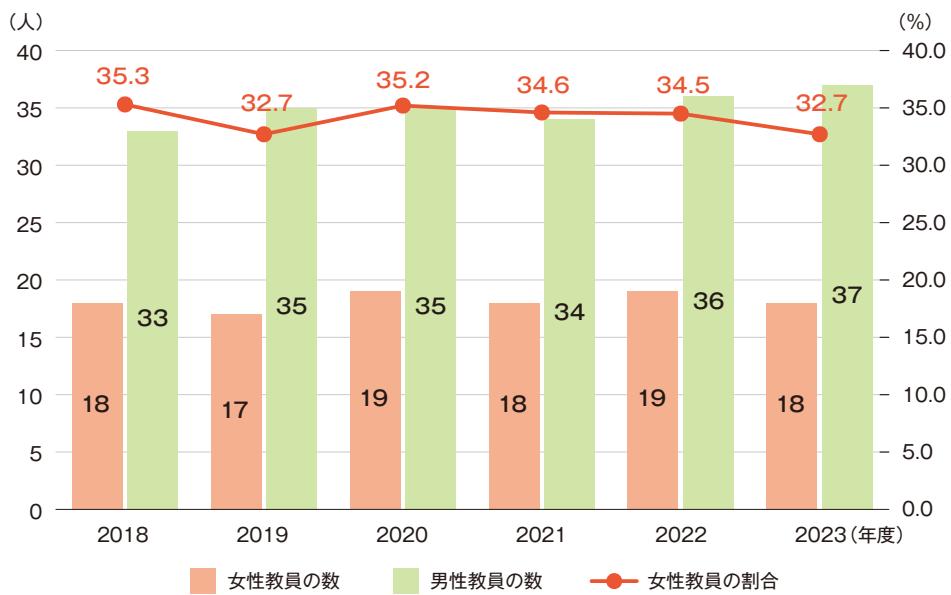
● 組織構成図



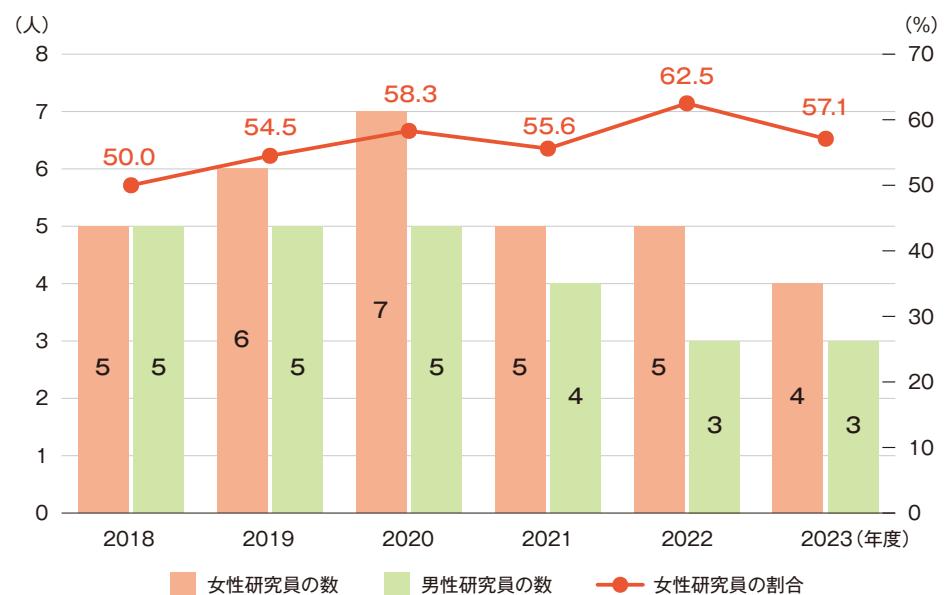
● 教職員数の推移



● 女性教員（常勤）の数と割合



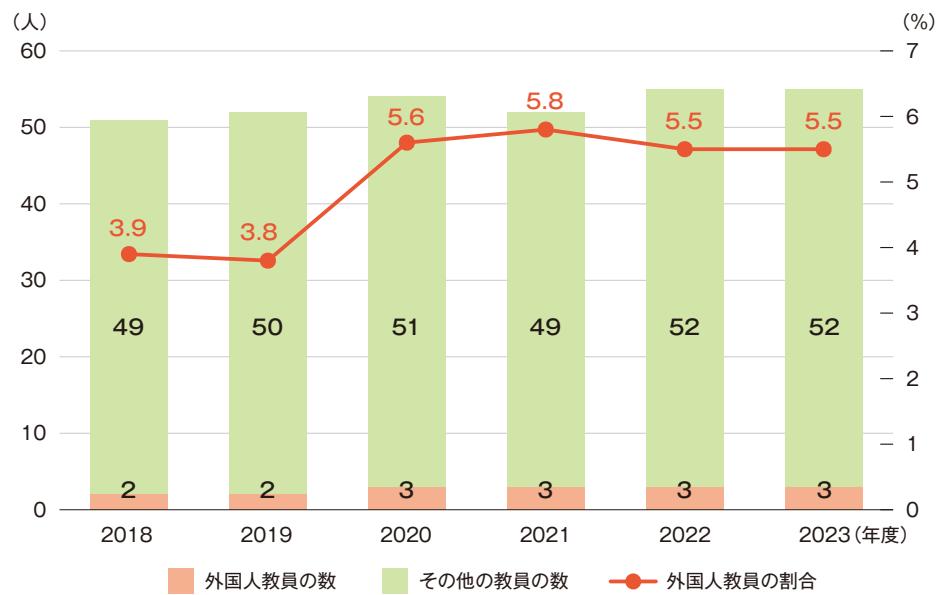
● 女性非常勤研究員の数と割合



注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

注2：非常勤研究員の数は年度内に在籍した研究員の総数

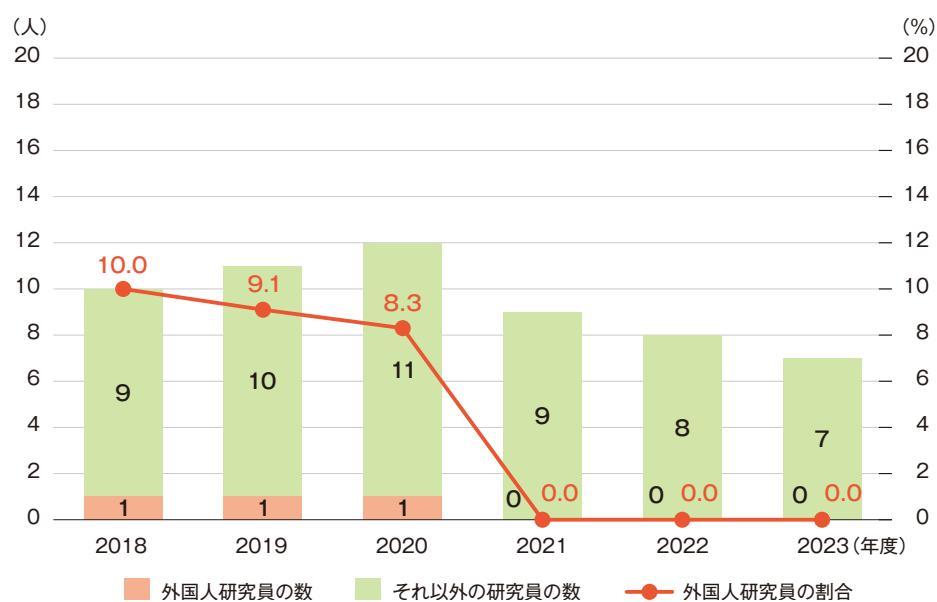
● 教員（常勤）の外国人の数と割合



注1：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

注2：外国人研究員（11頁参照）は含まない

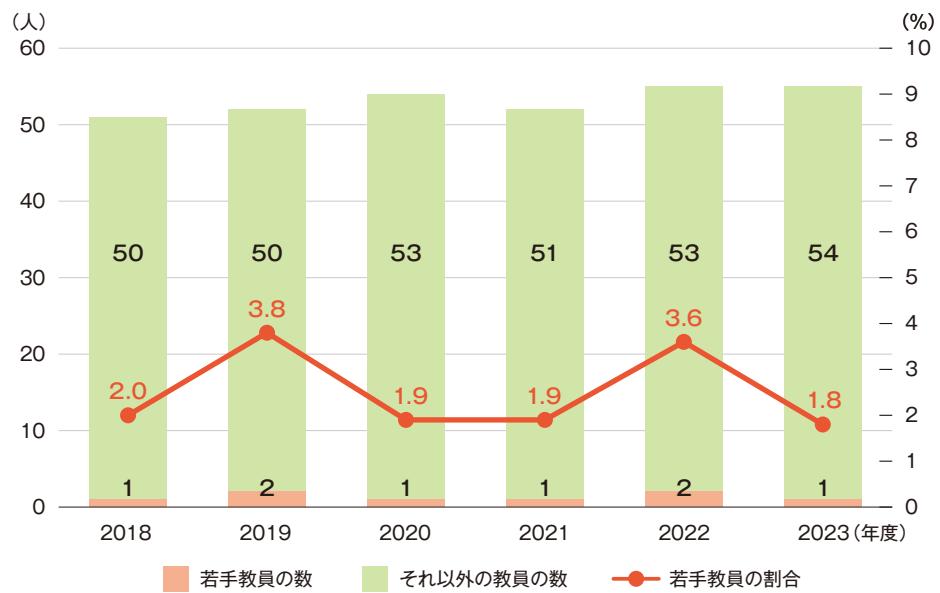
● 非常勤研究員の外国人の数と割合



注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

注2：非常勤研究員の数は年度内に在籍した研究員の総数

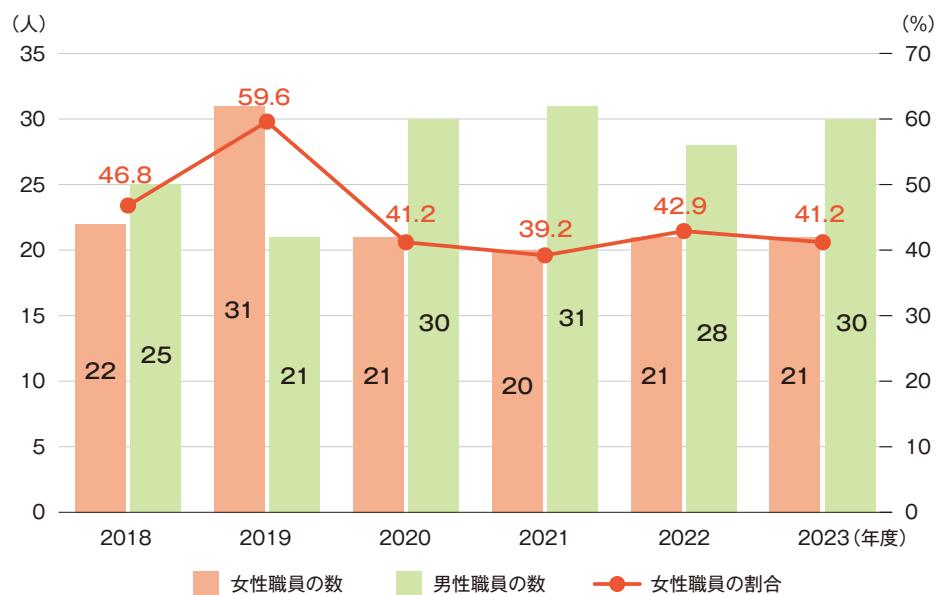
● 若手教員（常勤）の数と割合



注1：若手教員は39歳以下の教員

注2：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

● 女性職員（常勤）の数と割合



注：各年度の5月1日時点の在籍者数

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

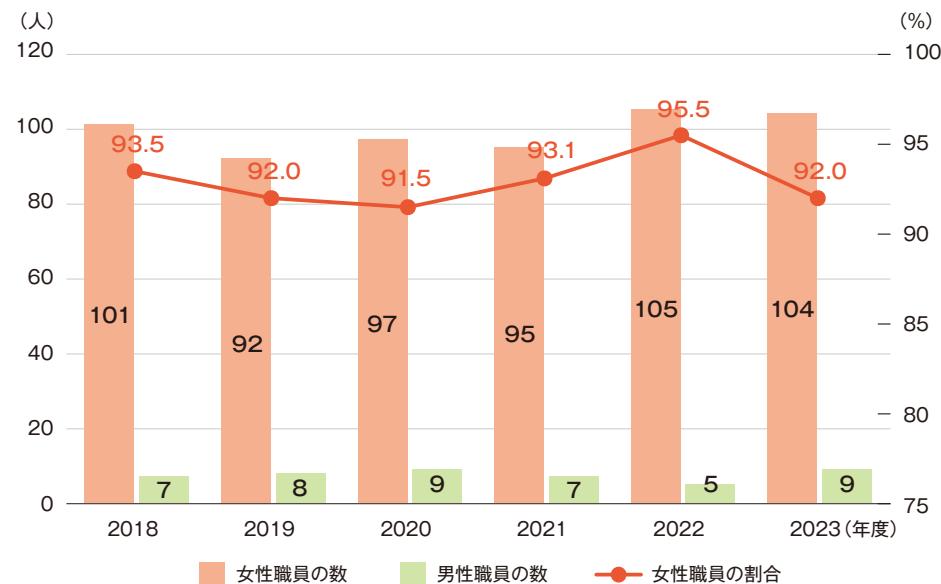
社会連携

産学連携

大学院教育

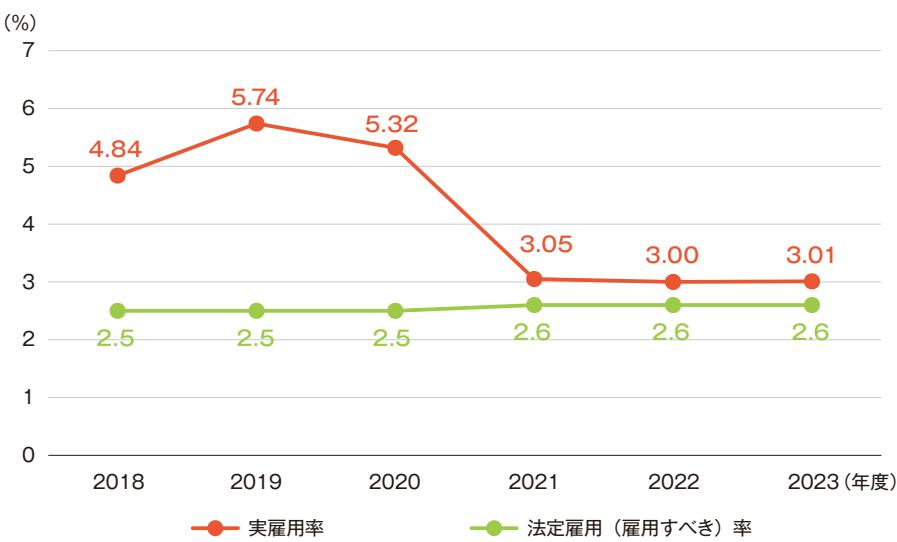
業務運営

● 女性職員（非常勤）の数と割合



注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 障がい者実雇用率



注1：雇用すべき障がい者の率は、法令によって年度ごとに定められている

注2：実雇用率は厚生労働省都道府県労働局『障害者雇用状況報告記入要領』の雇用障害者数のカウント方法によって計算されたもの

1-3 構成員の一覧

● 運営会議（令和5年4月1日現在）

館長の要請により、本館の管理運営に関する重要事項について審議する。

井野瀬久美恵 甲南大学文学部教授	岡田浩樹 神戸大学大学院国際文化学研究科教授	木川りか 九州国立博物館学芸部 博物館科学課長	窪田幸子 芦屋大学長／神戸大学名誉教授
後藤 明 南山大学人類学研究所 特任研究員	高倉浩樹 東北大大学東北アジア研究センター教授	富沢壽勇 静岡県立大学副学長	中谷文美 岡山大学文明動態学研究所教授
水沢 勉 神奈川県立近代美術館館長	飯田 卓 グローバル現象研究部長	宇田川妙子 副館長（研究・国際交流・IR担当） 国際研究統括室長 IR室長	韓 敏 超域フィールド科学研究部長
岸上伸啓 副館長（企画調整担当） 情報管理施設長	園田直子 人類基礎理論研究部長	日高真吾 学術資源研究開発センター長	福岡正太 人類文明誌研究部長
南 真木人 超域フィールド科学研究部教授 (総合研究大学院大学先端学術院先端学術專攻人類文化研究コース長)			

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● 外部評価委員会（令和5年4月1日現在）

館長の要請により、本館における研究教育活動等の状況に関する点検・評価について審議する。

市川光雄 京都大学名誉教授	後小路雅弘 北九州市立美術館館長	岡崎淑子 聖心女子大学元学長／名誉教授	小坂 肇 公益財団法人りそなアジア・オセニア財団理事長
崎元利樹 公益財団法人関西・大阪21世紀 協会理事長	高野明彦 国立情報学研究所名誉教授	田中雅一 国際ファッショント専門職大学副学長	出口 顕 放送大学島根学習センター所長
宮原千絵 独立行政法人国際協力機構 JICA 緒方研究所副所長			

● 研究部教員の一覧 (令和6年3月31日現在)

研究部	館長	吉田憲司		
	副館長（企画調整担当）	岸上伸啓		
	副館長（研究・国際交流・IR担当）	宇田川妙子		
人類基礎理論研究部	職名・研究部門	教 授	准教授	助 教
	研究部長	園田直子		
	第一超域	笛原亮二 廣瀬浩二郎	末森 薫	
	第二超域		岡田恵美 吉岡 乾	
	第三超域	菊澤律子	丸川雄三 平野智佳子	宮前知佐子
				※市野進一郎
超域フィールド科学研究所	研究部長	韓 敏		
	第一超域	樺永真佐夫	太田心平 奈良雅史	
	第二超域	南 真木人	菅瀬晶子 松尾瑞穂	
	第三超域	宇田川妙子（副館長） 新免光比呂 ピーター・J・マシウス		藤井真一
人類文明誌研究部	研究部長	福岡正太		
	第一超域	平井京之介	齋藤玲子 藤本透子	鈴木昂太
	第二超域	池谷和信 山中由里子	上羽陽子	
	第三超域	齋藤 晃	伊藤敦規 松本雄一	
グローバル現象研究部	研究部長	飯田 卓		
	第一超域	卯田宗平 信田敏宏		諸 昭喜
	第二超域	三尾 稔	相島葉月 鈴木英明	
	第三超域	丹羽典生	中川 理 八木百合子	黒田賢治
学術資源研究開発センター	センター長	日高真吾		
	第一超域	島村一平 野林厚志	小野林太郎 寺村裕史	
	第二超域		川瀬 慶 三島禎子	
	第三超域	岸上伸啓（副館長） 鈴木 紀		河西瑛里子
	人文知コミュニケーター			※ (工藤さくら)

注釈1：※は特任研究員を示す

注釈2：(工藤さくら) は併任特任助教（人間文化研究機構所属）

● 特定教授

本館の名誉教授のうち、科学研究費助成事業等研究助成の交付を代表者として受け、本館において研究活動を実施し、かつ、本館の研究活動の発展に寄与すると認められた者。

出口正之	長野泰彦	關 雄二	竹沢尚一郎
森 明子	西尾哲夫	鈴木七美	

● 特別客員教員

本館において必要とする高度な知識と経験を有する者として委嘱を受けた者。

北原モコットウナシ 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授	植村幸生 東京藝術大学音楽学部教授	片岡 樹 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授	白井千晶 静岡大学人文社会科学部教授
落合雪野 龍谷大学農学部教授	山内由理子 東京外国语大学大学院総合国際研究院准教授	中尾世治 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科助教	岩谷洋史 姫路獨協大学人間社会学群講師
山口未花子 北海道大学文学研究院准教授	土井清美 二松学舎大学文学部准教授		

● 機関研究員

古沢ゆりあ (R5.10.1着任)	松本文子
-------------------	------

● プロジェクト研究員

石山 俊	河村友佳子	小林直明	竹本直也
橋本沙知			

● 人間文化研究機構研究員

グローバル地域研究プログラム総括 班事務局	グローバル地中海地域研究プロジェ クト	環インド洋地域研究プロジェクト	海域アジア・オセアニア研究プロ ジェクト
伊東さなえ (R5.7.1着任) 特任助教	岡本尚子 特任助教	松井 梢 特任助教	門馬一平 特任助教
東ユーラシア研究プロジェクト	コミュニケーション共生科学の創成	人文知コミュニケーション	人文知コミュニケーション
赤尾光春 特任助教	相良啓子 特任助教	神野知恵 (R6.1.31退職) 特任助教	工藤さくら (R6.2.1着任) 特任助教
デジタル・ヒューマニティーズ (DH) 促進事業担当			
永井正勝 (R5.7.1着任) 特任教授			

● 外国人研究員

YU Pei-Lin	CHOI Eunsoo	HITCHCOCK, Robert K.	STRANG, Thomas John Kenneth カナダ保存研究所 名誉研究員
ボイジー州立大学 特任准教授	国立民俗博物館 (韓国) 学芸員	ニューメキシコ大学 教授	

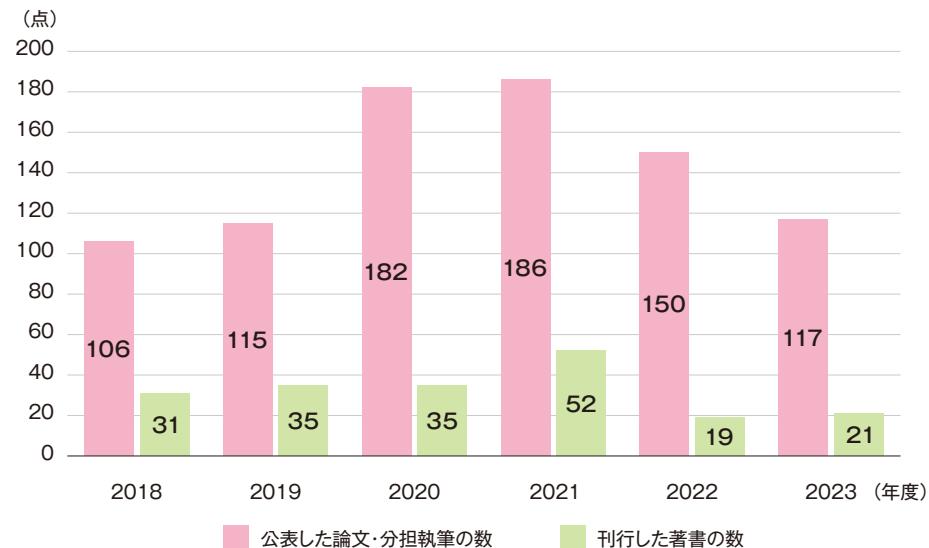
2 研究

2-1 令和5年度の研究業績

● 令和5年度の研究成果

著書	21 冊
論文・分担執筆	117 編 (うち査読つき44編)

● 公表した論文・分担執筆と刊行した書籍の数の推移



● 令和5年度に開催した研究集会の数と参加者総数

研究集会の種類	開催回数	参加者の総数 (人)
国際シンポジウム	8	1,627
国内シンポジウム	5	526
研究会等 (国際)	1	24
研究会等 (国内)	32	543
計	46	2,720

● 国際シンポジウム一覧

No.	実施日	タイトル	開催場所	参加者数 (人)
1	□ 2023年8月5日	「大エジプト博物館のいま—ファラオの至宝をまもる2023」	みんぱくインテリジェントホール	347
2	□ 2023年9月23日~24日	国際シンポジウム・ワークショップ「GISを用いて言語情報と非言語情報をつなぐ」	民博第4セミナー室	145
3	□ 2023年11月3日~5日	共同研究会「環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究——人類史的視点から」	民博第4セミナー室	77
4	○ 2024年1月27日~28日	2023年度海域アジア・オセアニア研究（MAPS）国際シンポジウム・全体会議「移住とアイデンティティ」	京都大学稻盛財団記念館	58
5	□ 2024年2月10日~11日	みんぱく創設50周年記念国際シンポジウム「博物館における資料保存の過去、現在、そして未来」	みんぱくインテリジェントホール（講堂）	454
6	○ 2024年2月24日~25日	シンポジウム「ウクライナ文化の挑戦——激動の時代を越えて」	慶應義塾大学 日吉キャンパス	392
7	□ 2024年2月25日	みんぱく創設50周年記念・特別研究国際シンポジウム「ポストナショナリズム時代の博物館：少数／先住民文化展示の動向」	民博第4セミナー室	41
8	□ 2024年3月8日~9日	みんぱく創設50周年記念国際シンポジウム「世界の歴史を変えたガラスピース—生産・交易・美の追究—」	民博第4セミナー室	113
合計				1,627

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● 令和5年度の受賞

No.	受賞者・組織	賞の名称	授与団体名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
1	橋本沙知	第16回文化財保存修復学会奨励賞	文化財保存修復学会	R5.6	「業務用フリーザーを用いた低温処理による殺虫処理法」など
2	丹羽典生	2023年度（第3回）日本地理教育学会出版文化賞	日本地理教育学会	R5.8	『フィールドから地球を学ぶ：地理授業のための60のエピソード』（横山智／湖中 真哉／由井 義通／綾部 真雄／森本 泉／三尾 裕子【編】），古今書院，2023年3月25日出版
3	国立民族学博物館	令和5年度外務大臣表彰	外務省	R5.8	開発途上国の博物館人材育成等を目的としたJICA研修プログラムの長年にわたる実施や、専門家派遣等のJICAが実施する博物館運営・文化財保全事業への協力
4	国立民族学博物館	第17回キッズデザイン賞	特定非営利活動法人キッズデザイン協議会	R5.8	自由な発想、考える力を育む、博物館の子ども向け観覧支援ツールの開発と活用事業（子どもパンフレット、アクティビティ・カード）
5	佐藤大介、 国立民族学博物館	日本タイポグラフィ年鑑2024入選	特定非営利活動法人日本タイポグラフィ協会	R5.11	特別展「 <i>Homō loquēns</i> 「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する～」会場デザイン
6	佐藤大介、 福岡市博物館	日本タイポグラフィ年鑑2024入選	特定非営利活動法人日本タイポグラフィ協会	R5.11	巡回展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」（福岡市博物館）チラシ表面デザイン
7	廣瀬浩二郎	令和5年度文化庁長官表彰	文化庁	R5.12	視覚に頼らず、モノと触れ合うことでしか得られない情報の伝達について、博物館を舞台に先駆的な研究を展開する

TOPIC

廣瀬浩二郎教授が「令和5年度文化庁長官表彰」を受賞



廣瀬教授が「触文化（触る文化）を提倡し、触らないとわからないことや、目に見えない世界の知覚について、講演、ワークショップ、展覧会等を通じて積極的な発信を行っている。視覚に頼らず、モノと触れ合うことでしか得られない情報の伝達について、博物館を舞台に先駆的な研究を展開」しているとして、令和5年度文化庁長官表彰を受賞した。同教授は、令和2年に触文化をテーマとした特別展「ユニバーサル・ミュージアム」の実行委員長を務めた。（受賞理由は令和5年度文化庁長官表彰名簿 効績概要より）

● 令和5年度の学会等の開催

学会名	開催日	延べ参加登録者数(人)
一般社団法人文化財保存修復学会 公開シンポジウム 「博物館・美術館における保存環境管理の現在—脱炭素化に向けた 資料保存を考える」	2023年6月23日	227
第45回文化財保存修復学会大会	2023年6月24日～25日	738
日本カナダ学会第48回年次研究大会	2023年9月16日～17日	124
民族藝術学会12月例会	2023年12月9日	9
日本民俗音楽学会第12回研究例会	2024年3月9日	30
日本オセアニア学会第41回研究大会・総会	2024年3月24日～25日	30

2-2 研究出版活動

組織

館内の出版物

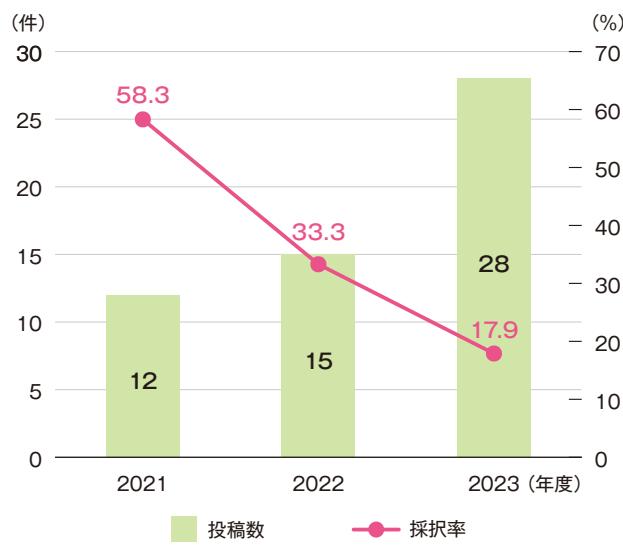
令和5年度 逐次刊行物

国立民族学博物館研究報告	48巻1号、48巻2号
TRAJECTORIA	Vol. 5
民博通信 Online	No.8、No.9
Minpaku Anthropology Newsletter	Number 56、Number57

研究

共同利用

TRAJECTORIA の投稿数と採択率の推移

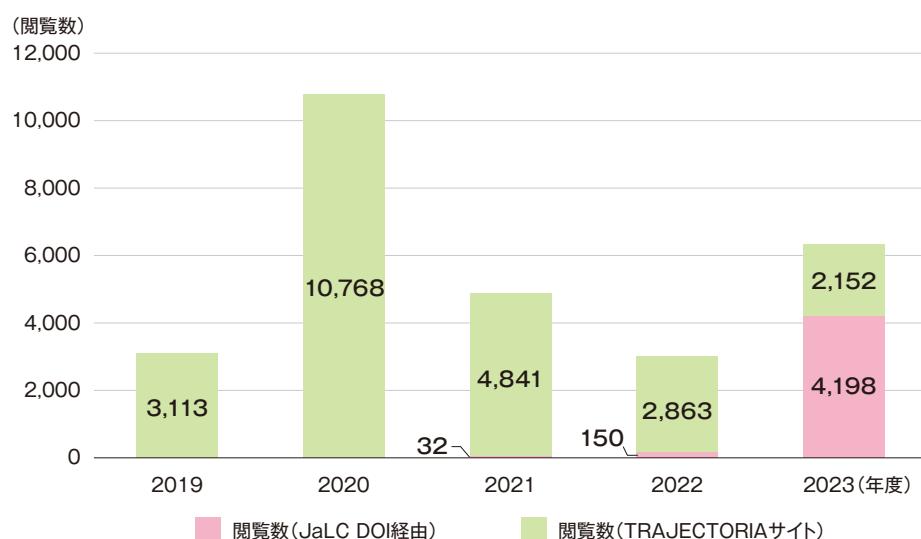


展示

国際連携

社会連携

TRAJECTORIA 掲載記事の閲覧数



産学連携

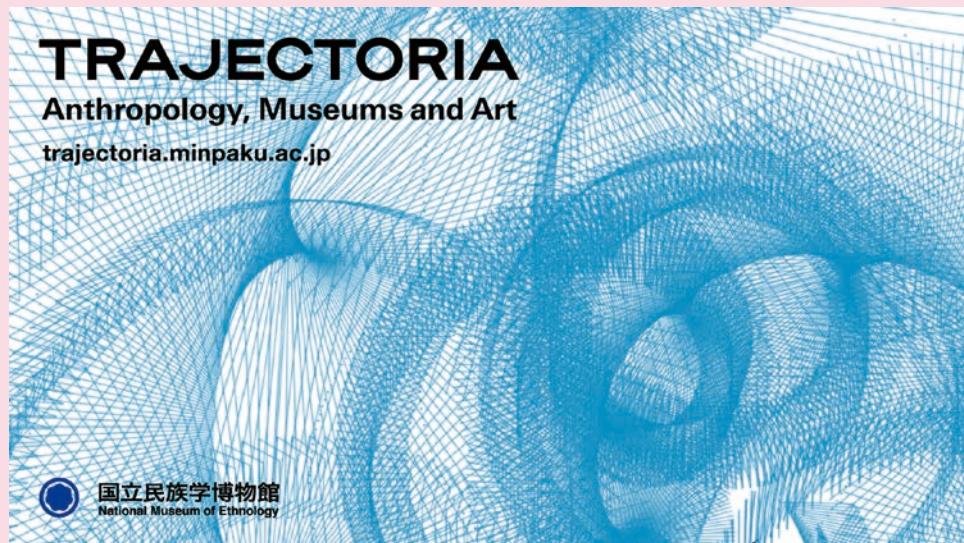
大学院教育

業務運営

注1：閲覧数（JaLC DOI経由）はジャパンリンクセンター（JaLC）で登録されたDOIから閲覧した数
注2：ジャパンリンクセンターでのDOI登録は2021年度から開始

TOPIC

査読付き国際マルチメディア・オンラインジャーナル TRAJECTORIA



TRAJECTORIA は国立民族学博物館が年1回刊行する査読付き国際マルチメディア・オンラインジャーナル。様々なメディアの組み合わせを通して人類学、文化遺産、ミュージアム、アートに関する研究とその成果公開における新たな地平の開拓を目指す。

令和6年3月27日に『TRAJECTORIA Vol.5』を刊行。マルチメディア論文4件及びTRAJECTORIA 顧問(Consulting Board)によるレポート1件を、広く世界中の研究者及び一般の人々にオープンアクセスとして提供した。

本館助成による館外出版物

● 令和5年度

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
風間計博・丹羽典生（編） 移住・他者接触の経験	記憶と歴史の人類学—東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・ 移住・他者接触の経験	風響社
河合洋尚・奈良雅史・ 韓 敏（編）	中国民族誌学—100年の軌跡と展望	風響社
岸上伸啓（編）	北太平洋の先住民文化—歴史・言語・社会	臨川書店
劉麟玉・福岡正太（編）	音盤を通してみる声の近代—日本、上海、朝鮮、台湾	スタイルノート

みんぱく映像民族誌

● 令和5年度

タイトル	監修
第50集 カンボジア少数民族のくらしとゴング音楽	寺田吉孝・福岡正太
第51集 韓国の雅楽と旅芸人	櫻井哲男
第52集 20世紀の証言 モンゴル—工業・牧畜・農業—	小長谷有紀

2-3 みんぱくで実施した研究プロジェクト

特別研究

国内外の学術研究の動向や社会的な要請を踏まえ、新たな学問分野の創出に向けて実施する挑戦的な研究。2022年度から第4期中期目標期間においては、「ポスト国民国家時代における民族」という共通タイトルのもと、5つの研究プロジェクトを構成し実施している。なお、2023年度は、第3期の「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」における最後のプロジェクト3つが終了した。

● ロードマップ

共通テーマ：ポスト国民国家時代における民族

テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
民族と博物館	ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦—少数/先住民族の文化をいかに展示するか	鈴木 紀	R4.4.1		R7.3.3				
民族と国家	個人、帰属集団、国家の意思をめぐる相克の解明と多文化国家の実現	野林厚志		R5.4.1		R8.3.31			
民族と歴史	ルーツをめぐる政治学と共生の技法—ポスト国民国家時代の民族と「歴史」	松尾瑞穂			R6.4.1		R9.3.31		
民族と宗教	民族と宗教—もつれ合う排他性と包摂性	奈良雅史				R7.4.1		R10.3.31	
民族と暴力	政治的暴力・コンフリクトと民族	丹羽典生					R8.4.1		R11.3.31

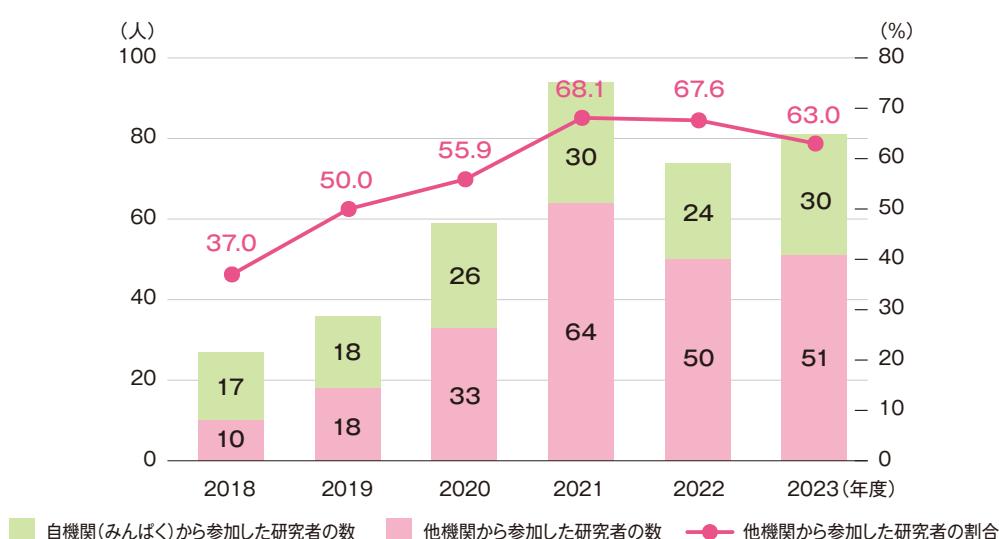
統一テーマ：現代文明と人類の未来—環境・文化・人間

テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
環境問題と生物多様性	生物・文化的多様性の歴史生態学 —稀少動物・稀少植物の利用と保護を中心に—	池谷和信 岸上伸啓		H28.7.1	H31.3.31					
食料問題とエコシステム	食料生産システムの文明論	野林厚志		H29.4.1		R3.3.31				
マイノリティと多民族共存	パフォーミング・アーツと積極的共生	寺田吉孝 福岡正太		H30.4.1					R6.3.31	
文化遺産とコミュニティ	デジタル技術時代の文化遺産におけるヒューマニティとコミュニティ	飯田 卓			H31.4.1	R4.3.31				
文化衝突と多元的価値	グローバル地域研究と地球社会の認知地図 —わたしたちはいかに世界を共創するのか？	西尾哲夫				R2.4.1	R5.3.31			
人口問題と家族・社会	不確実性の時代における家族の潜勢力 —モビリティ、テクノロジー、身体	森 明子 中川 理				R3.4.1		R6.3.31		
現代文明と感染症	コロナ禍に対するローカルな対処としての「文化の免疫系」に関する比較研究	島村一平				R2.12.25		R6.3.31		

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による計画変更

- ・「マイノリティと多民族共存」に関するプロジェクトは、当初計画を変更し、研究期間を延長
- ・「現代文明と感染症」に関する緊急枠は、当初計画に追加し、令和2年度に新設

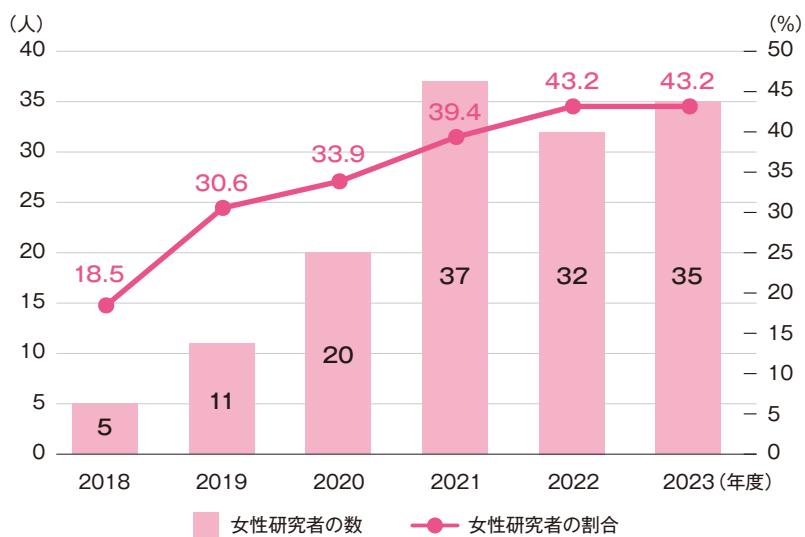
● 特別研究に他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務以外の外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

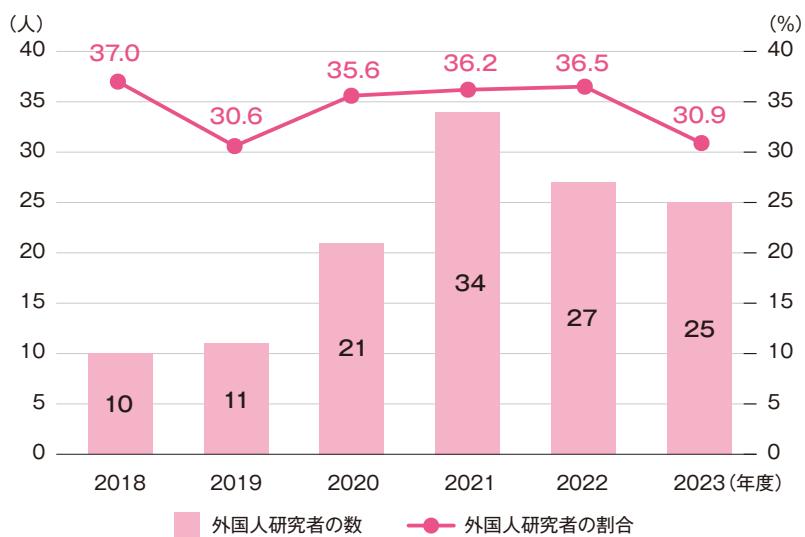
注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 特別研究に参加した女性研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 特別研究に参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

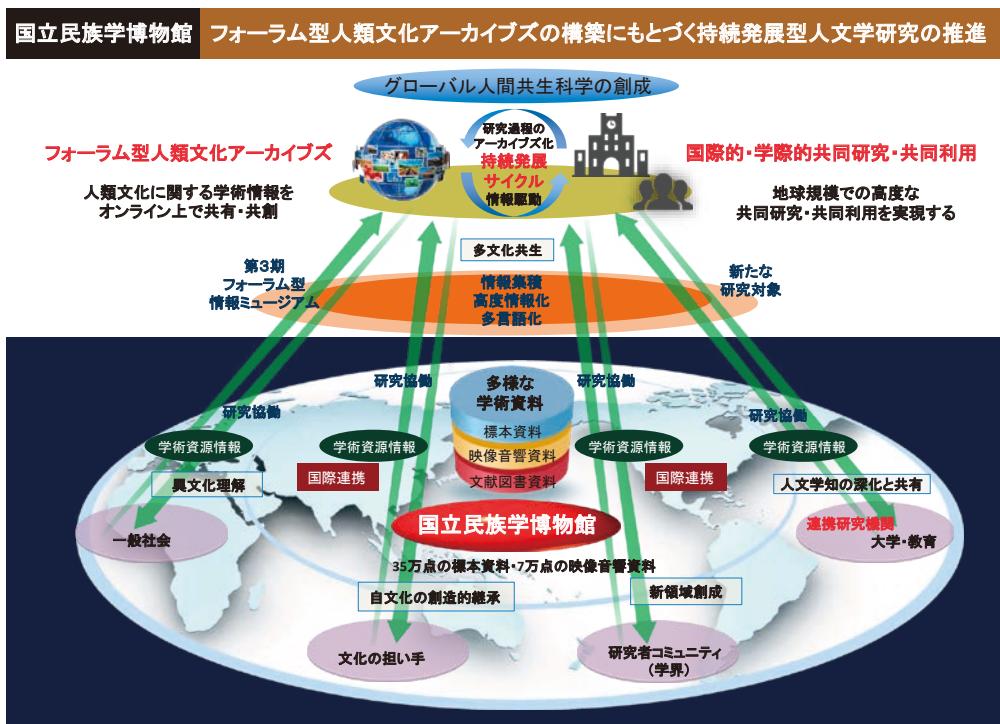
● 令和5年度の成果刊行書籍

著者／編者	著書	出版社
	該当なし	

フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト

現地社会との協働による国際的な共同研究の推進により、本館所蔵の学術資源をオンライン上で広く一般に発信する多言語型「人類文化アーカイブズ」を構築し、文化人類学・民族学及びその関連分野の学術資源の継承と国際的な共有財産化を可能とする教育研究活動の中核基盤拠点を形成することを目的とした研究プロジェクト。

なお、本プロジェクトは2016~2021年度の「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」を発展的に継承したものであり、以降、「フォーラム型プロジェクト」という名称を用いる場合には、両プロジェクトを指す。



● フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト一覧

区分	課題名	研究代表者	研究期間(年度)	研究期間
基盤型	オーストラリア先住民の物質文化に関する研究—民博収蔵の学術資料を中心	平野智佳子	2022-2025 (令和4-7)	2022.4- 2026.3
基盤型	日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブズの構築	丹羽典生	2022-2025 (令和4-7)	2022.4- 2026.3
推進型	徳之島・奄美大島の芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムのデータベースを基盤とした芸能研究の推進とその成果としてのマルチメディア番組及び展示の制作・公開	笹原亮二	2022-2023 (令和4-5)	2022.4- 2024.3
推進型	第一次東南アジア稻作民族文化総合調査のアーカイブズ構築—タイの写真資料を中心	平井京之介	2022-2023 (令和4-5)	2022.4- 2024.3
推進型	台湾研究デジタル統合アーカイブの構築	野林厚志	2022-2023 (令和4-5)	2022.4- 2024.3
推進型	20世紀前半のレコードに聴く東アジアの伝統音楽	福岡正太	2023-2024 (令和5-6)	2023.4- 2025.3
推進型	ペルーの文化資料に関するデジタルアーカイブズの構築と活用	八木百合子	2023-2024 (令和5-6)	2023.4- 2025.3

● 「フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト」 年次計画表

基盤型4年、推進型2年



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

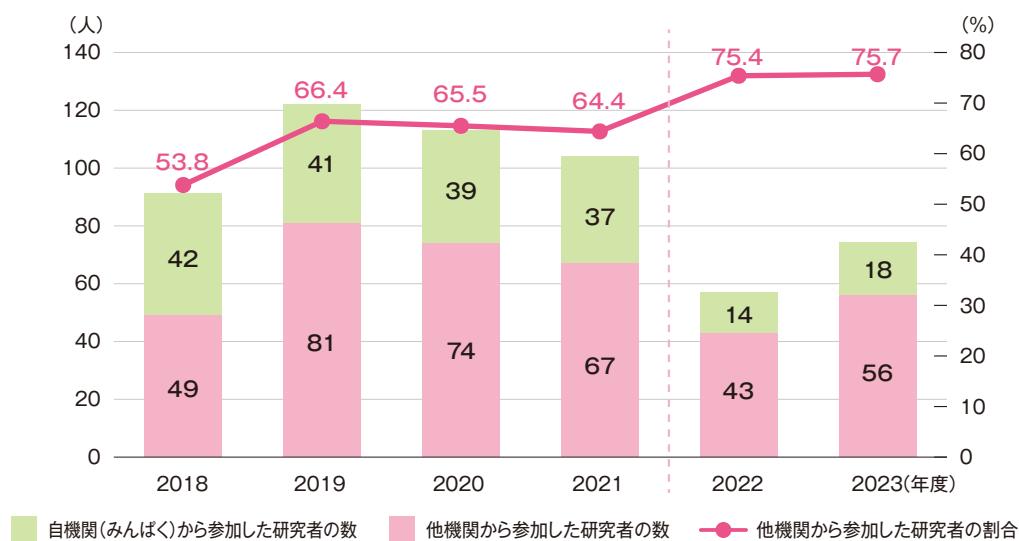
社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

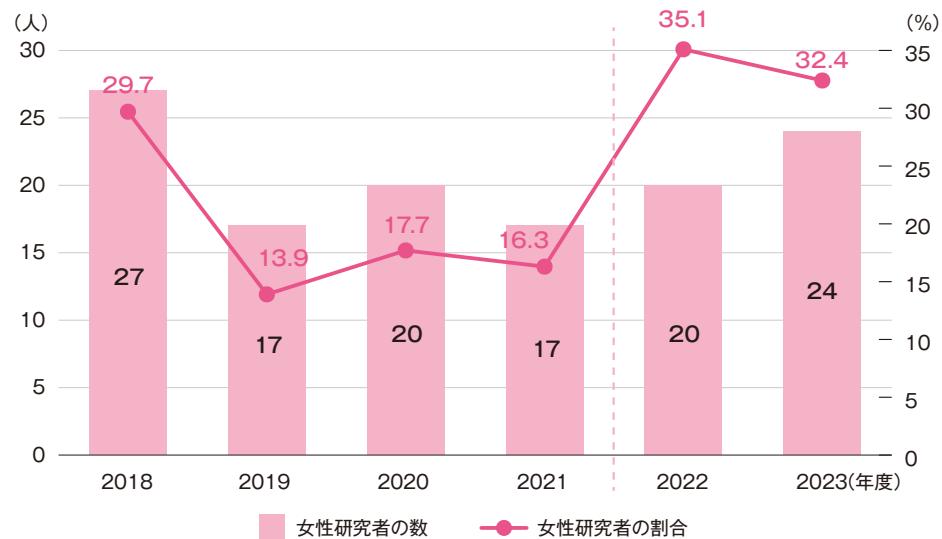
● フォーラム型プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

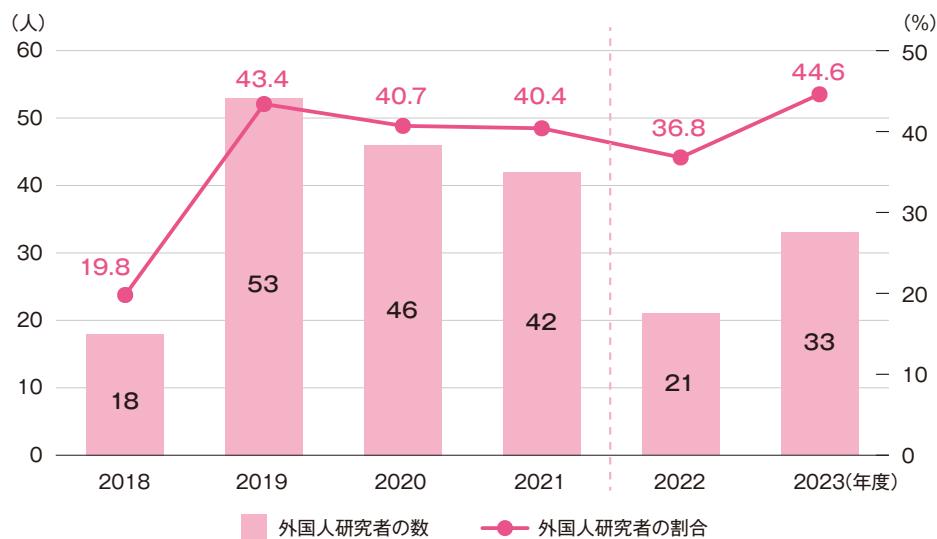
注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型プロジェクトに参加した女性研究者の数と割合



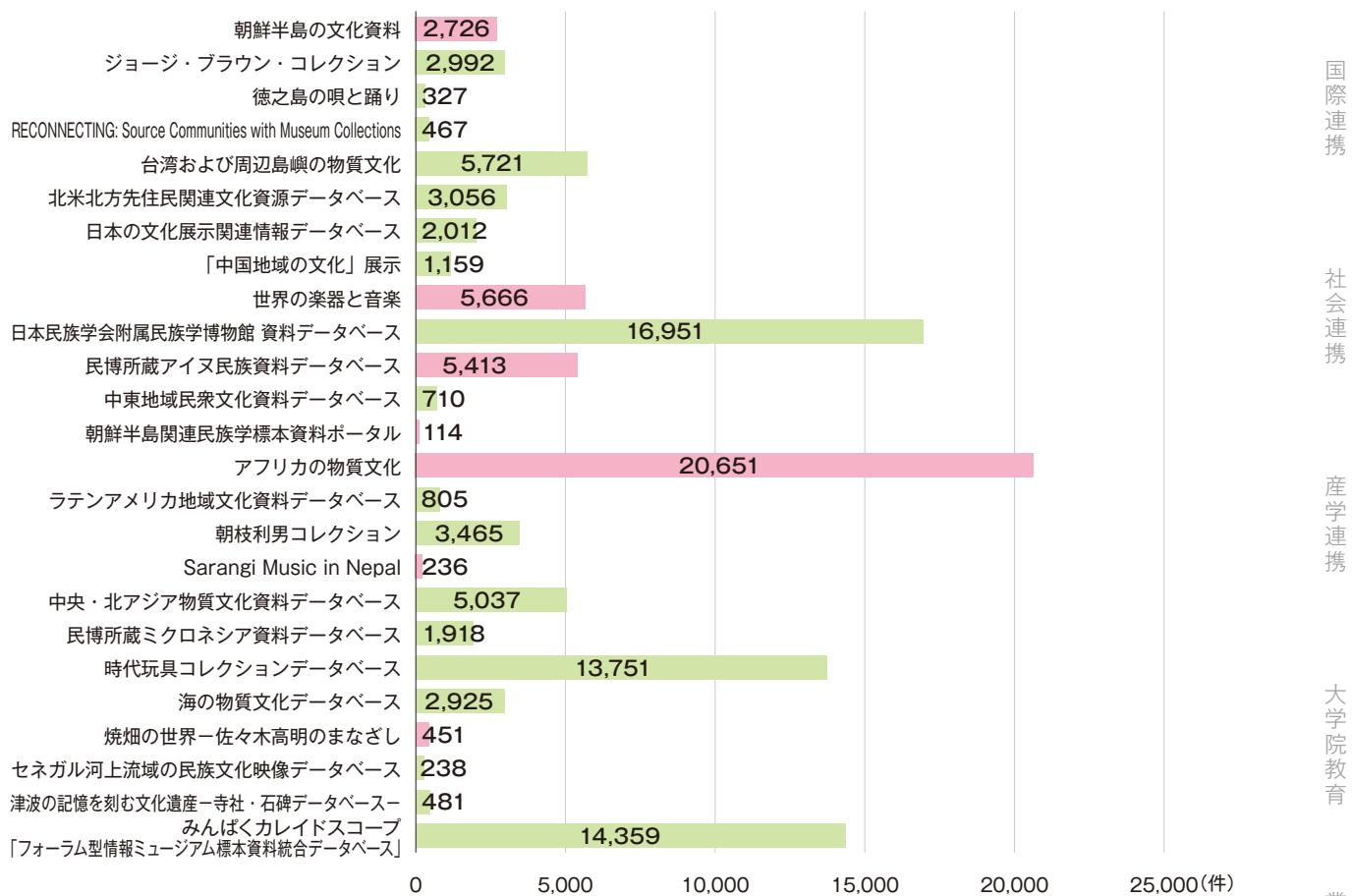
注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型プロジェクトに参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型プロジェクトで構築したデータベースの資料件数 (2024年3月31日時点)



注1：一般公開中のデータベースは で、限定公開・制作中データベースは で示した

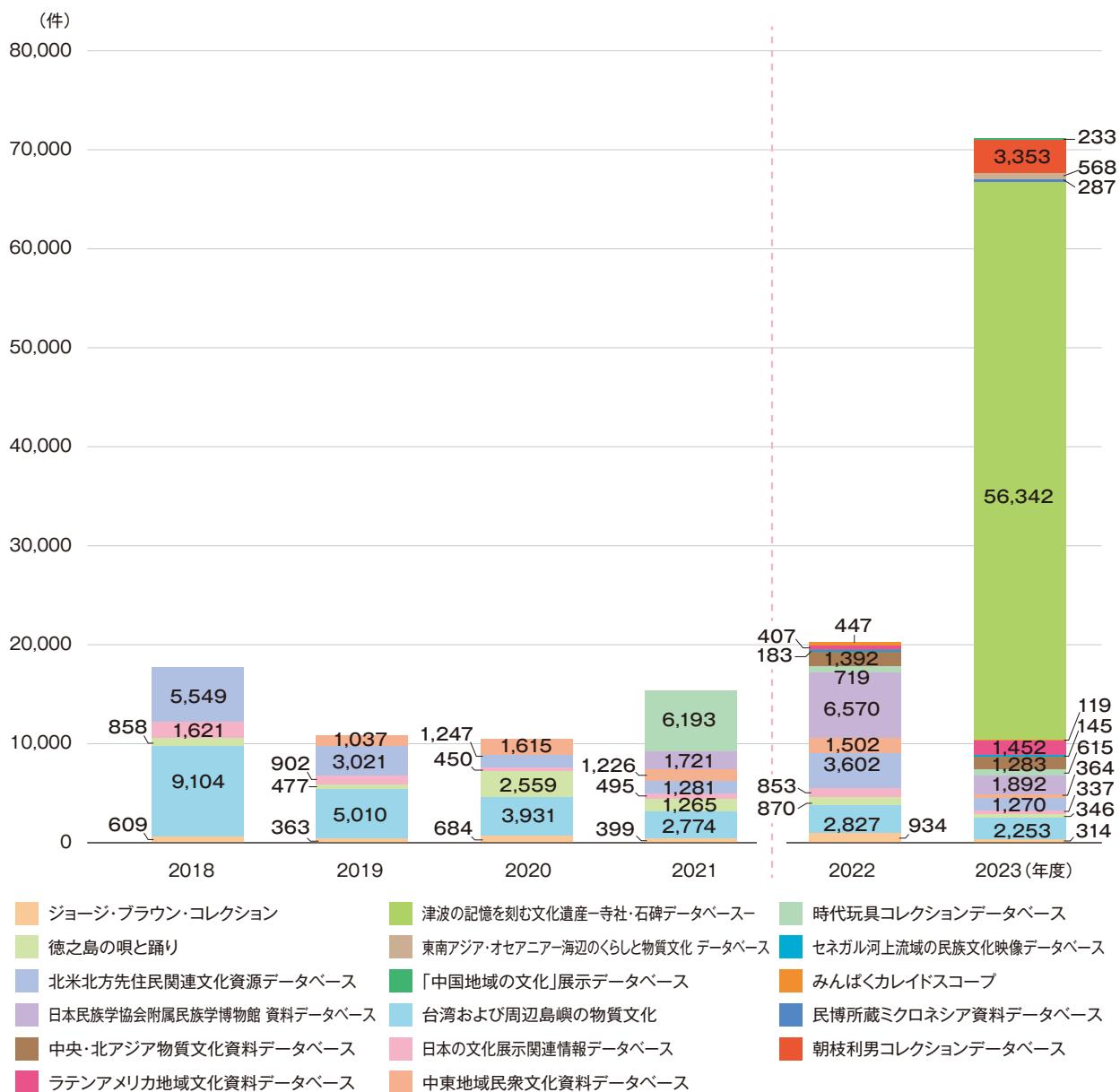
注2：「徳之島の唄と踊り」および「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」は関係者のみの利用に限定

注3：「焼畳の世界—佐々木高明のまなざし」はすでに本館のデータベースとして一般公開されているが、それをもとにしたフォーラム型データベースは構築中でまだ公開されていない

注4：「朝枝利男コレクション」は非公開資料70件を含む

注5：「海の物質文化データベース」は非公開資料10件を含む

● 一般公開されているフォーラム型プロジェクト・データベースの利用件数



注1：利用件数は表示ページの合計ではなく、各データベースで最も重要なページ（標本資料詳細画面 / 動画再生画面 / 詳細画面等）の表示件数
 注2：「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」は利用件数を未集計

● 令和5年度の成果刊行書籍

著者	書籍名	出版社
Atsunori Ito, Candice Lomahaffewa, and Ramson Lomatewama	Collections Review on 34 Silverworks Labeled "Hopi" in the Denver Art Museum: Reconnecting Source Communities with Museum Collections 11	National Museum of Ethnology

公募型共同研究

文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて館内外の専門家が共同でおこなう研究。一般と若手のふたつの区分を設けており、「共同研究（若手）」は、若手研究者を育成・支援することを目的としている。

● 令和5年度 共同研究課題一覧

一般

カテゴリー1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
1	海外フィールド経験のフィードバックによる新たな人類学的日本文化研究の試み	片岡 樹	2020.10-2024.3
2	「描かれた動物」の人類学——動物×ヒトの生成変化に着目して	山口未花子	2020.10-2024.3
3	月経をめぐる国際開発の影響の比較研究——ジェンダーおよび医療化の視点から	新本万里子	2020.10-2024.3
4	環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究——人類史的視点から	岸上伸啓	2020.10-2024.3
5	不確実性のなかでオルタナティヴなコミュニティを問う——モノ、制度、身体のからみあい	森 明子	2020.10-2024.3
6	戦争・帝国主義と食の変容——食と国家の関係を再考する	宇田川妙子	2020.10-2024.3
7	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育——ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井千晶	2021.10-2025.3
8	観光における不確実性の再定位	土井清美	2021.10-2025.3
9	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎	2021.10-2025.3
10	ミックスをめぐる帰属と差異化の比較民族誌——オセアニアの先住民を中心に	山内由理子	2022.10-2025.3
11	グローバル資本主義における多様な論理の接合——学際的アプローチ	中川 理	2022.10-2025.3
12	アジアの狩猟採集民の移動と生業——多様な環境適応の人類史	池谷和信	2022.10-2025.3
13	フォト・エスノグラフィーの実践に関する方法論の検討	岩谷洋史	2023.10-2026.3

カテゴリー2：学術資料共同利用型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
14	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村幸生	2021.10-2025.3
15	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽典生	2021.10-2025.3
16	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究——桶と樽に着目して	落合雪野	2022.10-2025.3
17	国立民族学博物館の資料収集活動に関する研究——創設後50年のレビュー	飯田 駿	2023.10-2026.3

若手

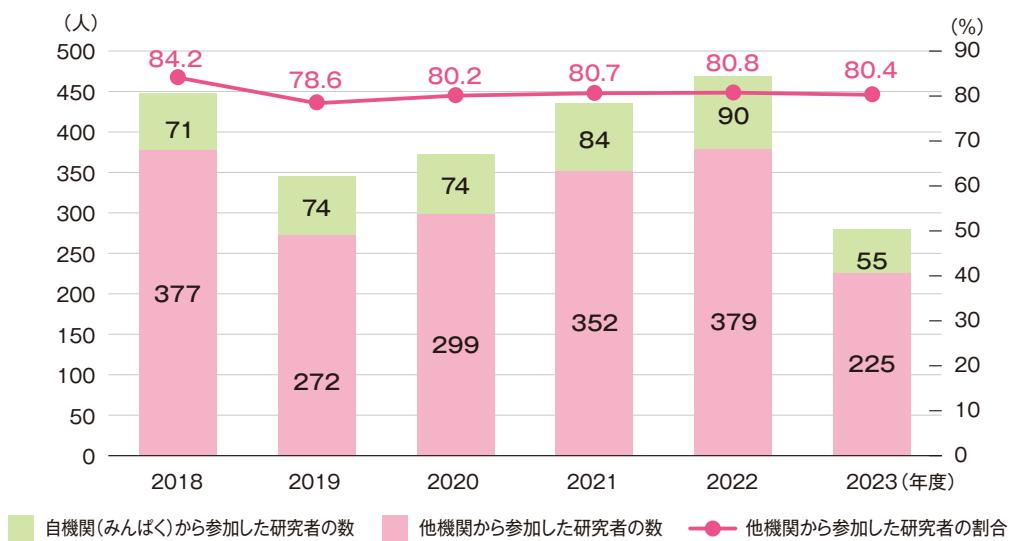
カテゴリー1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
18	伝承のかたちに「触れる」プロジェクト——「3Dプリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂慎司	2021.10-2025.3
19	アフリカの人びとはいかに「アフリカ史」を語ってきたか——アフリカのローカルな歴史からみた「アフリカ史学史」	中尾世治	2023.10-2026.3

● 公募型共同研究の実施研究課題の数と新規採択率

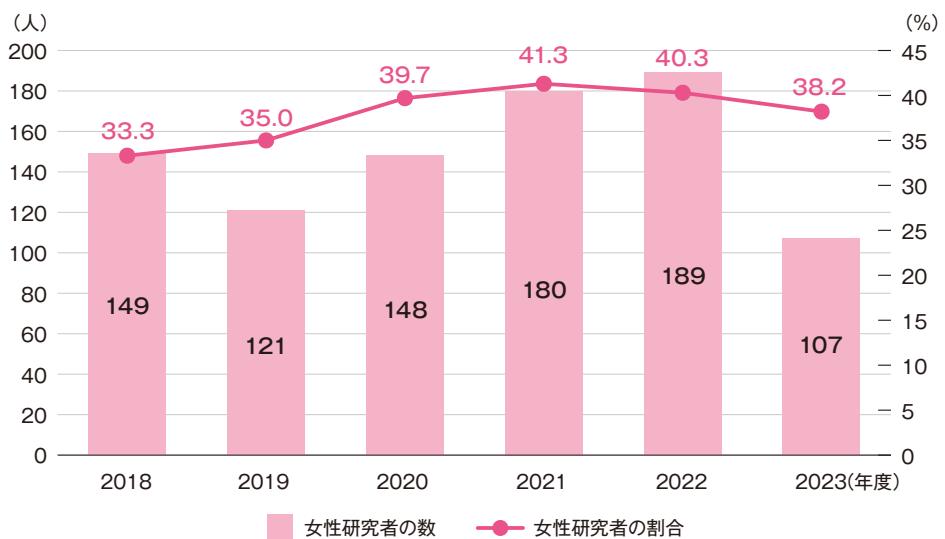


● 公募型共同研究に他機関から参加した研究者の数と割合



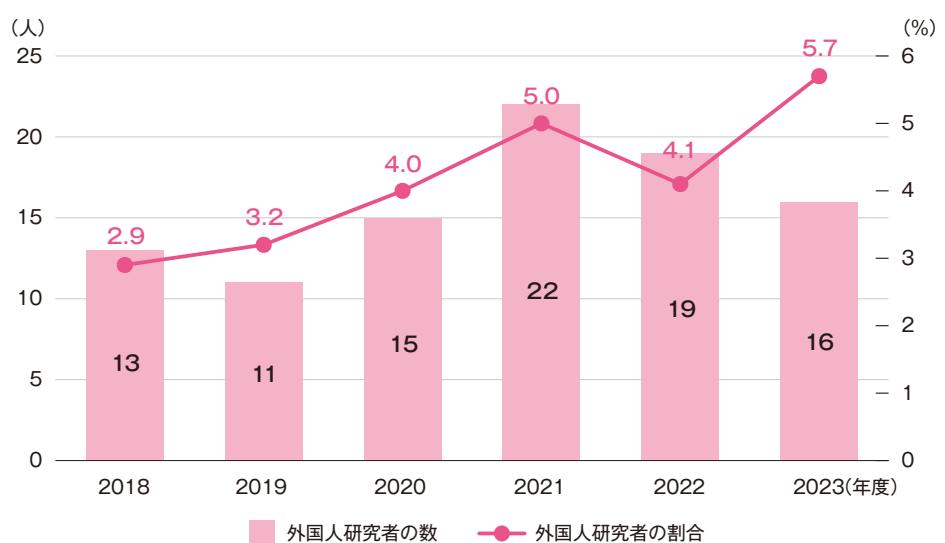
注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人間文化研究コース）所属の大学院生等を含む
注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した女性研究者の数と割合



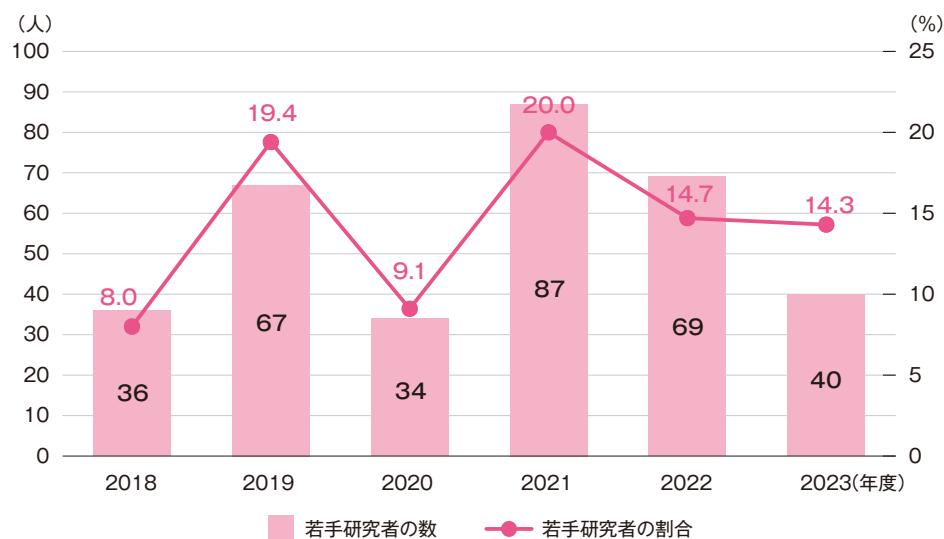
注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した若手研究者（39歳以下）の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和5年度の公募型共同研究の成果刊行書籍

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
岸上伸啓（編）	北太平洋の先住民文化—歴史・言語・社会—	臨川書店
古川不可知（編）	モビリティと物質性の人類学	春風社
風間計博・丹羽典生（編）	記憶と歴史の人類学 —アジア・オセアニアにおける戦争・植民地・他者接触の経験	風響社
劉麟玉・福岡正太（編）	音盤を通してみる声の近代—日本、上海、朝鮮、台湾	スタイルノート
河合洋尚・奈良雅史・韓 敏（編）	中国民族誌学—100年の軌跡と展望	風響社

文化資源プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

● 令和5年度 文化資源プロジェクト一覧

1 調査・収集分野（2件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
吟遊詩人の音楽実践に関わる標本資料の収集	川瀬 慶	単年度
奄美地方の豊年祭で演じられる芸能の仮面「紙面（かみでいら）」の収集	笹原亮二	単年度

2 資料管理分野 (0件)

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
該当なし		

3 展示分野 (17件)

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
特別展 「ラテンアメリカの民衆芸術」	鈴木 紀	3年計画の3年目
特別展 「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」	三尾 稔	3年計画の3年目
特別展 「日本の仮面——芸能と祭りの世界」	笹原亮二	2年計画の1年目
企画展 「北アメリカ北西海岸先住民のアート——シルクスクリーン版画の世界」	岸上伸啓	2年計画の2年目
企画展 「水俣病を伝える」	平井京之介	3年計画の2年目
巡回展 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」(福岡市博物館)	山中由里子	3年計画の3年目
巡回展 「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」 (岡山・KURUN HALL)	廣瀬浩二郎	2年計画の2年目
巡回展 「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」 (福岡・直方谷尾美術館)	廣瀬浩二郎	2年計画の1年目
巡回展 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」(国立アイヌ民族博物館)	山中由里子	2年計画の1年目
共催展示 「九州山地の焼畑文化」(五木村歴史文化交流館)	池谷和信	単年度
国際連携展示 「驚異と怪異——想像界の生きものたち」(中国巡回)	山中由里子	3年計画の1年目
特別展示 「吟遊詩人の世界」(仮題) の予備調査	川瀬 慶	4年計画の3年目
企画展 「客家と日本」(仮題) の準備	奈良雅史	3年計画の2年目
企画展 「アラビア書道のグローバルな展開——日本・西欧・中東のはざまで——」 (仮題) の準備	相島葉月	2年計画の1年目
特別展 「民具のデザイン——生活文化の造形」(仮称) 準備	日高真吾	3年計画の1年目
特別展 「シルクロードの商人（あきんど）語り——サマルカンドの遺跡と遙かなるユーラシア交流——」(仮称) 準備	寺村裕史	4年計画の1年目
特別展 「船（舟）と人類——アジア・オセアニアと海の暮らし」(仮称) 準備	小野林太郎	3年計画の1年目

4 博物館社会連携分野 (1件)

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
2022年度秋の特別展示『 <i>Homō loquēns</i> 「しゃべるヒト」ことばの不思議を科学する』の国際共同利用を想定したウェブ化準備プロジェクト	菊澤律子	単年度

情報プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の情報化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

● 令和5年度 情報プロジェクト一覧

1 制作・収集分野 (2件)

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
インド・ラージャスタン地域のガンゴール祭礼の映像音響資料収集	三尾 稔	2年計画の2年目
映像民族誌「巡りゆくベンガルの歌世界—バウルの道（前編）・ポート絵の里帰り（後編）」（仮題）の制作	岡田恵美	2年計画の1年目

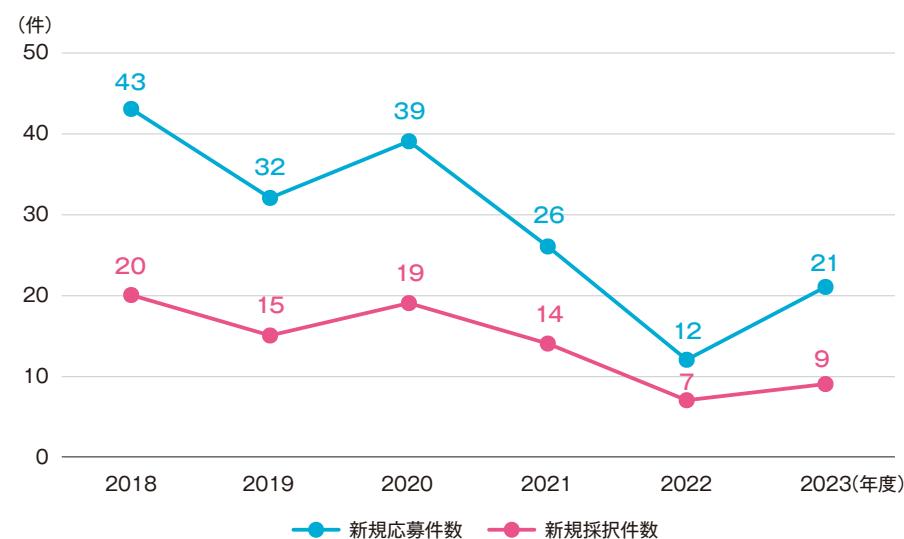
2 情報化分野 (1件)

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
「福井勝義・日本の山村文化写真」のデータベース構築	池谷和信	単年度

2-4 外部資金による研究

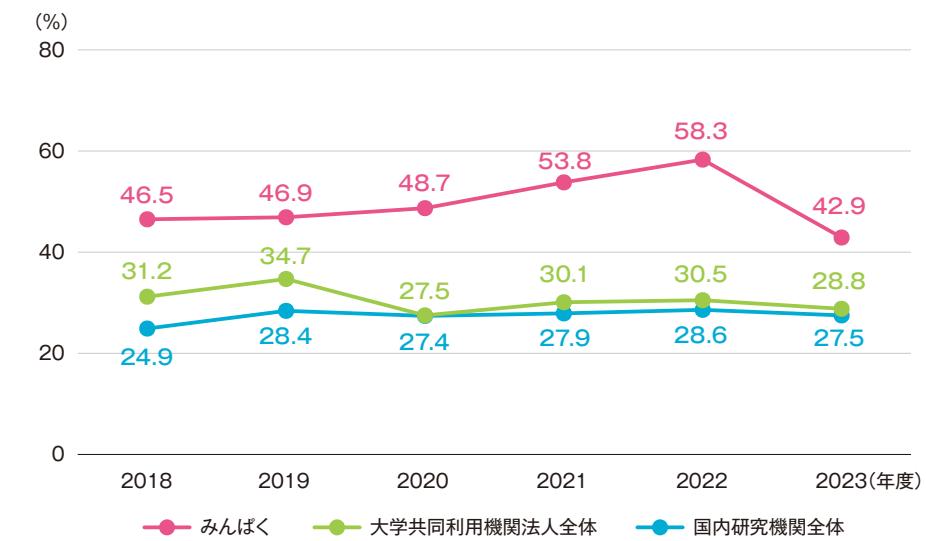
○ 科研費による研究プロジェクト

● 新規応募件数と新規採択件数



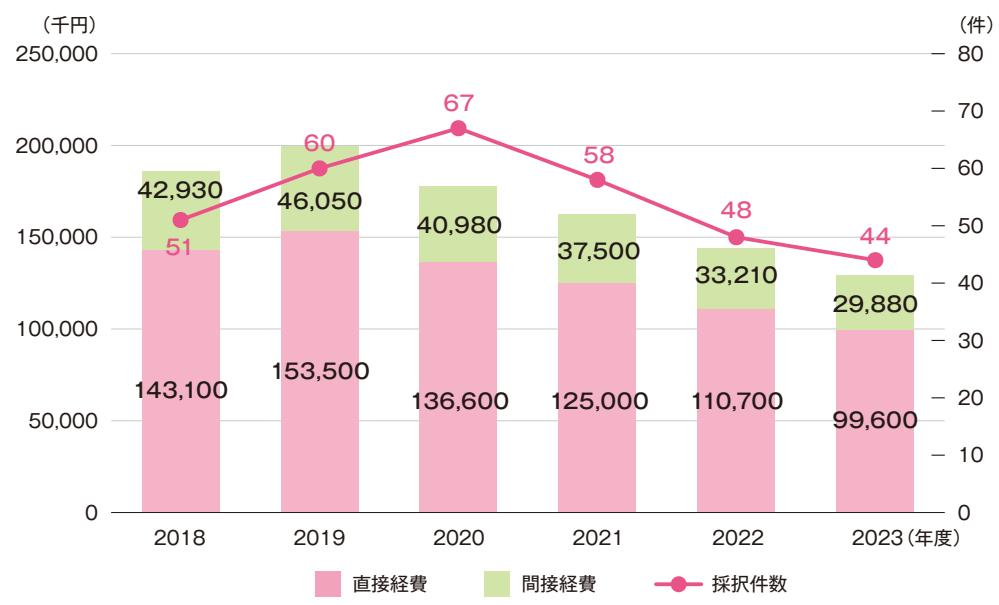
【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 新規採択率の比較



【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 採択件数（新規+継続）と配分額



【出典】日本学術振興会 科研費データ

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

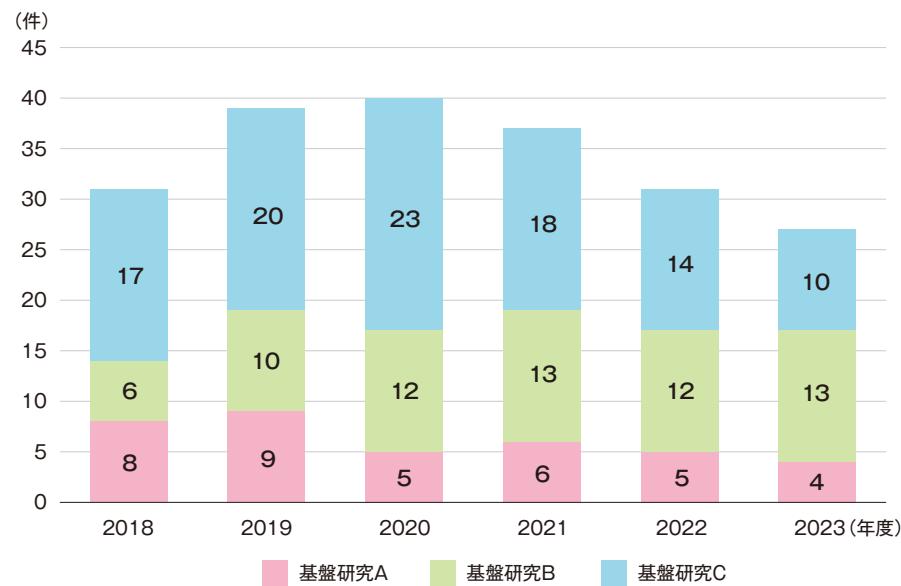
社会連携

产学連携

大学院教育

業務運営

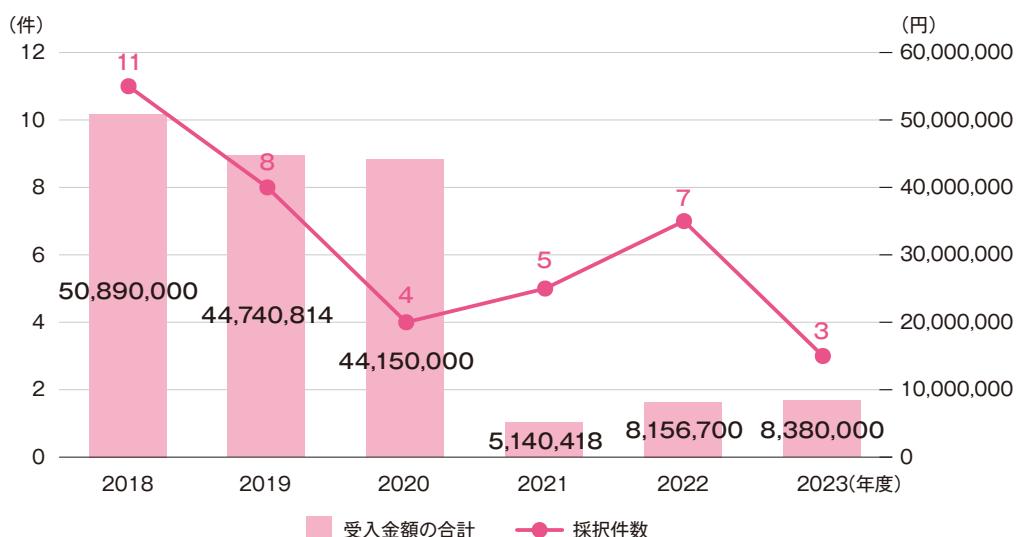
● 研究種目別採択件数（新規＋継続）



【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 民間助成などによる研究プロジェクト

● 民間助成などによる研究プロジェクトの獲得件数と受入金額



注：採択年度ではなく、入金があった年度での集計

● 助成機関の一覧 (2018~2023年度)

住友生命（未来を強くする子育てプロジェクト）	公益財団法人 味の素食の文化センター
公益信託 濵澤民族学振興基金	公益財団法人 平和中島財団
公益財団法人 日本財団	公益財団法人 日本科学協会
公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団	公益財団法人 村田学術振興財団
公益財団法人 高梨学術奨励基金	公益財団法人 JFE21世紀財団
公益財団法人 たばこ総合研究センター	一般社団法人 日本文化人類学会
公益財団法人 松下幸之助記念財団	日本力ナダ学会
公益社団法人 日本地理学会	順益台湾原住民博物館
公益財団法人 三島海雲記念財団	Australian Research Council
公益財団法人 ロツテ財団	韓国学中央研究院
公益財団法人 鹿島美術財団	The Chiang Ching-kuo Fundation for International Scholarly Exchange
公益財団法人 アイヌ民族文化財団	

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

大学院教育

業務運営

2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト

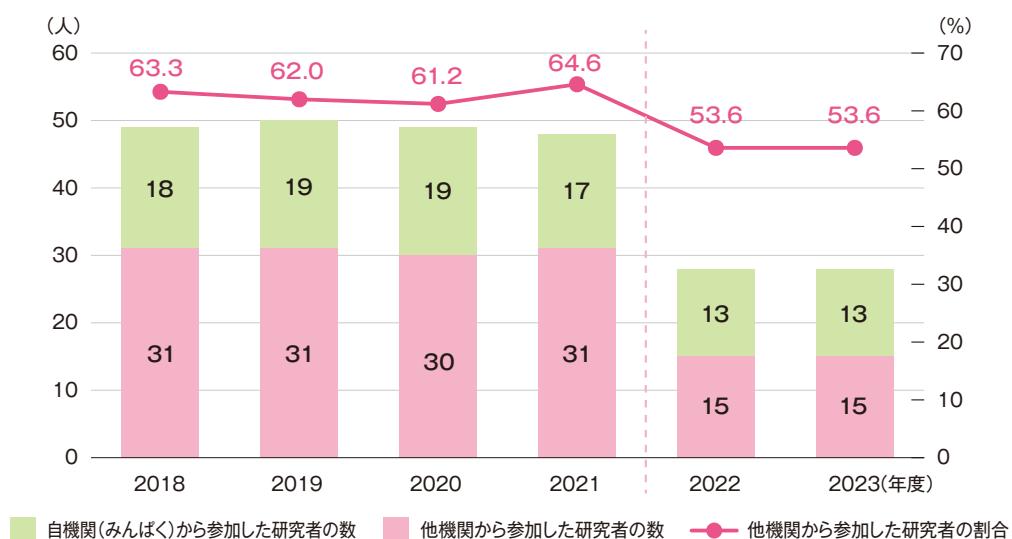
人間文化研究機構が、国内外の大学等研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資するプロジェクト。広領域連携型とネットワーク型がある。

広領域連携型 基幹研究プロジェクト

● みんぱくにおける広領域連携型基幹研究プロジェクト

プロジェクト名	概要	代表者
地域文化の効果的な活用モデルの構築	本研究は、第3期の基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」の研究活動を引き継ぎ、地域文化をテーマとした日本国内、あるいは世界各地の博物館や文化継承の活動を見ていきながら、効果的な地域文化の活用モデルの構築を図る。	日高真吾

● みんぱくの広域連携型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

注3：2021年度までは「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」、「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」のプロジェクトを実施しており、2022年度以降は「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」を実施

● 令和5年度に開催したシンポジウム等

No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1 ○	地域文化の効率的な活用モデルの構築	2023年6月23日	文化財保存修復学会第45回大会特別行事 公開シンポジウム「博物館・美術館における保存環境管理の現在」	民博インテリジェントホール (講堂)	110	113
2 □	地域文化の効率的な活用モデルの構築	2024年2月10日～11日	みんぱく創設50周年記念国際シンポジウム 「博物館における資料保存の過去、現在、そして未来」	民博インテリジェントホール (講堂)	166	276

ネットワーク型 基幹研究プロジェクト

● グローバル地域研究推進事業

本事業では、「グローバル地域研究」プログラムのもとに「グローバル地中海」「環インド洋」「海域アジア・オセアニア」「東ユーラシア」の4つの地域研究プロジェクトを設置して、ネットワーク型の地域研究を推進していきます。

4つの地域は、それぞれの占める空間の環境特性、環境に適応した生業や生活様式、それらに根差しつつ形成された統治や経済の態様などを規定要因として長期的に独自の文化・文明を形成してきました。4つの研究プロジェクトは、それぞれの文明圏域の長期的持続と現代における展開の解明を独自の視点から推進していきます。

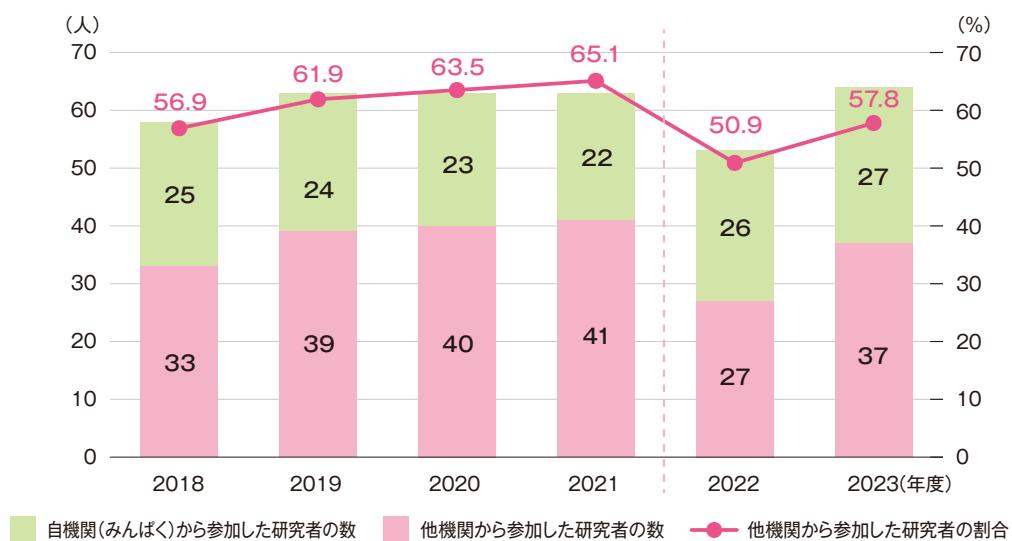
またこれと同時に、これら圏域間のヒト・モノ・情報・価値の移動と交流による諸関係の様相を、総括班としての機能を果たす「グローバル地域研究」プログラムと協働しつつ解明し、開かれた関係性の中に形成される「地域」と「グローバル」像の動態を把握してゆきます。



● みんぱくを拠点とするプロジェクト

プロジェクト名	代表者
グローバル地域研究プログラム（総括班）	三尾 稔
グローバル地中海地域研究プロジェクト（中心拠点）	西尾哲夫
環インド洋地域研究プロジェクト（中心拠点）	三尾 稔
海域アジア・オセアニア研究プロジェクト（中心拠点）	小野林太郎
東ユーラシア研究プロジェクト	島村一平

● みんぱくのネットワーク型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和5年度に開催したシンポジウム等

No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1 □	グローバル地域研究・ 海域アジア・オセアニア	2023年 6月9日	樹皮布国際ワークショップ	民博 第4セミナー室	10	32
2 ○	グローバル地域研究・ グローバル地中海	2023年 9月5日	International Workshop “Magic and the Manipulation of ‘Nature’ in Arabic, Persian, and Urdu Narratives”	民博 第4セミナー室	20	—
3 ○	グローバル地域研究・ グローバル地中海	2023年 10月7日	シンポジウム 「地中海古代語へのまなざし」	京都大学文学部 第3講義室	39	102
4 ○	グローバル地域研究・ 海域アジア・オセアニア	2024年 1月27日～ 28日	2023年度海域アジア・オセアニア研究 (MAPS) 国際シンポジウム・全体会議「移 住とアイデンティティ」	京都大学稻盛財団 記念館	52	—
5 ○	グローバル地域研究・ グローバル地中海	2024年 2月21日	グローバル地域研究合同ワークショップ 「近代アジアにおける認識論的自己／他者 の具象化—思索するモノと地域研究の方 法論をめぐって」	民博 第6セミナー室	10	21
6 ○	グローバル地域研究・ 東ユーラシア	2024年 2月24日～ 25日	シンポジウム「ウクライナ文化の挑戦—— 激動の時代を越えて」	慶應義塾大学 日吉キャンパス	81	297
7 □	グローバル地域研究・ グローバル地中海	2024年 3月8日～ 9日	みんぱく創設50周年記念国際シンポジウム 「世界の歴史を変えたガラスピース—生産・ 交易・美の追究—」	民博 第4セミナー室	103	—

2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト

組織

人間文化研究機構が、研究成果の共有化や地域・社会との共創を推進するプロジェクトであり、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」をキーワードに研究展開を図っている。

共創促進研究

研究

● コミュニケーション共生科学の創成（代表者：菊澤律子）

本研究では、国立民族学博物館と国立国語研究所が主たる拠点となり、あらゆる特性をもつ人が同等に参加できる「コミュニケーション共生」のための新しい研究分野を確立することを目標とする。「コミュニケーション弱者」「障害者」と呼ばれる人たちが、他の人々と同等に社会活動に参加できるようになるためには、現状のメカニズムを解明し、それぞれのニーズの違いとバランスをとるための基礎研究を進める必要がある。このような研究を進め、それをインフラ整備というハード面と一般社会の認識というソフト面の変化につなげていく。



共同利用

● 学術知デジタルライブラリの構築（代表者：飯田 卓）

本研究では、日本国内の研究者・研究機関が現地調査を通して蓄積してきた写真・動画・音声資料等の資料を保存し有効に利用するため、人文機関の国立民族学博物館・国立国語研究所・国立情報学研究所が共同して、デジタル技術を活用しながら資料のアクセシビリティを高めていく。さまざまな分野における過去の現地調査成果を現代において見直す作業を通して、学術の進展を加速させる。

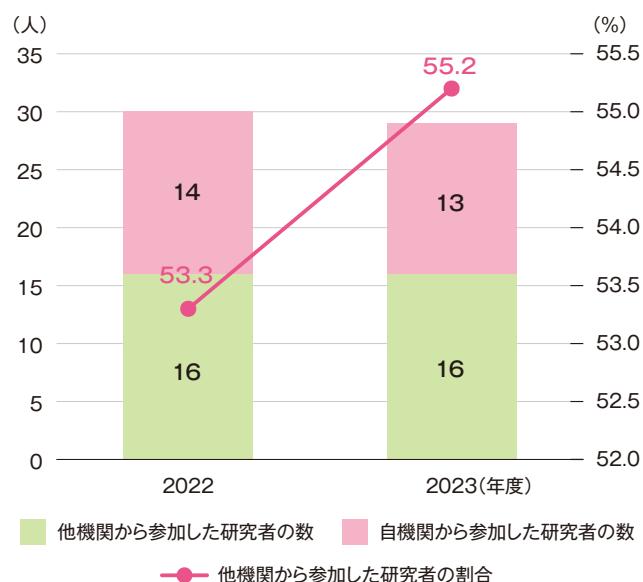


展示

国際連携

● 令和5年度 みんぱくの共創先導プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合

社会連携



産学連携

大学院教育

注：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

業務運営

● 令和5年度に開催したシンポジウム等

□主催 ○共催

No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	□ 学術知デジタルライブラリ の構築	2023年 12月16日	X-DiPLAS ワークショップ「写真データ ベースを利用したデジタルストーリーテリングで研究人生をふりかえる」 「熱帯アフリカ焼き畑農耕民研究」コレクションを事例として	民博 第4セミナー室	27	74

3 共同利用

3-1 国内における研究連携

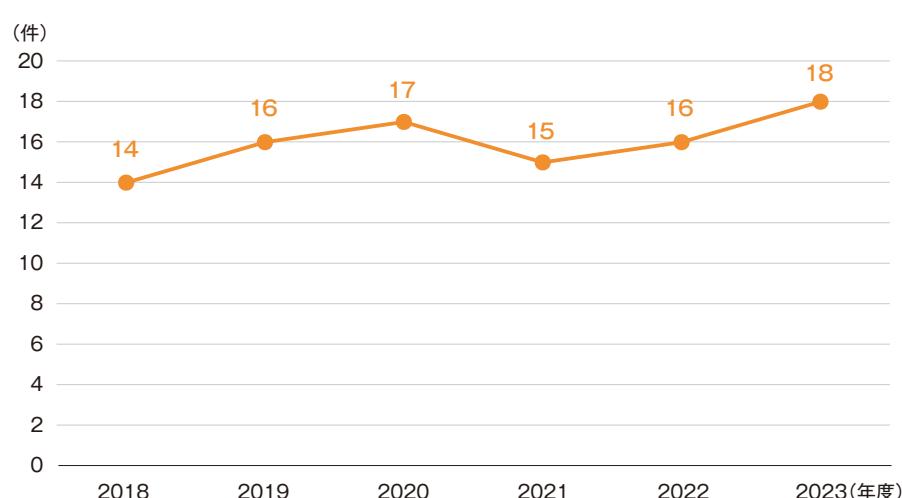
国内学術協定

● 令和5年度 国内学術協定一覧

No.	締結日	相手機関名	交流協定の概要（研究分野、協定に基づく活動等）
1	H20.2.27	日本文化人類学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
2	H26.3.23	国立大学法人 金沢大学	金沢大学と国立民族学博物館とのこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的に行う体制強化を図る。
3	H27.3.23	大阪工業大学	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を図る。
4	H27.11.19	株式会社 海遊館	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を図る。
5	H27.11.25	国立大学法人 東京外国语大学 (アジア・アフリカ言語文化研究所)	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を図る。
6	H28.7.15	国立大学法人 神戸大学 (大学院人文学研究科)	研究教育職員の交流、共同研究及び教育協力等の実施、資料の保存、活用及び展示に関する相互協力を図る。
7	H30.2.16	国立大学法人 山形大学	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
8	H30.3.17	国立大学法人 大阪大学	学術研究、教育、社会貢献及びその他諸活動の発展に資する。
9	H30.3.19	京都芸術大学 (R2.4.1～) (旧 京都造形芸術大学)	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
10	H30.11.19	一般社団法人 文化財保存修復学会	文化財保存のための基礎研究を行う研究者、実際に文化財の修復を行う修復家、美術館・博物館の学芸員、将来の専門家を育成する教育機関の関係者、専門家を志す学生などさまざまな立場の会員が集まり、文化財の保存に関わる科学・技術の発展と普及を図る。
11	R1.11.3	一般社団法人 東洋音楽学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって音楽文化の持続可能な発展と、音楽文化研究の深化に寄与する。
12	R2.3.26	神奈川大学日本常民文化研究所	両機関が行う研究活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究の一層の進展と日本の文化人類学・民俗学等の発展に資する。
13	R3.3.22	公立大学法人 金沢美術工芸大学	相互に連携を図り、平成の百工比照コレクションデータベース（以下「データベース」という。）を基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする。
14	R4.8.1	情報・システム研究機構国立情報学研究所	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
15	R4.9.12	国立大学法人 岡山大学文明動態学研究所	両者が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。

No.	締結日	相手機関名	交流協定の概要（研究分野、協定に基づく活動等）
16	R5.3.27	北海道釧路湖陵高等学校	北海道釧路湖陵高等学校が行う「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」における協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資することを目的とする。
17	R5.12.1	公益財団法人 大阪国際平和センター	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
18	R6.1.9	聖心女子大学グローバル共生研究所	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。

● 国内学術協定締結数の推移



共同利用型科学分析室

民族資料や文化財、博物館資料を対象に、非破壊分析や材質分析をおこなう分析装置システムを所有している。

● 主な所有機器

(1) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システム—成分分析計

(2) X線透視 CT スキャン装置



(3) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システム—赤外分光光度計

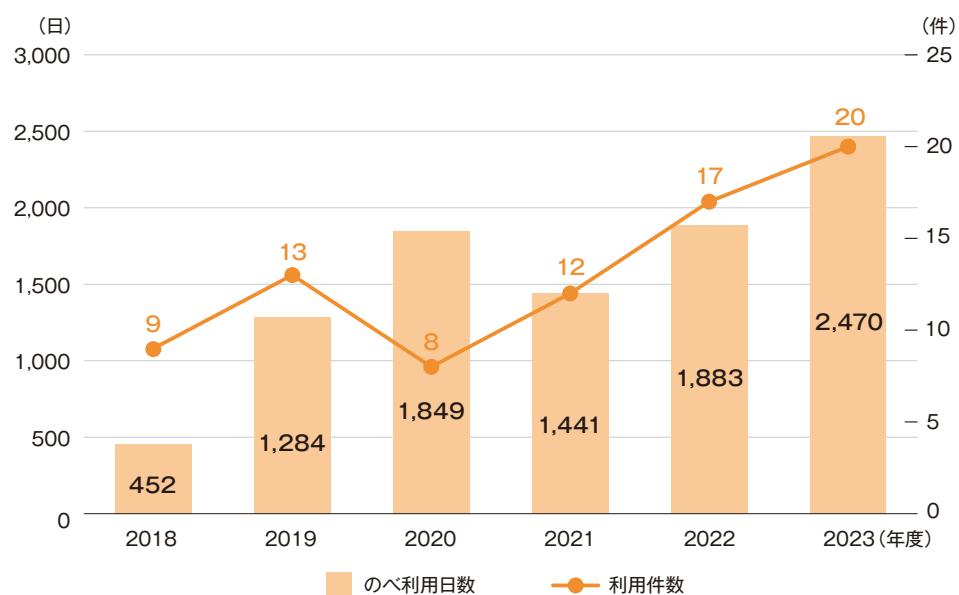
(4) エネルギー分散型蛍光X線分析装置

- (5) 文化資源非破壊・材質分析システム：
成分分析システム—蛍光X線分析装置



- (6) 文化資源非破壊・材質分析システム：バイロライザーガスクロマトグラフ質量分析システム
 (7) 文化資源非破壊・材質分析システム：低湿度型恒温恒湿器
 (8) 文化資源非破壊・材質分析システム：デジタルマイクロスコープ
 (9) 三次元積層造形機（3Dプリンター）
 (10) 三次元形状計測装置

● 共同利用型科学分析室の利用実績



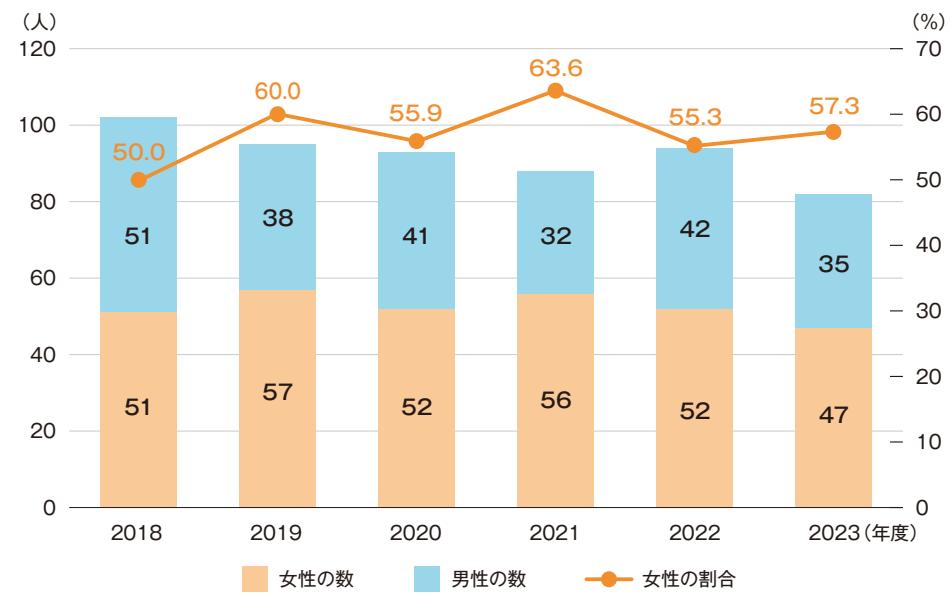
注：利用申請にもとづく日数のため、実際に科学分析室を利用した日数とは異なる場合がある

3-2 研究員制度

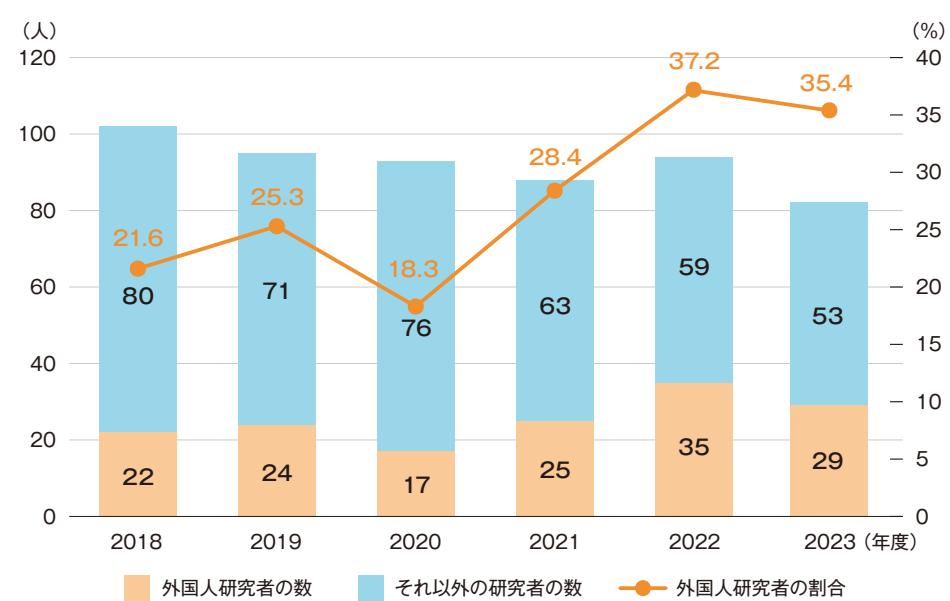
外来研究員

国内外の研究者を外来研究員として受け入れている。

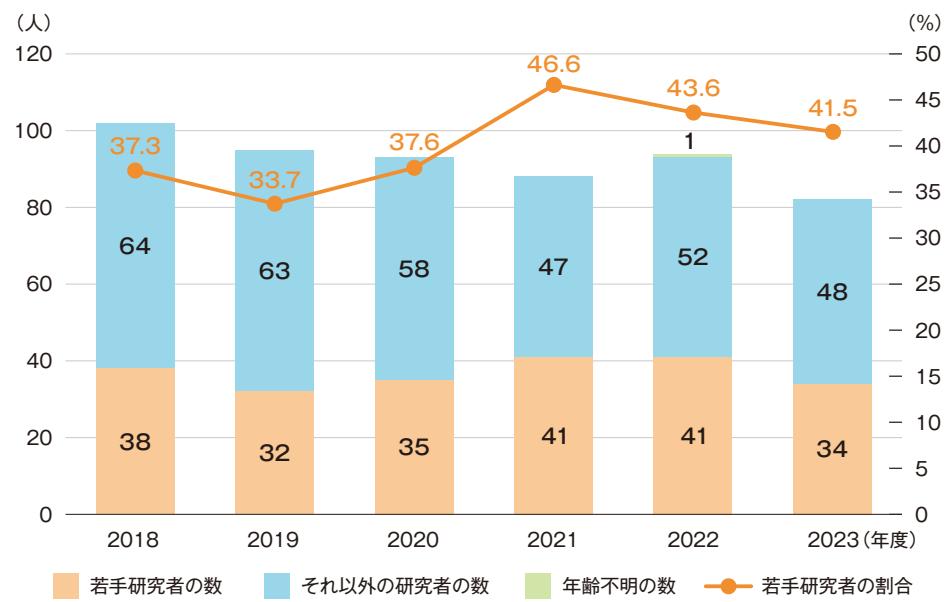
● 外来研究員の数（男女別）と女性の割合



● 外来研究員のうち外国人研究者の数と割合



● 外来研究員のうち若手研究者（39歳以下）の数と割合

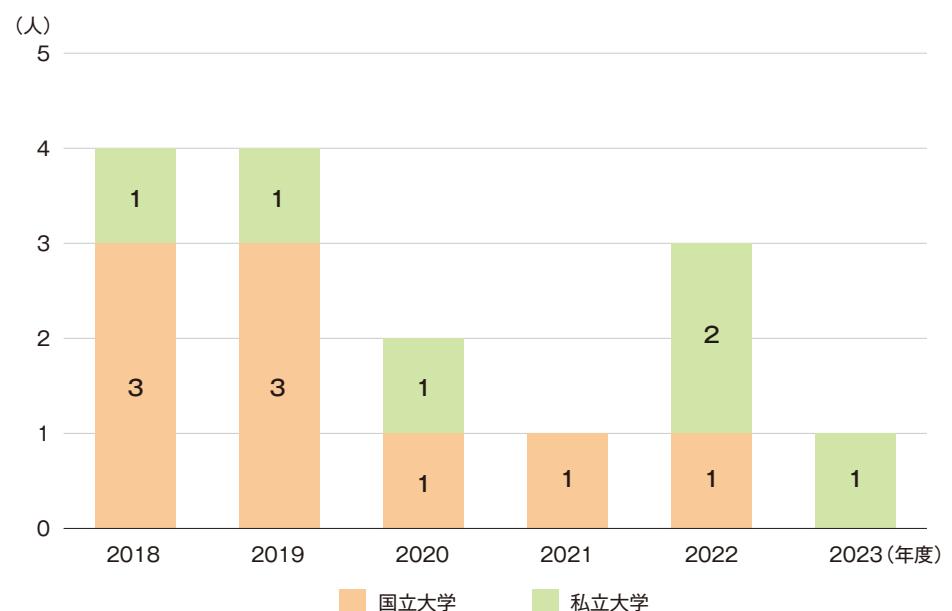


注：同じ年度内に同一人物を複数回受け入れた場合は1名としてカウント

特別共同利用研究員

全国の大学の博士後期課程に在籍する学生を、当該学生の所属する大学院研究科からの委託をうけて特別共同利用研究員として受け入れている。

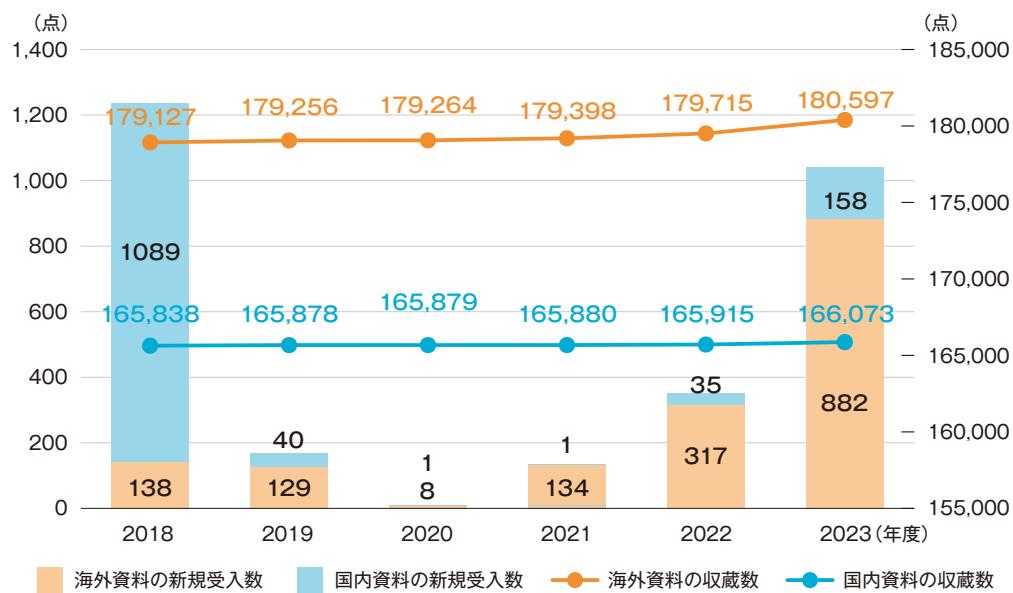
● 特別共同利用研究員の数



3-3 資料の収集と利用

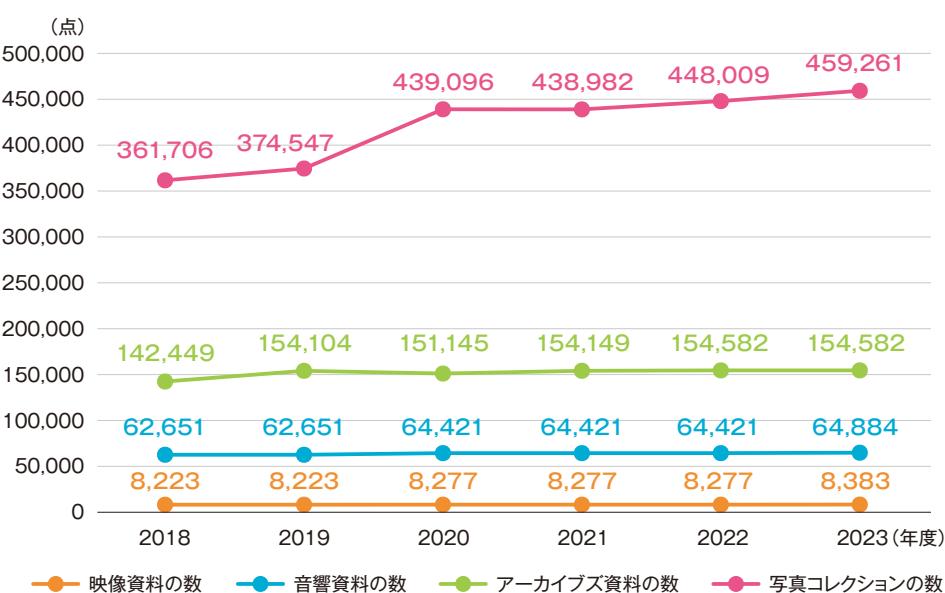
標本資料および映像・画像・音響資料

● 標本資料の新規受入数と収蔵数の推移

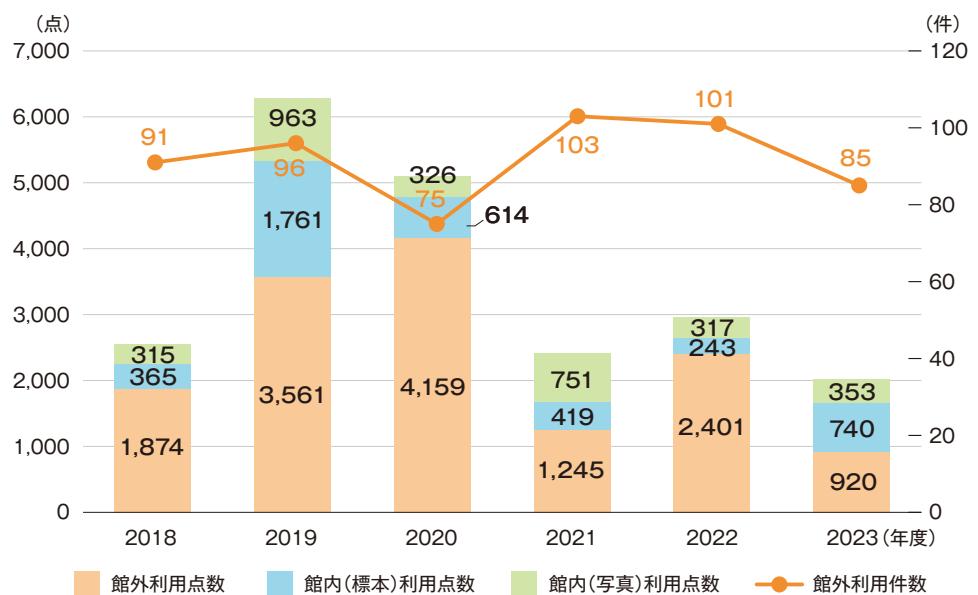


注：標本資料の数には未登録資料の数を含む

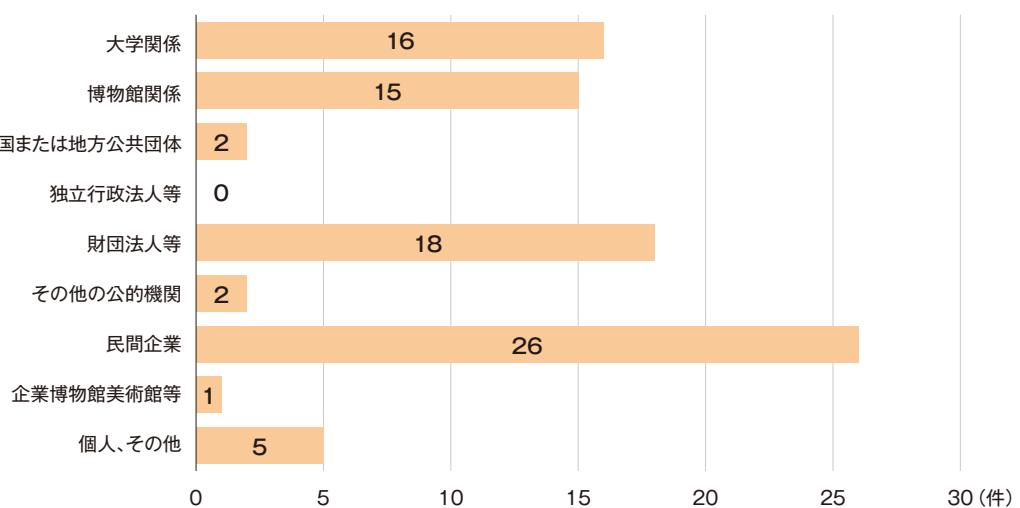
● 映像音響関連資料の数の推移



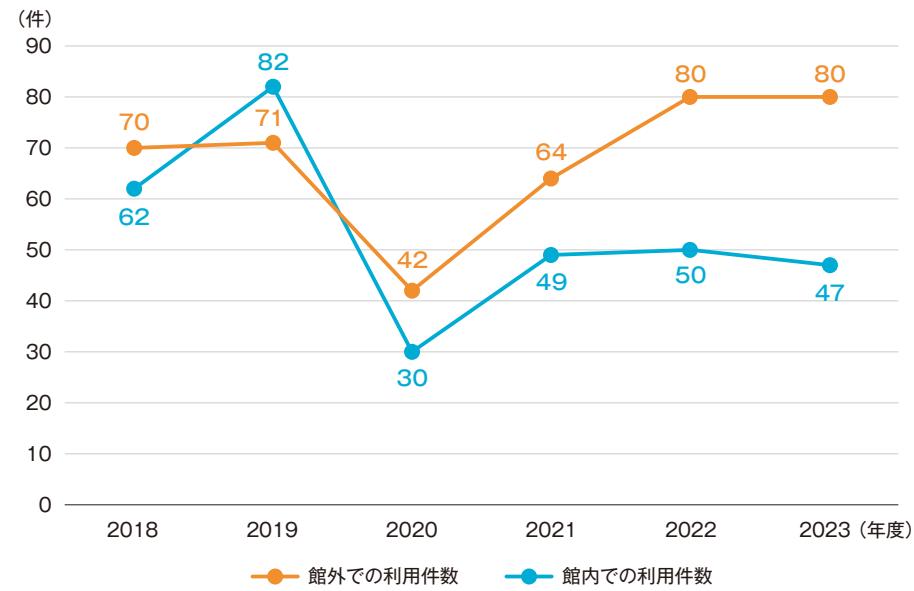
● 標本資料の利用点数と館外利用された件数



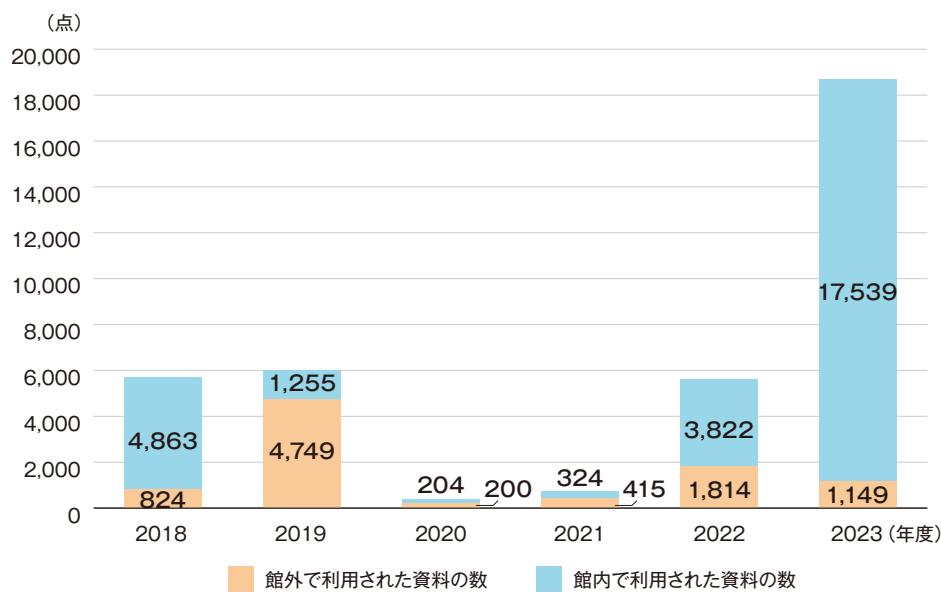
● 令和5年度 標本資料の館外利用者区別の利用件数



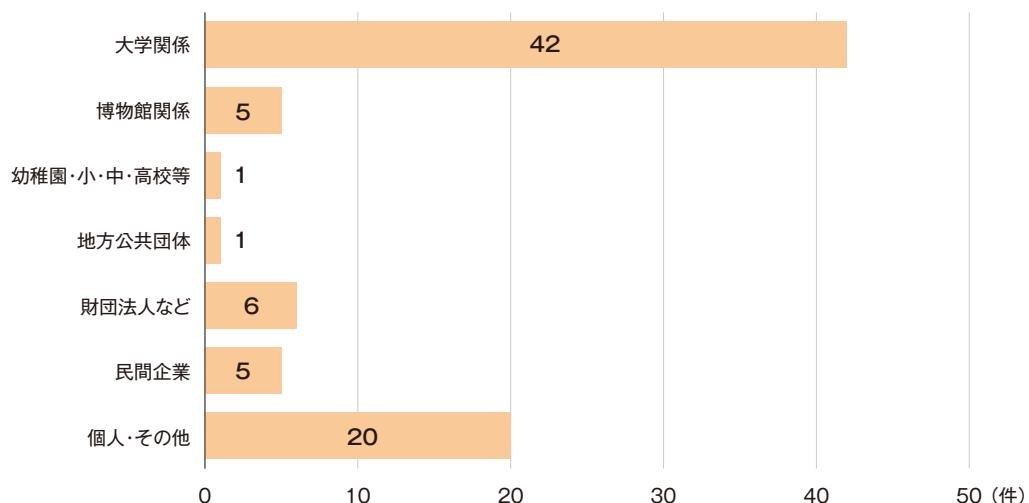
● 映像音響関連資料の利用件数の推移



● 映像音響関連資料の利用資料数

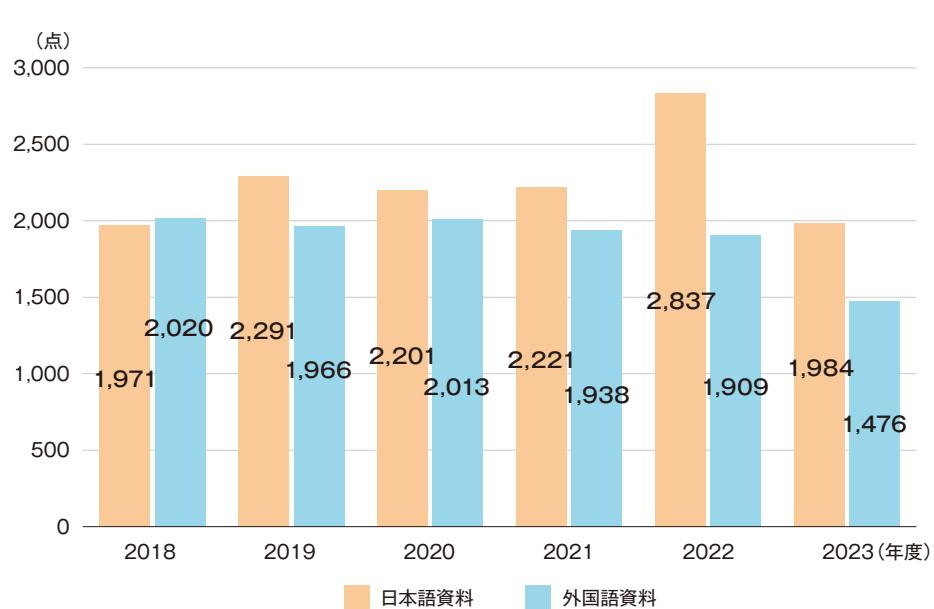


● 令和5年度 映像音響関連資料の館外利用者区分別の利用件数



文献図書資料

● 文献図書資料の受入数



注：文献図書資料には図書、マイクロ資料、AV資料、製本雑誌を含む

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

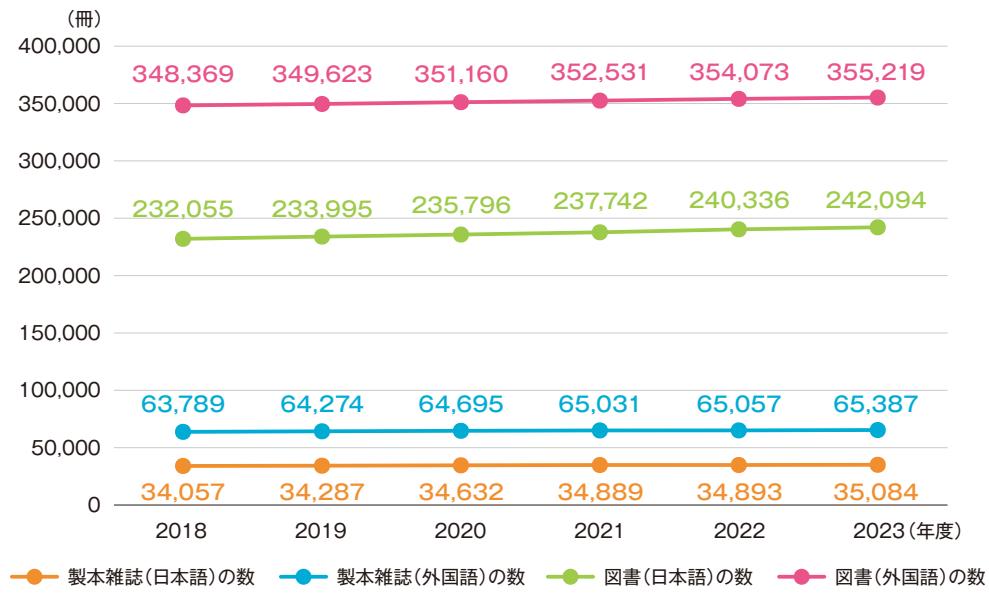
社会連携

産学連携

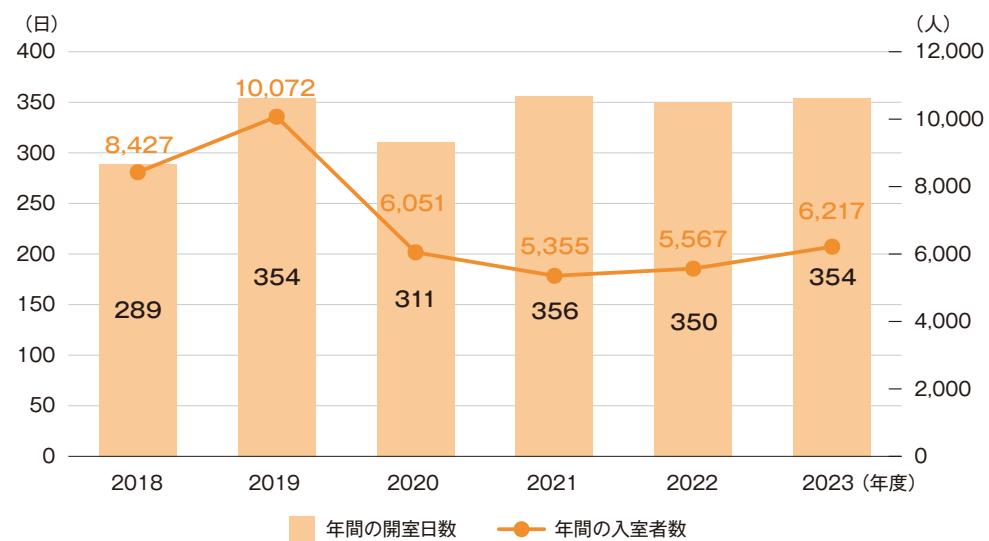
大学院教育

業務運営

●図書室の蔵書数の推移



●図書室の開室日数と入室者数の推移



注1：大阪府北部地震の影響による臨時閉室

2018年6月18日～8月22日

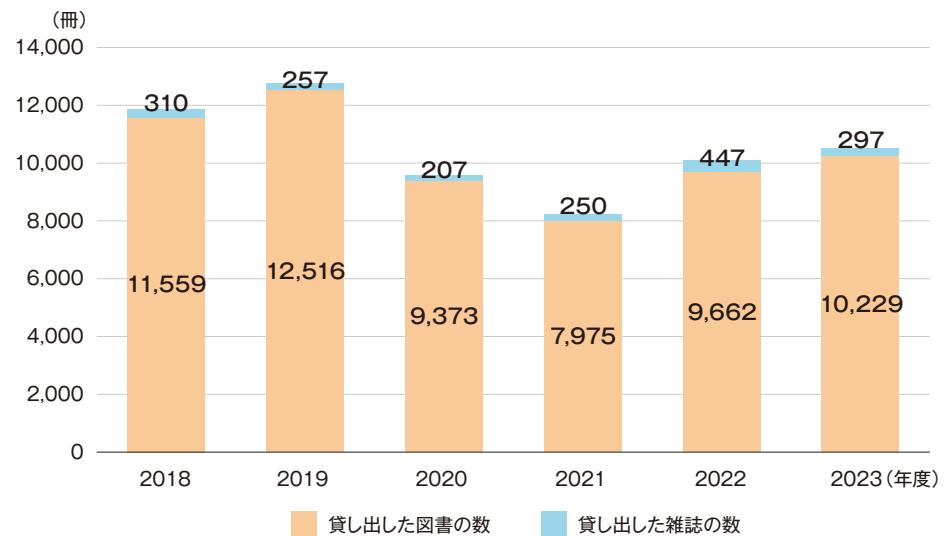
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室

2020年2月28日～6月17日

2021年4月25日～6月23日

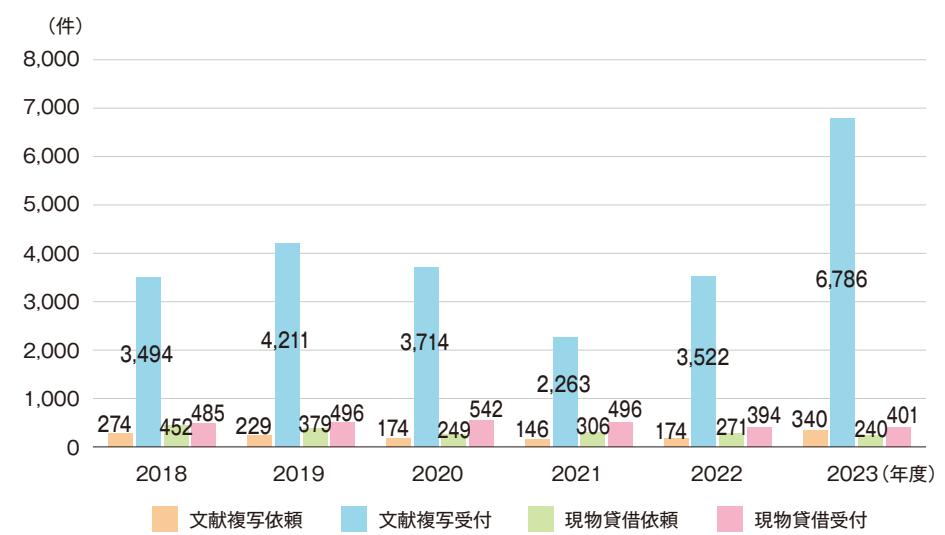
注2：開室日数には臨時閉室中、館内利用者のみ開室していた期間を含む

● 図書室の年間貸出数

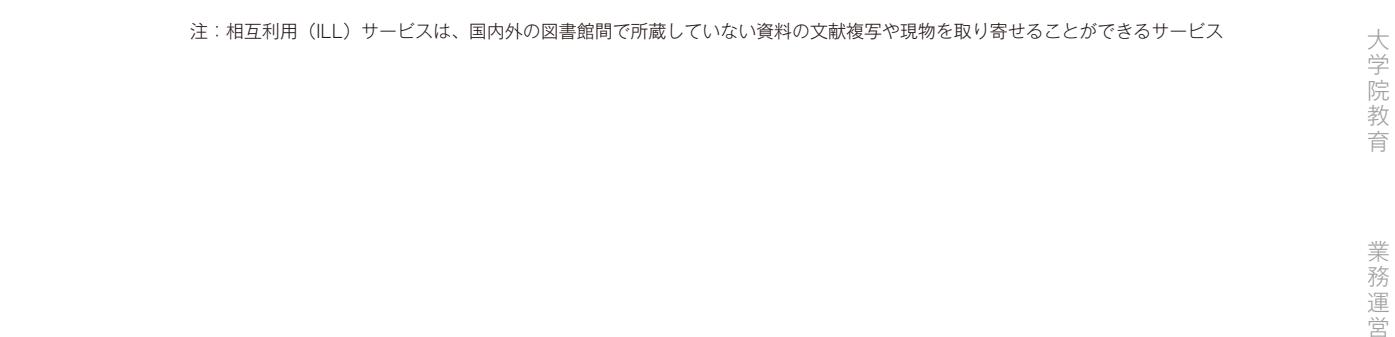


注：大阪府北部地震の影響による臨時閉室
 2018年6月18日～8月22日
 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
 2020年2月28日～6月17日
 2021年4月25日～6月23日

● 図書室での相互利用（ILL）サービスの利用件数



注：相互利用（ILL）サービスは、国内外の図書館間で所蔵していない資料の文献複写や現物を取り寄せることができるサービス



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● 図書室の館外利用者の登録者数と館外貸出冊数



データベース

● 令和5年度 データベース一覧

〈一般公開：35件〉

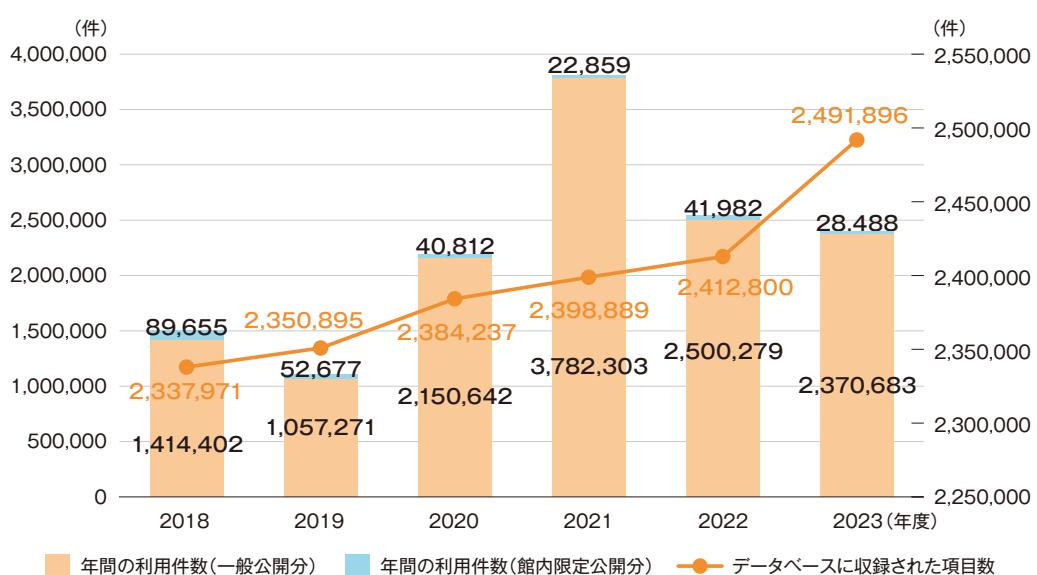
構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H10	図書・雑誌目録 (OPAC)	図書資料：642,678 雑誌タイトル数：17,414
H16	標本資料目録データベース	286,949
H16	韓国生活財データベース	7,827
H16	中西コレクションデータベース—世界の文字資料—	2,729
H16	吉川「シュメール語辞書」データベース	キーワード：33,450 40,596頁
H18	標本資料詳細情報データベース	103,263
H18	ネパール写真データベース【日本語版・英語版】	3,879
H19	ビデオテークデータベース	850
H19	松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション	170
H19	衣服・アクセサリーデータベース	33,300
H19	身装文献データベース	189,354
H21	映像資料目録データベース	8,383
H21	音響資料目録データベース	64,884
H21	音響資料曲目データベース	352,748
H21	Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)	14,048
H21	近代日本の身装電子年表	14,514
H22	標本資料記事索引データベース	82,965
H22	ジョージ・ブラウン・コレクション【日本語版・英語版】	2,992
H23	音楽・芸能の映像データベース	849
H23	日本昔話資料データベース（稻田浩ニコレクション）	3,696
H24	梅棹忠夫著作目録（1934～）データベース	7,011
H25	rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) データベース【英語、中国語】	語彙：41,078 文例：15,706
H27	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	24,869
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料—大島襄二写真コレクション	7,889

構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H28	アフリカ カメルーン民族誌写真集—端信行コレクション	6,543
H28	沖守弘インド写真データベース [日本語版・英語版]	21,971
H28	身装画像データベース—近代日本の身装文化	6,794
H29	3次元CGで見せる建築—東南アジア島嶼部の木造民家	38地点 61棟
H29	津波の記憶を刻む文化遺産—寺社・石碑データベース	481
R1	焼畑の世界—佐々木高明のまなざし	451
R1	平成の百工比照コレクションデータベース	579
R2	チベット宗教図像(白描画)データベース	1,439
R4	毛沢東バッジ	98
R4	柳染色加工所見本裂データベース	185
R5	農耕民の世界—岩田慶治のまなざし	342

〈館内限定公開：14件〉

構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H13	朝枝利男コレクション	3,966
H13	国内資料調査報告集データベース	21,373
H18	標本資料詳細情報データベース (館内限定)	286,994
H20	日本昔話資料データベース (稻田浩二コレクション) (館内限定)	3,696
H21	タイ民族誌映像データベース—精靈ダンス—	写真：10,082 調査報告：41
H22	オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベース	7,999
H22	東南アジア稻作民族文化総合調査団写真データベース	4,393
H23	カナダ先住民版画データベース	158
H23	音楽・芸能の映像データベース (館内限定)	849
H23	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	42,210
H23	梅棹忠夫写真コレクション	35,480
H23	西北ネバール及びマナスル写真データベース	620
H27	沖守弘インド写真データベース [日本語版]	22,120
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料—大島襄二写真コレクション	8,842

● データベースに収録された件数の推移と年間に利用された件数



注1：利用件数は画面表示された件数

注2：データベースに収録された項目数は何を項目とみなすかによって変動する。『吉川「シュメール語辞書」データベース』ではキーワード数、『Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)』では見出し語の数、『rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) [英語、中国語]』では登録語彙数、『タイ民族誌映像データベース—精靈ダンス—』では写真と調査報告の数を合わせたもの、『3次元CGで見せる建築データベース—東南アジア島嶼部の木造民家』では民家の数を用いた

民族学研究アーカイブズ

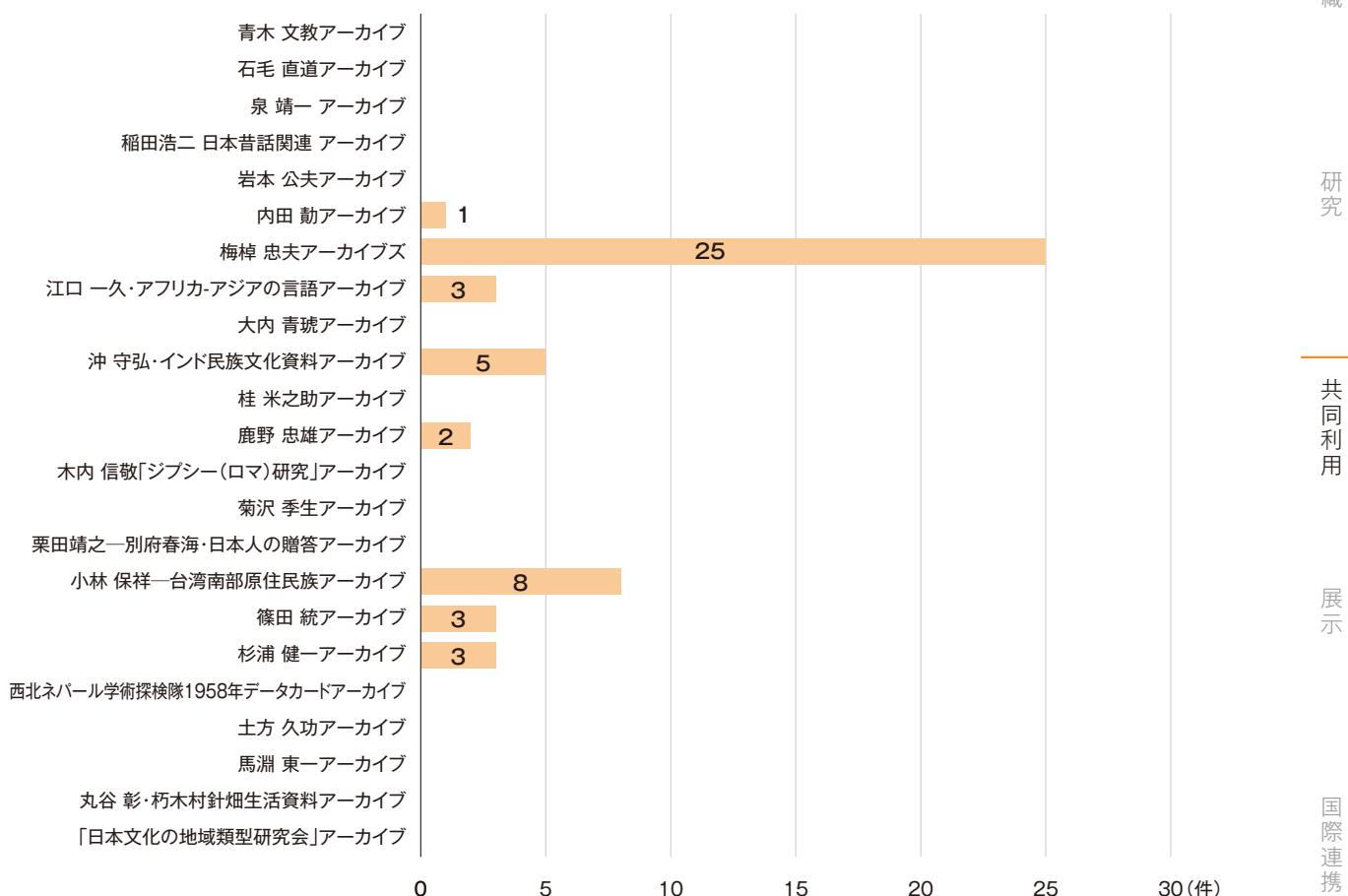
創設以来、本館が集積してきた資料や情報（民族学者の研究ノートや原稿、フィールドワークで生成、収集された映像・録音記録など）を公開している。

● 令和5年度 民族学研究アーカイブズ一覧

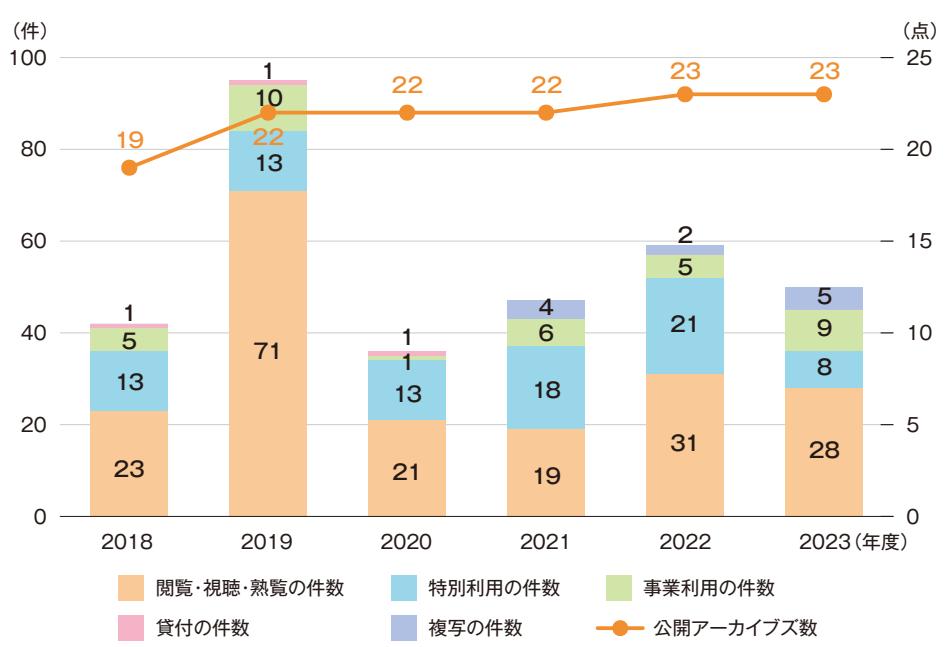
No.	アーカイブ名	リスト公開	資料件数
1	青木 文教（あおき ぶんきょう）アーカイブ	平成20年度～	889
2	石毛 直道（いしげ なおみち）アーカイブ	令和元年度～	2,786
3	泉 靖一（いずみ せいいち）アーカイブ	平成27年度～	1,164
4	稻田 浩二（いなだ こうじ）日本昔話関連アーカイブ	令和5年度～	3,199
5	岩本 公夫（いわもと きみお）アーカイブ	平成27年度～	7,218
6	内田 勲（うちだ いさお）アーカイブ	平成30年度～	131
7	梅棹 忠夫（うめさお ただお）アーカイブズ	平成26年度～	約60,000
8	江口 一久（えぐち かずひさ）・アフリカーアジアの言語アーカイブ	平成30年度～	2,246
9	大内 青琥（おおうち せいこ）アーカイブ	平成22年度～	62
10	沖 守弘（おき もりひろ）・インド民族文化資料アーカイブ	平成28年度～	459
11	桂 米之助（かつら よねのすけ）アーカイブ	平成21年度～	1,036
12	鹿野 忠雄（かの ただお）アーカイブ	平成23年度～	1,582
13	木内 信敬（きうち のぶゆき）「ジブシー（ロマ）研究」アーカイブ	令和元年度～	949
14	菊沢 季生（きくざわ すえお）アーカイブ	平成19年度～	922
15	栗田靖之 - 別府春海・日本人の贈答アーカイブ	平成30年度～	4,059
16	小林 保祥（こばやし やすよし） - 台湾南部原住民族アーカイブ	平成30年度～	1,094
17	篠田 統（しのだ おさむ）アーカイブ	平成30年度～	5,752
18	杉浦 健一（すぎうら けんいち）アーカイブ	平成23年度～	1,282
19	西北ネパール学術探検隊1958年データカードアーカイブ	令和元年度～	6,584
20	土方 久功（ひじかた ひさかつ）アーカイブ	平成19年度～	288
21	馬淵 東一（まぶち とういち）アーカイブ	平成19年度～	270
22	丸谷 彰（まるたに あきら）・朽木村針畠生活資料アーカイブ	平成30年度～	54
23	「日本文化の地域類型研究会」アーカイブ	平成19年度～	977

注：資料件数は、各アーカイブ資料の目録件数

● 令和5年度 民族学研究アーカイブズのアーカイブ別の利用件数



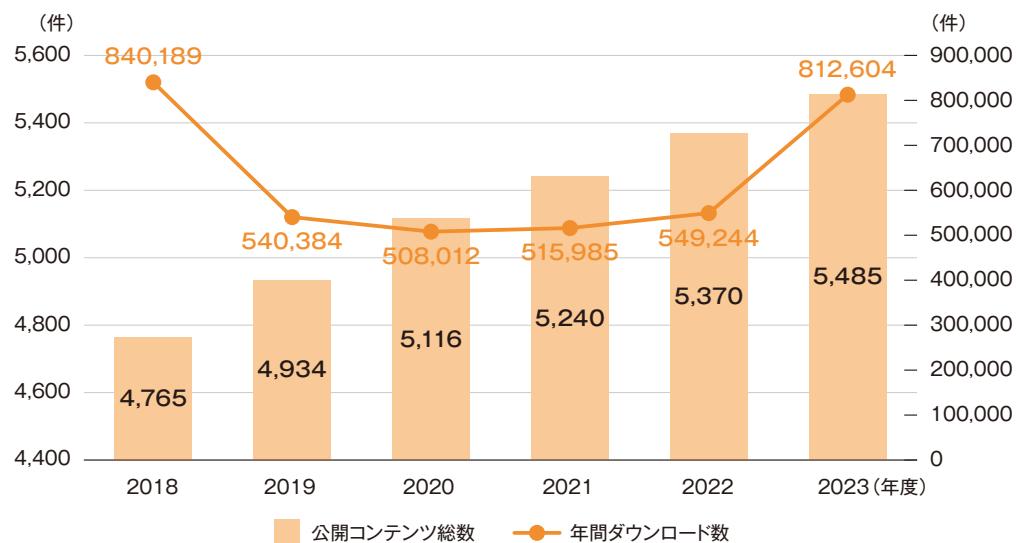
● 民族学研究アーカイブズの利用区分別の利用件数と公開アーカイブズ数



学術情報リポジトリ

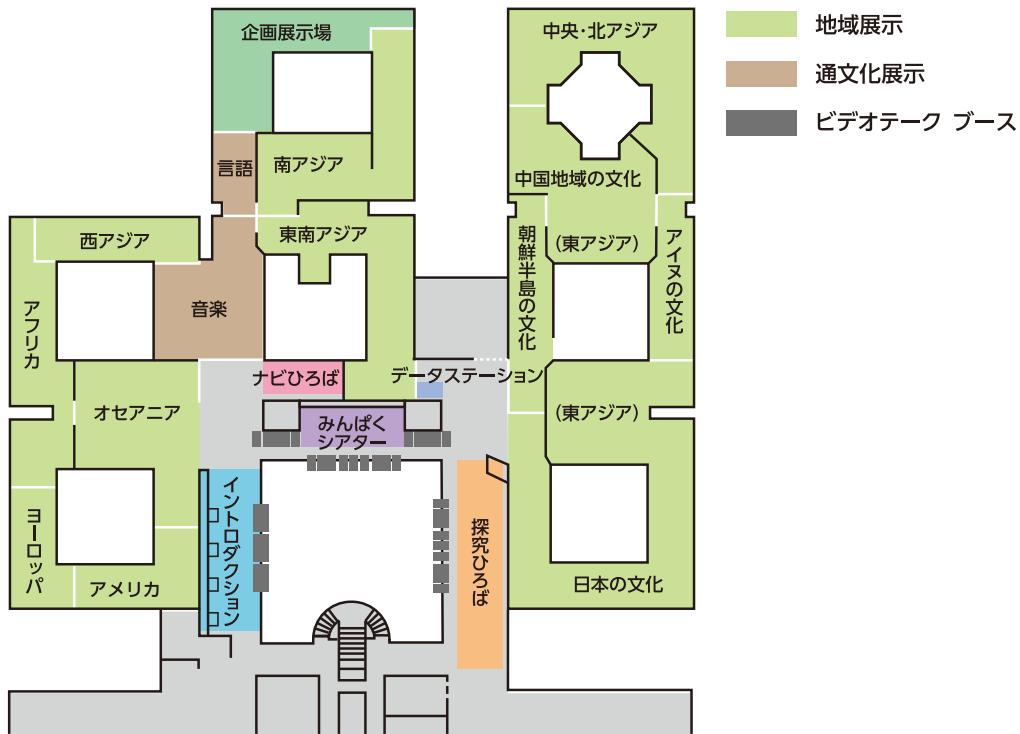
国立情報学研究所の JAIRO Cloud (共用リポジトリサービス) を利用して、館内出版物および、外部で出版されたもののうち利用許諾が得られた論文等を公開している。

● みんぱく学術情報リポジトリの公開コンテンツ数と年間ダウンロード数



4 展示

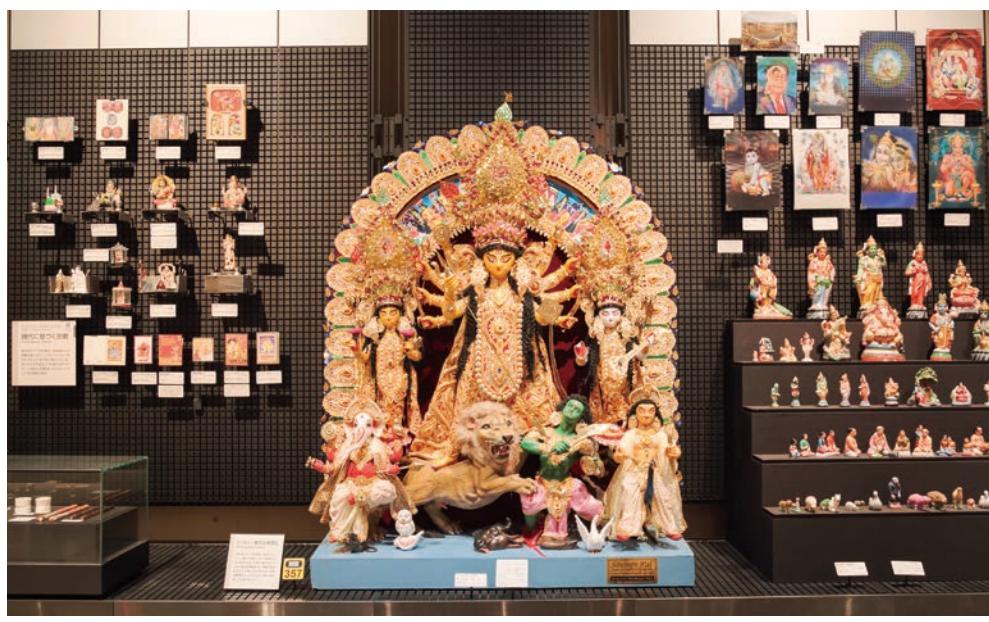
4-1 本館展示



地域展示：世界を大きくオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、南アジア、東南アジア、中央・北アジア、東アジアの9地域に分けて展示

通文化展示：特定のジャンル（現在は、言語と音楽）を取り上げて広く世界の民族文化を通覧する

● 本館展示場



南アジア展示



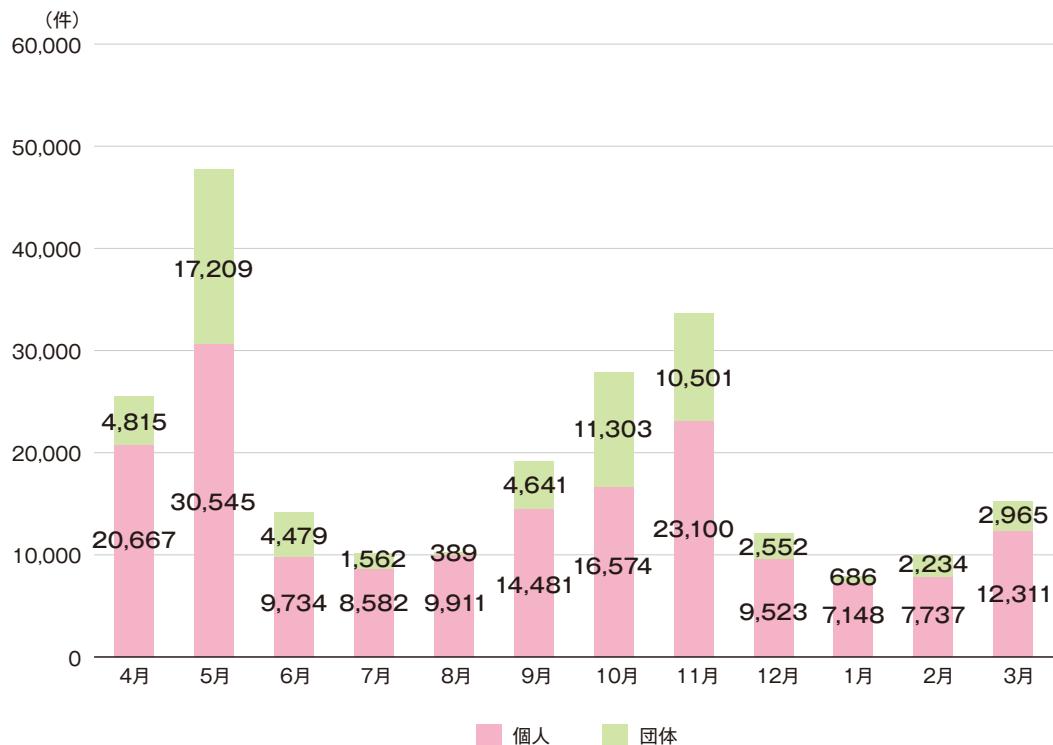
自動運転モビリティ（自動走行型電動車椅子）は、視覚障害者、高齢者、歩き疲れた方など、誰もが快適に展示を観覧できるシステムである。その実用化に向けて、令和4年度に日本の文化展示場において自動走行実証実験をおこなった。令和5年度は引き続き、一般の入館者を対象とした体験走行を計12日間実施した。参加者からは「快適に展示場をまわることができて、操作も簡単でした。」「視点が変わり、これまで見ていなかった展示に気づきました。」といった好評の声が多く寄せられ、アンケートの満足度調査では肯定的評価93%と非常に高い評価を得た。

● 入館者数の推移

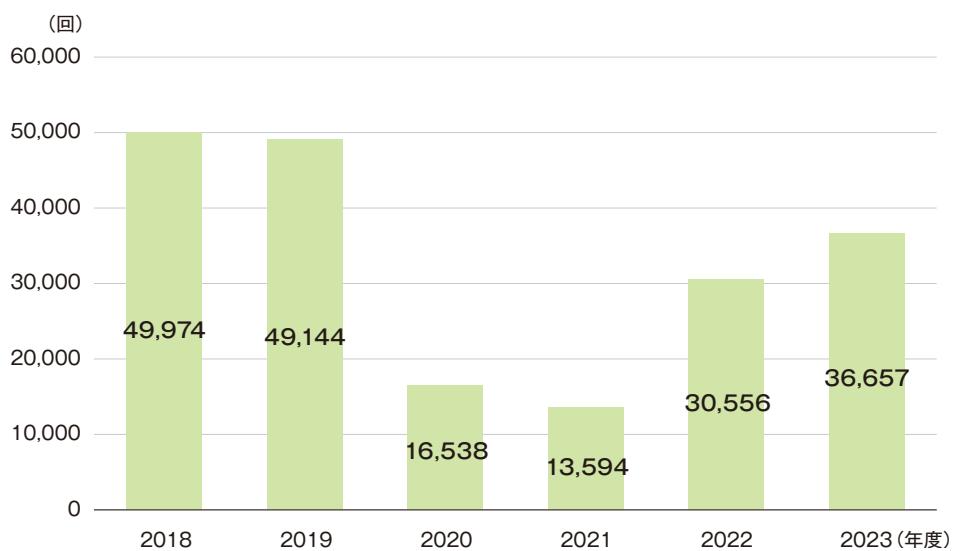


注：大阪府北部地震の影響による臨時休館
2018年6月18日～8月22日
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館
2020年2月28日～6月17日
2021年4月25日～6月23日

● 令和5年度の月別入館者数



● ビデオテークの視聴回数



注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館

2021年4月25日～6月23日

ビデオテークブース(B05～B19、多機能端末室)工事の為運用停止

2021年12月8日～2022年3月30日

● 令和5年度 みんぱくシアター上映番組一覧

タイトル	上映期間
ジャワ島チルボンの木偶人形芝居：ワヤン・ゴレック・チュパック	2023年3月30日～7月25日
黒い聖女サラ信仰の巡礼：南仏サント・マリー・ド・ラ・メール	2023年3月30日～7月25日
ミヤオ族の伝統文化：中国 貴州省 雷山県	2023年3月30日～7月25日
壮族：中国最大の少数民族	2023年3月30日～7月25日
めばえる歌：民謡の伝承と創造	2023年3月30日～7月25日
面打ち：京都の能面師	2023年7月27日～12月5日
九日間の夜：インド・グジャラートの女神祭礼ナヴァーラートリー	2023年7月27日～12月5日
カッチのナヴァーラートリー祭礼	2023年7月27日～12月5日
奄美大島の八月踊り	2023年7月27日～12月5日
津軽のカミサマ	2023年12月7日～2024年3月26日
アシェンダ！エチオピア北部地域社会の女性のお祭り	2023年12月7日～2024年3月26日
ウダイブルの女神祭礼	2023年12月7日～2024年3月26日
トルクメニスタンの手織り絨毯	2023年12月7日～2024年3月26日
見々久神楽 公開編	2024年3月28日～6月11日
佐太神社御座替祭と佐陀神能 公開編	2024年3月28日～6月11日
有福神楽 公開編	2024年3月28日～6月11日
千本闇魔堂大念佛狂言	2024年3月28日～6月11日
八朔踊りとメンドン	2024年3月28日～6月11日
伊勢大神楽：獅子舞と放下	2024年3月28日～6月11日

4-2 特別展示・企画展示等

特別展示：特定のテーマや内容で研究の成果を総合的および体系的に紹介するストーリー性をもった展示で、特別展示館で開催

企画展示：研究や収集活動の成果を特定のテーマで紹介し、本館企画展示場で開催する展示

コレクション展示：本館所蔵資料を中心に構成され、その学術的価値を高め、共同利用性を向上させる目的でおこなう展示

巡回展示：本館で開催した特別展示、企画展示等を国内外の博物館、美術館等に巡回して開催する展示

● 令和5年度 特別展・企画展等一覧

種別	タイトル	会期	入館者数(人)
特別展	ラテンアメリカの民衆芸術	2023年3月9日～5月30日	44,971
特別展	交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界	2023年9月14日～12月5日	34,438
特別展 ^{※1}	日本の仮面—芸能と祭りの世界	2024年3月28日～6月11日	44,159
企画展	カナダ北西海岸先住民のアート—スクリーン版画の世界	2023年9月7日～12月12日	48,302
企画展 ^{※2}	水俣病を伝える	2024年3月14日～6月18日	53,406
コレクション展	ハンターのみた地球	2023年7月6日～8月8日	10,533
巡回展	驚異と怪異—想像界の生きものたち (福岡市博物館)	2023年3月11日～5月14日	23,006
巡回展	ユニバーサル・ミュージアム—さわる！“触”の大博覧会 (OHK 岡山放送 KURUN HALL・KURUN ラウンジ)	2023年4月1日～5月7日	5,202
共催展	九州山地の焼畑文化 (ヒストリアテラス五木谷 (五木村歴史文化交流館))	2023年10月7日～12月3日	812

※1 みんぱく創設50周年記念特別展

※2 みんぱく創設50周年記念企画展

4-3 公募型共創メディア展示

国内の大学等が主催する展示にみんぱくが開発した情報メディアやシステムを提供する。

● 令和5年度 公募型共創メディア展示

新規応募3件、採択2件、継続1件

採択機関	採択事業	対象展示	新規／継続
大阪国際平和センター (ピースおおさか)	昭和・戦時期における生活関連資料データベースの構築および展示解説システムの発信強化	特別展「むかしのくらし—昭和・戦時期の人々のせいかつ—」	継続
琉球大学博物館(風樹館)	沖縄の結縄(藁算)標本のマルチメディア展示アーカイブズの構築と大学博物館での研究教育活用	沖縄の結縄(藁算)	新規
天城町教育委員会	映像展示「島の芸能と祭り—徳之島・奄美大島・奄美の島々—」(仮称)の制作	徳之島の歴史と民俗	新規

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

5 國際連携

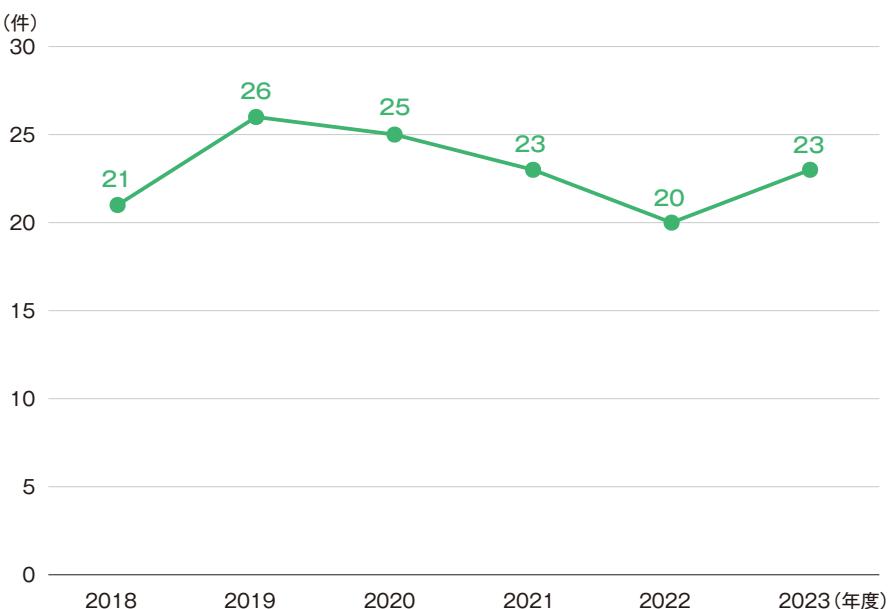
5-1 海外研究機関との学術交流協定

● 海外研究機関等との協定一覧（令和5年度）

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
1	国立サン・マルコス大学	ペルー	考古学分野における共同研究員調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流の促進
2	順益台湾原住民博物館	台湾	共同研究、博物館展示協力など
3	韓国国立民俗博物館	韓国	研究者交流、共同研究の実施、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など
4	内蒙古大学	中国	教職員・研究者の交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示品の展覧及び教育分野における協力活動、学術研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の展開など
5	国立台北芸術大学	台湾	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など
6	アシウイ・アワン博物館・遺産センター	米国	学術協力、共同研究のプロジェクトの展開、博物館資料の展覧および教育分野における協力活動など
7	フィリピン国立博物館	フィリピン	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など
8	中国社会科学院民族学・人類学研究所	中国	学術交流ならびに研究プロジェクトや研究資料、学術情報及び公開出版物の交換と相互利用の展開など
9	北アリゾナ博物館	米国	学術交流・研究の強化・発展
10	国立台湾歴史博物館	台湾	共同研究、博物館展示協力など
11	ヴァンダービルト大学	米国	国際共同研究、国際シンポジウムの開催など
12	浙江大学人類学研究所・図書館	中国	資料の寄贈、人材交流、共同研究など
13	ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館—UBC—	カナダ	研究交流、人材交流、データベース構築の協力など
14	イラン国立博物館	イラン	国際共同研究、研究者の交流、博物館に関する資料や情報交換など
15	国立博物館機構	ザンビア	国際共同研究、研究者の交流、博物館に関する資料や情報交換など
16	国立研究革新庁・考古・言語・文学研究機構・環境考古・海事考古・持続的文化研究所	インドネシア	インドネシア国内での国際共同調査の実施、および研究成果の共有
17	サマルカンド考古学研究所	ウズベキスタン	国際共同発掘調査・研究、研究者交流、考古学に関する資料や情報の交換等・研究者・学芸員などの人材交流
18	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
19	ケニア国立博物館群	ケニア	共同調査プロジェクトの実施、講演会、シンポジウム、共同展示の実施、調査に関わる情報と資料の交換、文化ならびに博物館学に関する交流プログラムの振興、研究スタッフの交流に関する協力
20	カセサート大学林学部	タイ	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進
21	ゲント大学	ベルギー	国際共同調査・研究、研究者交流、展示資料に関する情報の交換など
22	大エジプト博物館	エジプト	人材交流、博物館資料の管理・展示・分析、博物館マネージメントなどに係る情報交換、共同研究・展示企画の推進
23	客家委員会客家文化発展センター	台湾	博物館展示に関する交流と協力

● 海外学術交流協定締結数の推移



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

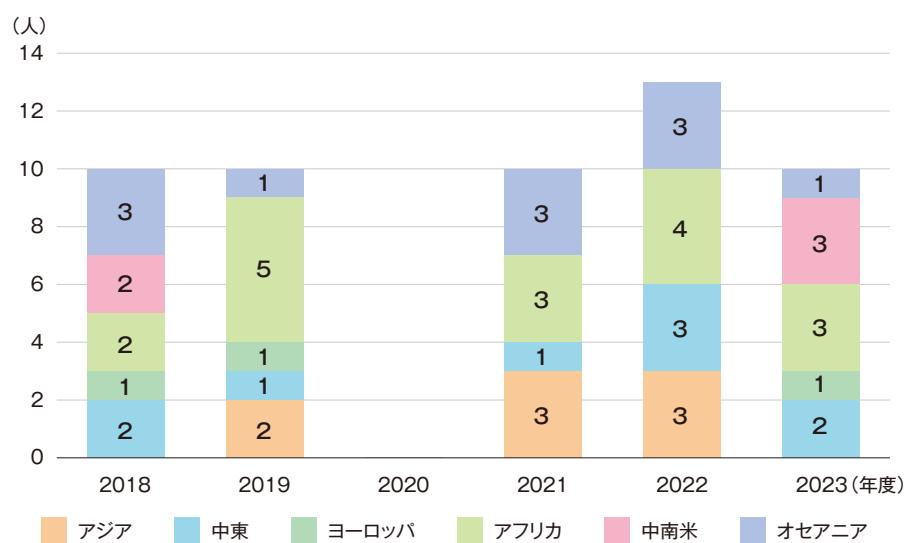
大学院教育

業務運営

5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース

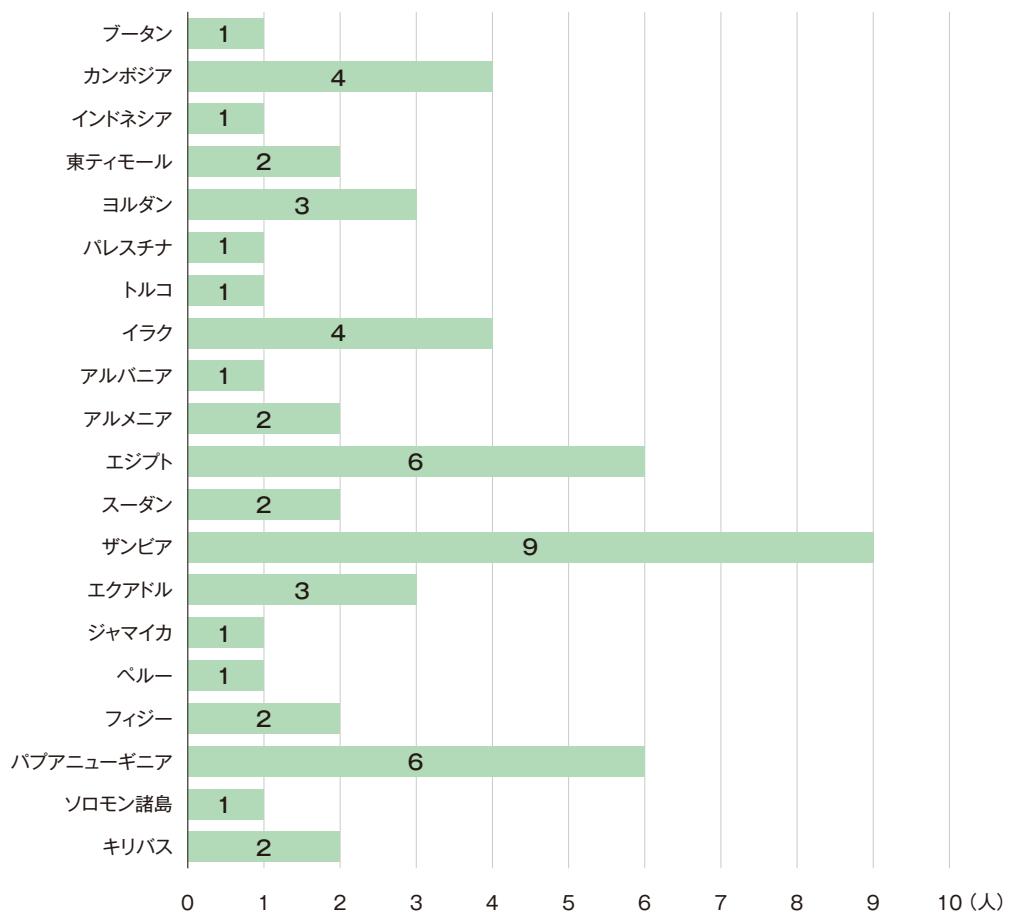
平成16年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託を受け実施している研修で、毎年、開発途上の国や地域から約10名を受託研究員として受け入れてきた。「博物館学集中コース」として始まった本研修について、平成27年度からは「博物館とコミュニティ開発」にコースを改組・発展し、博物館が地域社会に果たす役割により重点を置いた研修をおこなっている。

● 「博物館とコミュニティ開発」コースの地域別参加者数の推移



注1：2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により延期。2021年度はオンラインで開催
 注2：2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

● 「博物館とコミュニティ開発」コースに参加した国・地域と参加者数（平成30年～令和5年）



注1：研修参加国の決定は、各年度における開発途上国からの研修参加要望等に基づく

注2：2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

TOPIC

本館が「令和5年度外務大臣表彰」を受賞



外務大臣表彰は、諸外国との友好親善関係の増進への貢献について、特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるために実施されている表彰。

本館における、開発途上国の博物館人材育成等を目的としたJICA研修プログラムの長年にわたる実施や、専門家派遣等のJICAが実施する博物館運営・文化財保全事業への協力を通じ、世界中の文化・地域開発事業の底上げに大きく寄与し、日本と開発途上国の信頼関係を深化させている点が評価され、今回の受賞となった。

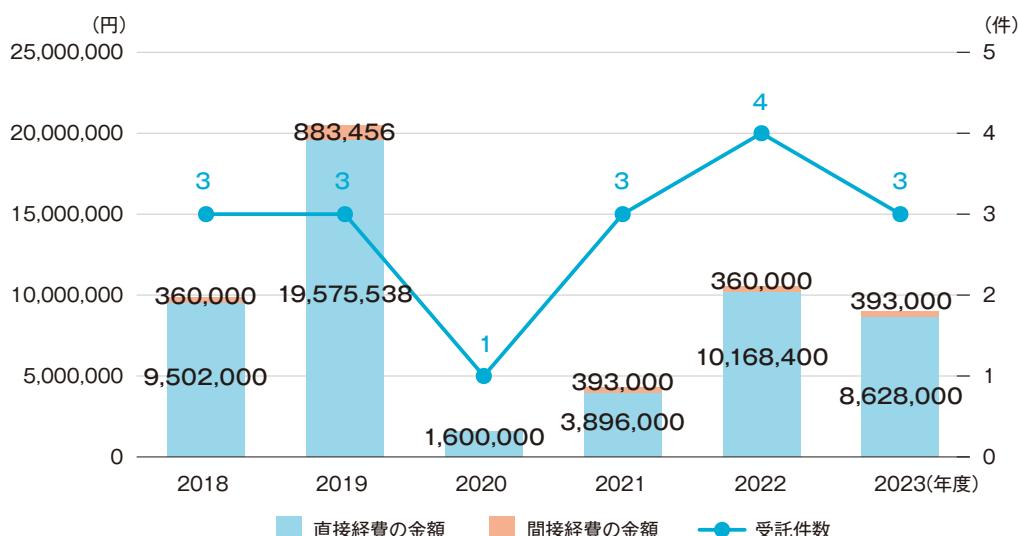
6 社会連携

6-1 受託事業

● 令和5年度 受託事業・受託研究一覧

課題名	受託期間	受託金額（円）	相手方	担当教員・担当課	備考	受託事業／受託研究
文学一般関連、博物館学関連分野に関する学術研究動向 - ポスト・コロナ時代のデジタル・ヒューマニティーズ	R5.4.1～R6.3.31	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会	山中由里子	学振・学術研究 受託研究動向調査研究	
博物館学とコミュニティ開発	R5.7.18～R6.3.15	7,098,000	独立行政法人 国際協力機構			受託事業
国際共同研究プログラム (JRP-LEAD with UKRI)	R3.12.1～R6.11.30	363,000	大学共同利用機関 法人 情報・システム研究機構	相良啓子	JSPSから情報システム機関の受託研究の再委託	
合計						9,021,000

● みんぱくの受託事業・受託研究の受入金額と件数



注：2021年度には委託金のない事業（山口大学との共同研究）があったが、ここで集計には含まなかった

● 委託元機関の一覧（2018～2023年度）

文化庁

台湾文化部 (the Ministry of culture, ROC)

独立行政法人 国際協力機構

独立行政法人 日本学術振興会

公益社団法人 大阪聴力障害者協会

国立大学法人 山口大学

大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター運営事業体

独立行政法人国立文化財機構

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

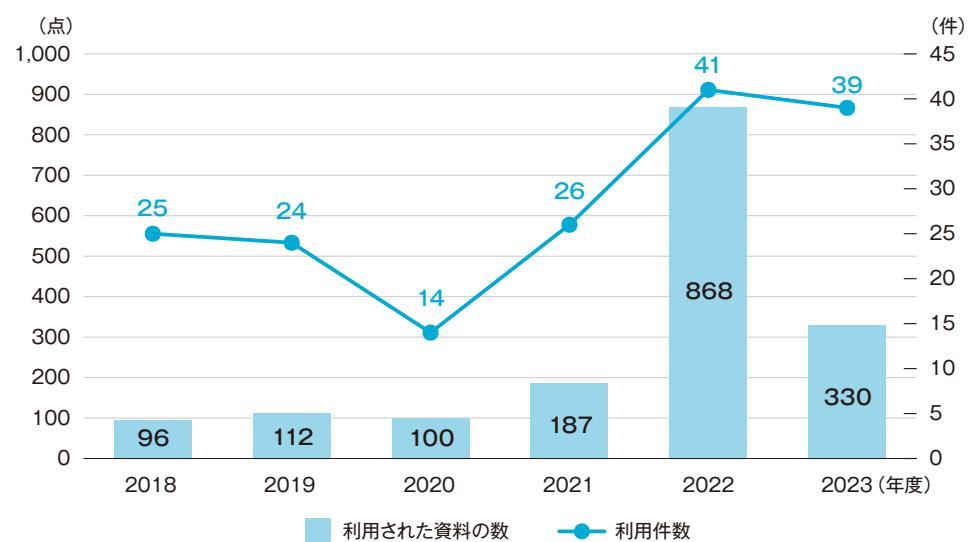
大学等授業利用

みんぱくの展示場を、大学（大学、大学院、短期大学）の講義やセミナー等に利用。

● 展示場の大学授業利用制度による利用者数と利用件数の推移



● 大学等授業利用申請によって利用された映像・音響資料の数と利用件数の推移



注：2021年度からストリーミング配信による映像提供を開始した

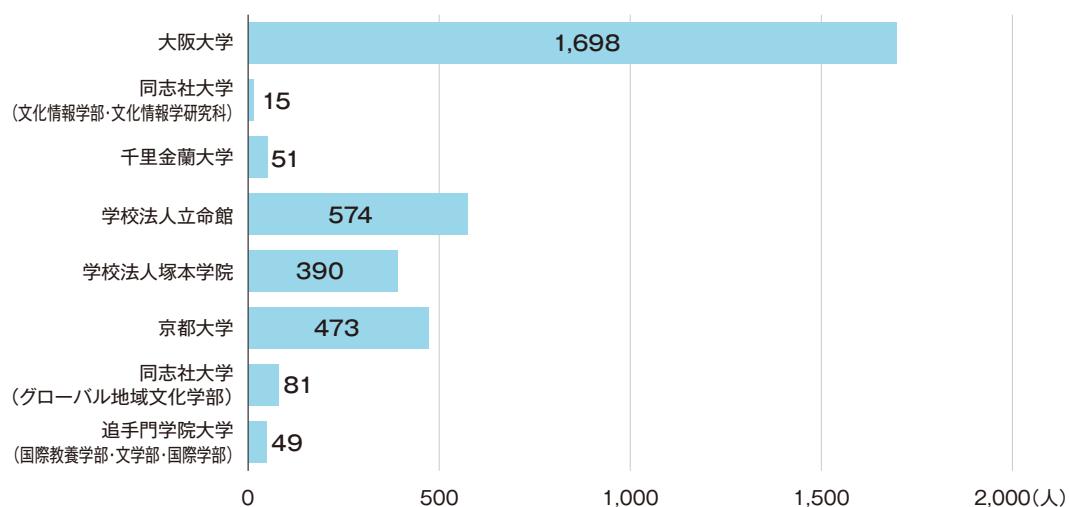
キャンパスメンバーズ

国立民族学博物館と大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。

● 令和5年度 キャンパスメンバーズ会員大学一覧

No.	入会年月	大学名	利用対象者数（人）
1	H22.10	国立大学法人 大阪大学	24,310
2	H24.7	同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科	1,300
3	H25.1	千里金蘭大学	809
4	H26.4	学校法人立命館 立命館大学・大学院・附属校	42,967
5	H28.4	学校法人塙本学院（大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校、*通信課程含む）	9,316
6	H29.4	国立大学法人 京都大学	23,219
7	R1.10	同志社大学 グローバル地域文化学部	837
8	R4.5	追手門学院大学（国際教養学部・文学部・国際学部）	1,407
合計			104,165

● 令和5年度 キャンパスメンバーズ制度による来館者数



貸出用学習キット「みんぱっく」

学校や社会教育施設等を対象に、学習キット「みんぱっく」を貸出している。「みんぱっく」は世界の国や地域の衣装や楽器、日常生活で使う道具や子どもたちの学用品などをスーツケースにパックしたもの。

● 令和5年度 みんぱっくの運用パック一覧

No.	パック名	担当教員	個数（個）
1	極北を生きる—カナダ・イヌイットのアノラックとダッフルコート	岸上伸啓	2
2	アンデスの玉手箱—ペルー南高地の祭りと生活	松本雄一	2
3	ジャワ島の装い—宗教と伝統	福岡正太	1
4	イスラム教とアラブ世界のくらし	菅瀬晶子・相島葉月	1
5	ソウルスタイル	太田心平	2
6	ソウルのこども時間—こどもの一日	太田心平	2
7	インドのサリーとクルター	南アジア展示プロジェクトチーム	2
8	アラビアンナイトの世界	山中由里子	2
9	アイヌ文化にであう	齋藤玲子	2
10	モンゴル—草原のかおりをたのしむ	島村一平	3
11	あるく、ウメサオタダ才展	上羽陽子	1
12	世界のムスリムのくらし1—日常の中の祈り	山中由里子 他	2
13	世界のムスリムのくらし2—同時代を生きる	山中由里子 他	2
14	エチオピアのコーヒーセレモニー	川瀬 慶	1
15	エチオピアをまとう—アムハラの装い	川瀬 慶	1
計			26

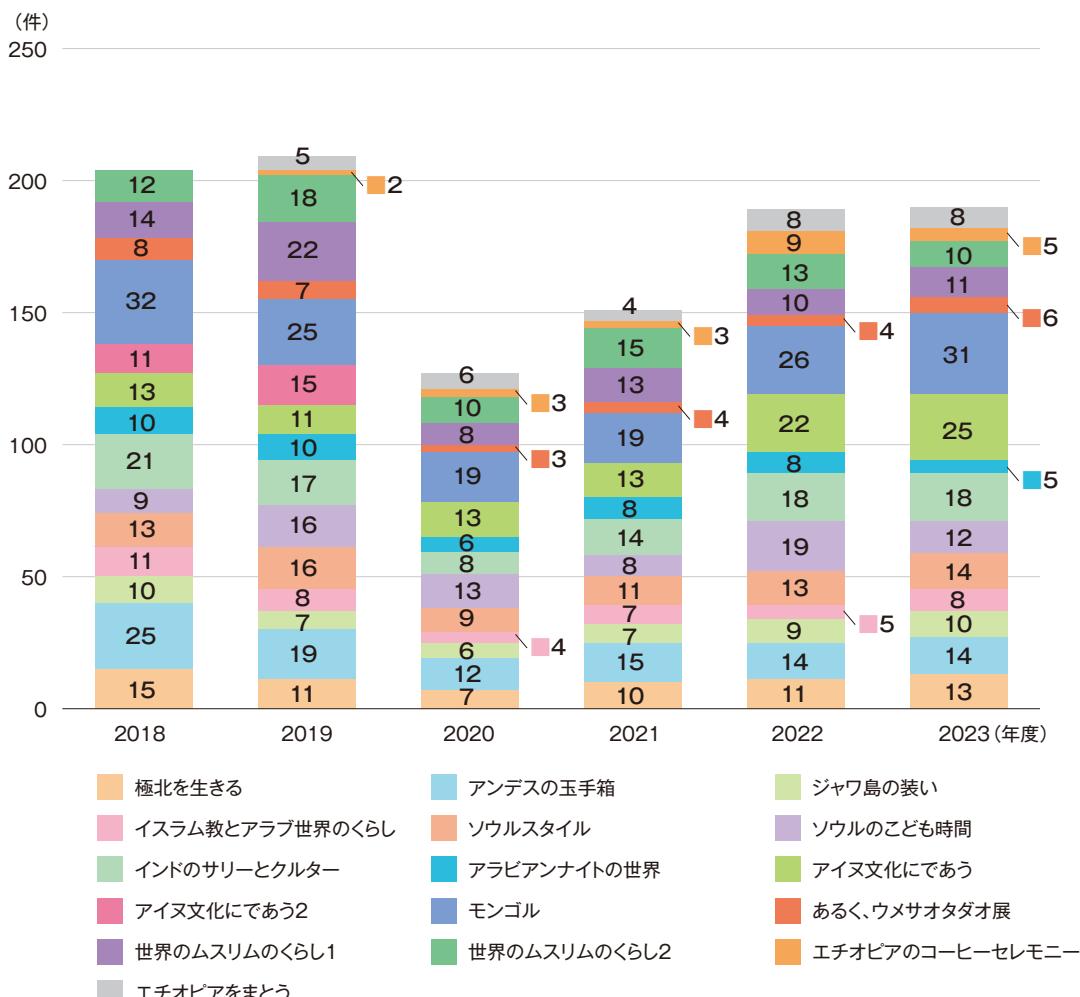


エチオピアをまとう—アムハラの装い



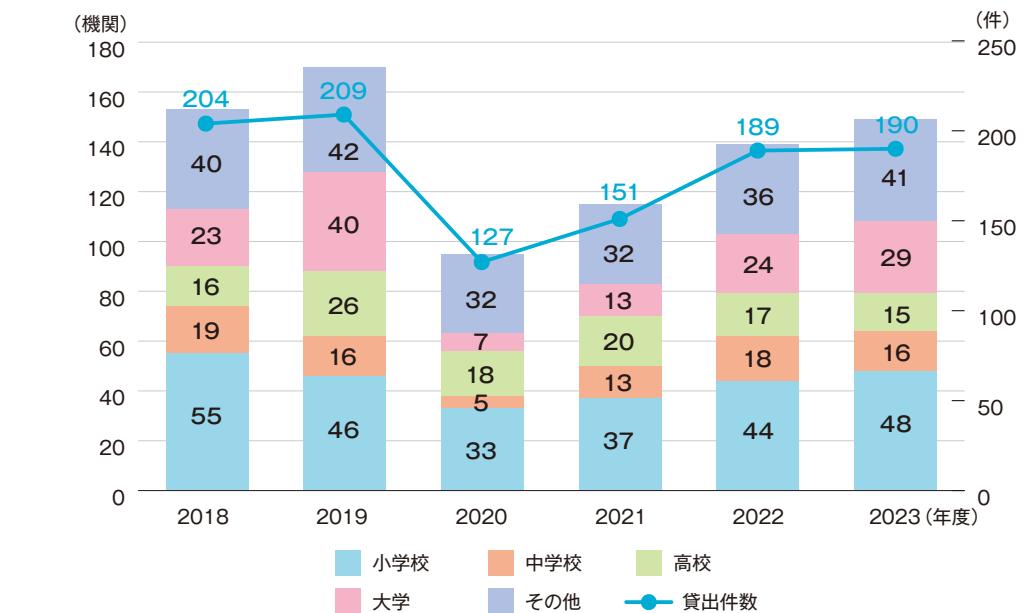
モンゴル—草原のかおりを楽しむ

● みんぱっくの貸出しパック数の推移

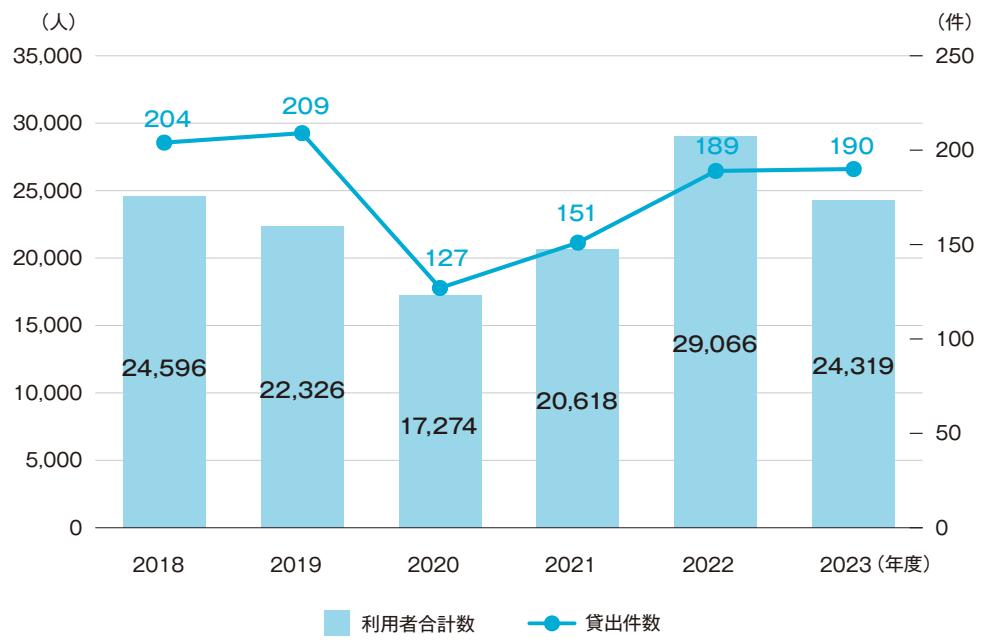


注:「アイヌ文化にあらう2」は現在、運用していない

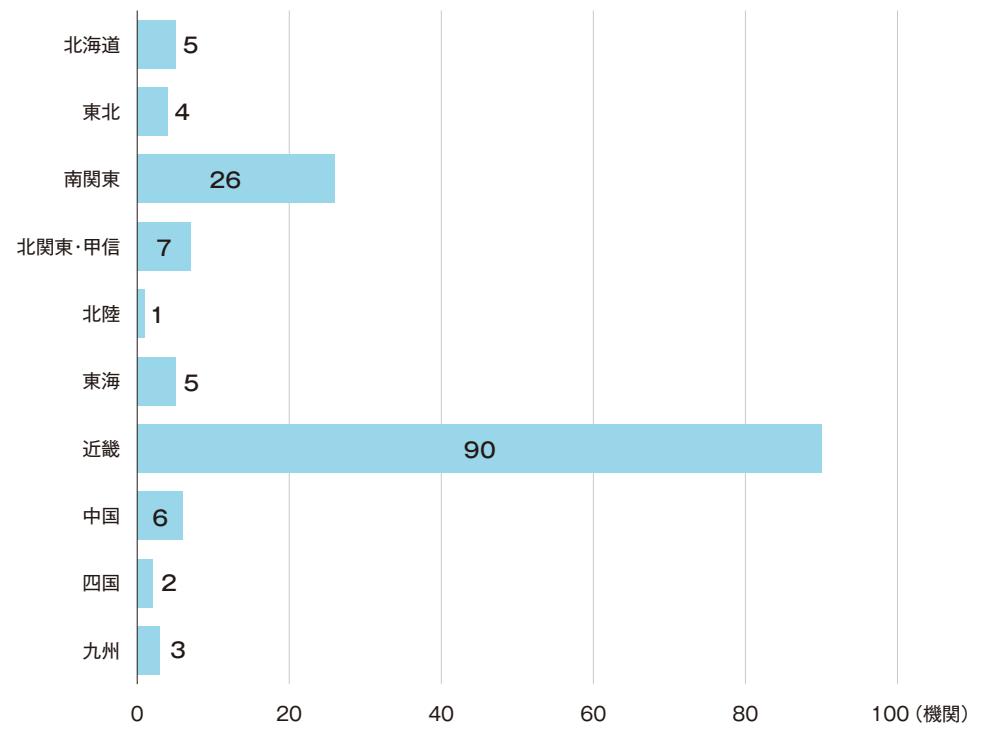
● 利用者区分別のみんぱっく貸出機関数と貸出件数の推移



● みんぱっくの貸出件数と年間利用者数



● 令和5年度 地域別のみんぱっく利用機関数



注：同一機関が1年間に複数回利用した場合、貸出期間が異なる場合は別に計上した

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

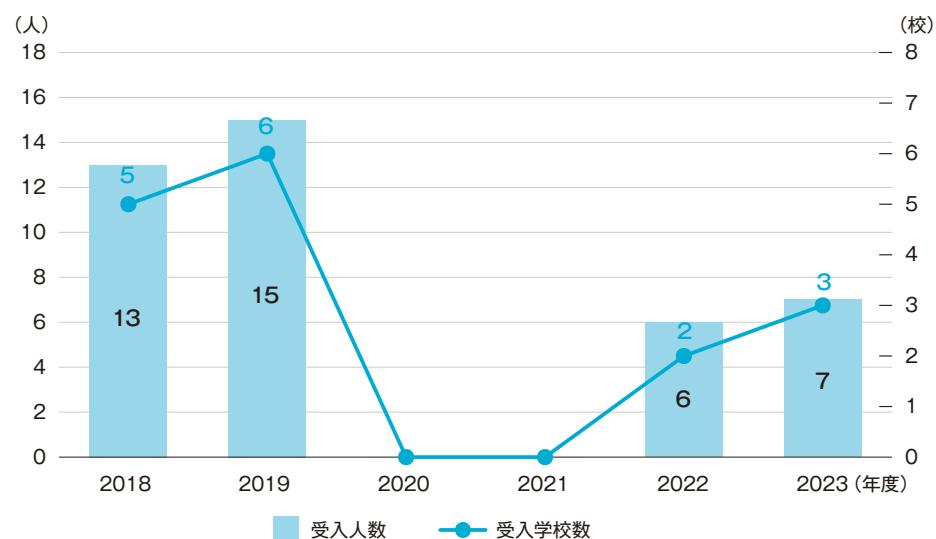
産学連携

大学院教育

業務運営

職場体験活動

● 職場体験活動で受け入れた生徒と学校の数

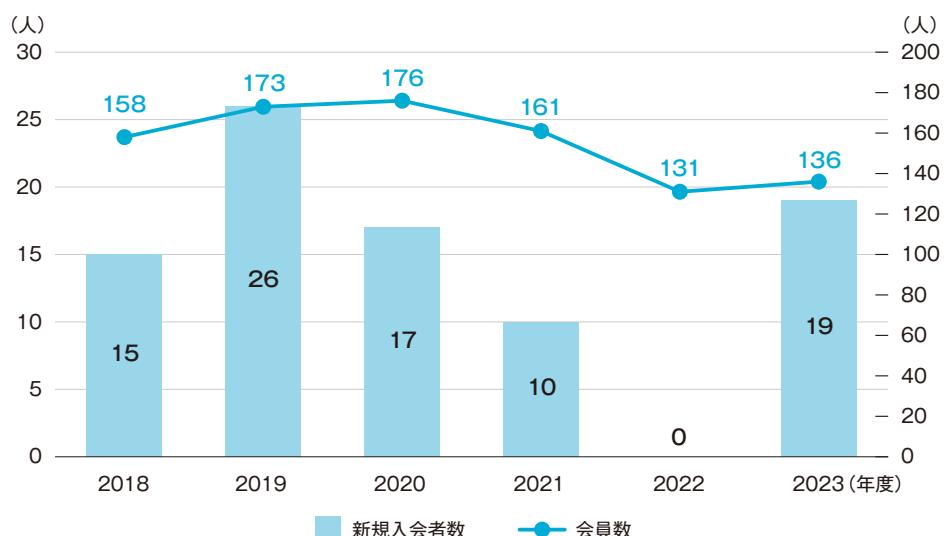


注：2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受入を中止した

ボランティア活動の受入

「みんぱくミュージアムパートナーズ（MMP）」は、本館の博物館活動をサポートする自律的な組織として平成16年9月に発足した団体。「視覚障害者むけ本館展示場案内」や、「わくわく体験 in みんぱく」、一般来館者向けのものづくりワークショップなど、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。

● みんぱくミュージアムパートナーズ（MMP）の新規入会者数と会員数の推移



注：2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で新規募集を停止した

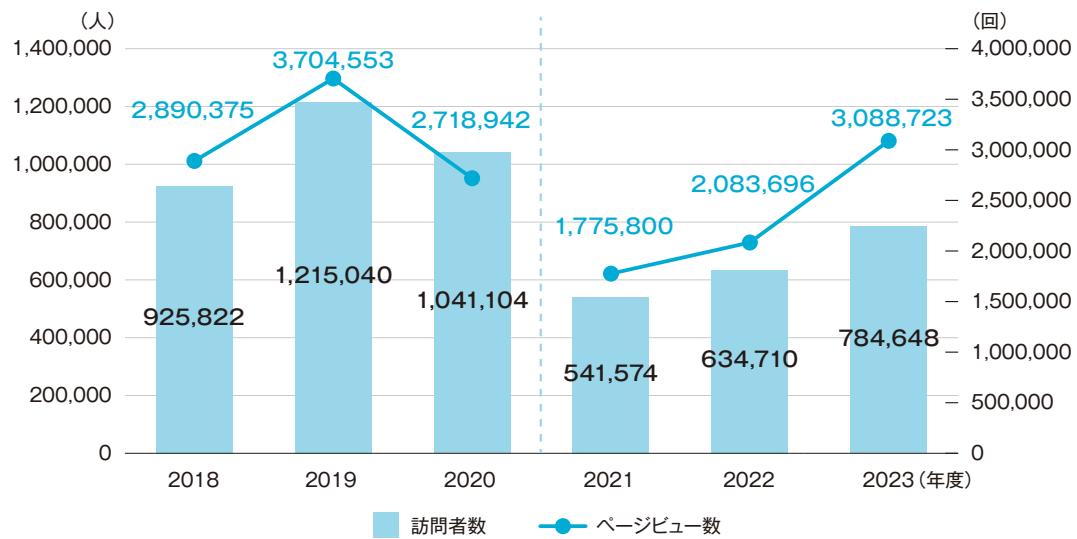
6-3 インターネットによる情報発信

組織

ホームページ

研究

● みんぱくホームページ利用者数の推移



注1：2021年度より、ホームページリニューアルに伴い、算出方法を変更した

注2：2023年7月より、計測ツールをGoogle アナリティクス最新版（GA4）に移行

共同利用

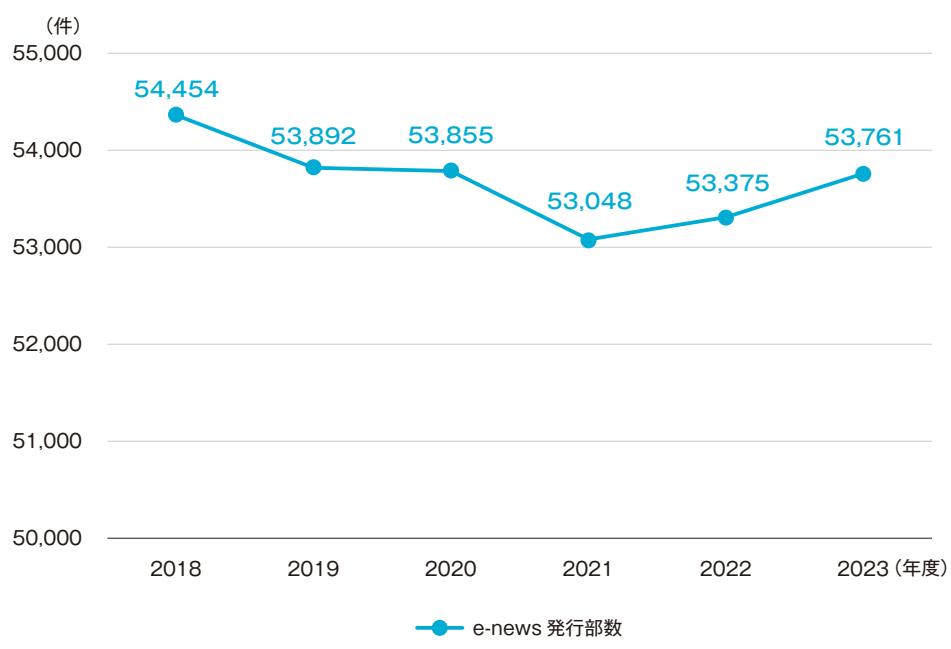
展示

メールマガジン

国際連携

● メールマガジン（みんぱく e-news）配信数の推移

社会連携

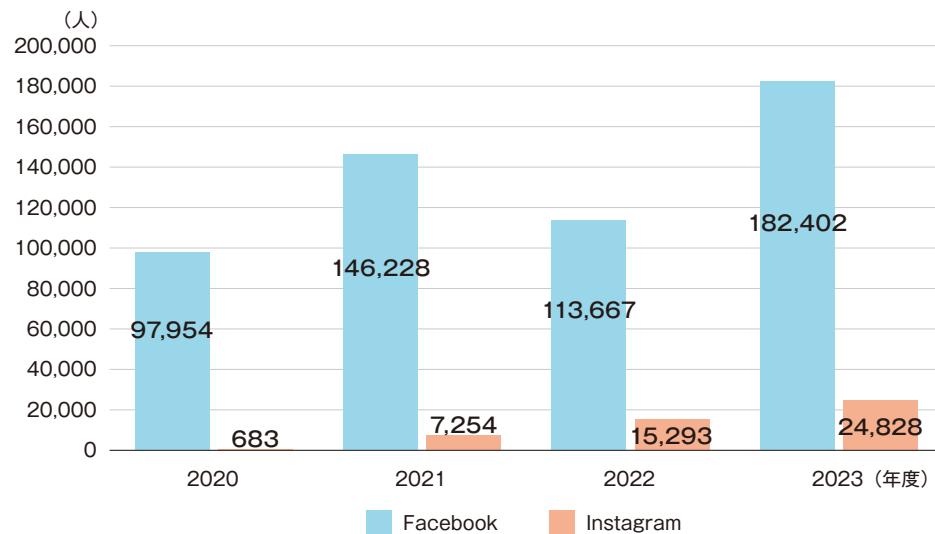


産学連携

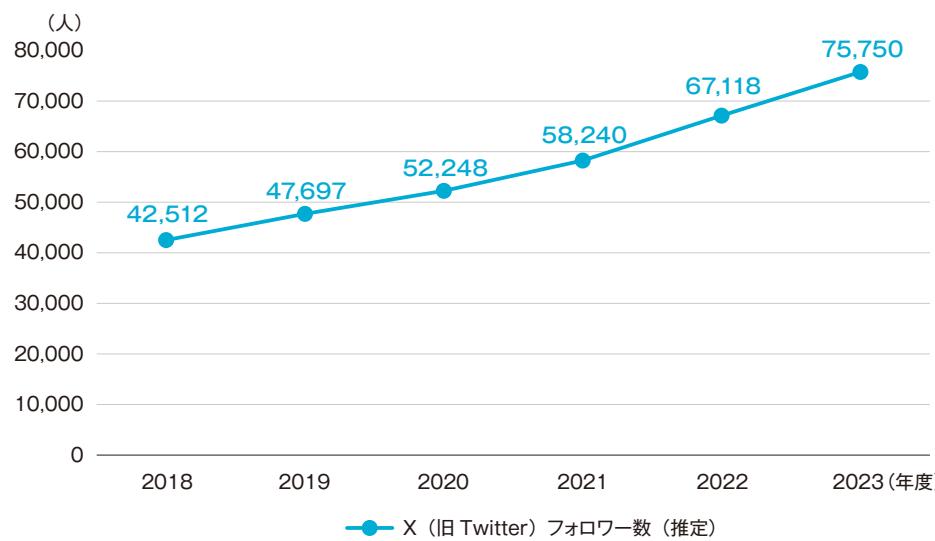
大学院教育

業務運営

● SNS 利用者数（リーチ数）

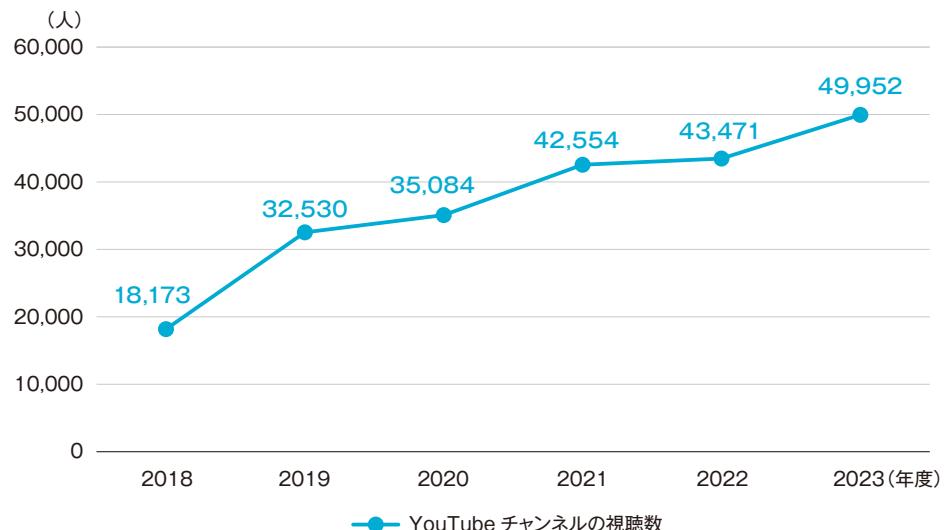


● X (旧 Twitter) フォロワー数の推移



注：2023年度は2024年4月10日時点のフォロワー数

● YouTube チャンネルの視聴数の推移



6-4 開催イベント

公開講演会

● 令和5年度 公開講演会一覧

No.	実施日	タイトル	講演者	参加者数 (人)	
				会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2023年11月10日	依存するヒト——民族・国家・嗜好品	松本俊彦・平野智佳子・野林厚志	220	226
2	2024年3月1日	日本の仮面をつくる：現代に生きる神楽面	吉田憲司・鈴木昂太・竹原雅也・小林泰三	296	169
				合計	516 395

みんぱくゼミナール

研究部の教員などが最新の研究成果をわかりやすく講演している。

● 令和5年度 みんぱくゼミナール一覧

□特別展関連 ○企画展関連

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数 (人)
1	□ 第532回	2023年4月15日	記憶と抵抗のメディアとしての民衆芸術	鈴木 紀 酒井朋子（京都大学准教授） 細谷広美（成蹊大学教授） 山越英嗣（都留文科大学准教授）	161

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
2	第533回	2023年5月20日	データベースからデジタルミュージアムへ——文化遺産オンラインのリニューアル公開とタイムマシンナビ	丸川雄三	81
3	第534回	2023年6月17日	日本人による最初期のガラパゴス探険	丹羽典生	92
4	第535回	2023年7月15日	情報工学研究者のフィールドワーク	宮前知佐子	79
5	第536回	2023年8月19日	死してなお『生きる』者——現代イランにおける戦後と殉教者	黒田賢治	91
6	第537回	2023年9月16日	ベトナムの黒タイの神話	樺永真佐夫	108
7	□ 第538回	2023年10月21日	暮らしの中に現れる神がみ——現代ヒンドゥー教徒の生活の場から	三尾 稔	185
8	○ 第539回	2023年11月18日	北アメリカ北西海岸地域の先住民アート——シルクスクリーン版画を中心に	岸上伸啓	118
9	第540回	2023年12月16日	「友よ、水になれ」——メディア化時代における身体知のゆくえ	相島葉月	72
10	第541回	2024年1月20日	博物館の舞台裏——資料の保存を考える	園田直子	176
11	第542回	2024年2月17日	地球と文明——ホモ・サビエンス史からの展望	池谷和信	190
12	○ 第543回	2024年3月16日	水俣病を伝える	永野三智 ((一財) 水俣病センター相思社常務理事) 平井京之介	226
					合計 1,579

みんぱくウィークエンド・サロン

本館の研究者が展示場で「現在取り組んでいる研究」「調査している地域（国）の最新情報」「みんぱくの展示資料」など、多彩な話題を提供している。

● 令和5年度 みんぱくウィークエンド・サロン一覧

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
1	第623回	2023年4月2日	メキシコ絵画と民衆芸術	鈴木 紀	75
2	第624回	2023年4月9日	中国地域の文化『宗教と文字』コーナーの新しい見どころ	末森 薫 奈良雅史	22
3	第625回	2023年4月30日	メキシコ、オアハカの版画運動	長崎由幹 (映像技術者／PUMPQUAKES) 清水チナツ (インディペンデント・キュレーター／PUMPQUAKES) 鈴木 紀	110
4	第626回	2023年5月14日	アマゾンの聖人祭——在来の伝統とキリスト教の融合	齋藤 晃	46
5	第627回	2023年7月9日	ウズベキスタンにおける考古学調査の最新情報	寺村裕史	33

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
6	第628回	2023年7月23日	人間にとて狩猟とは何か	池谷和信	56
7	第629回	2023年8月27日	セネガルの食事——輸入穀物と伝統穀物に注目して	三島禎子	48
8	第630回	2023年9月10日	カナダ北西海岸先住民のスクリーン版画の世界	岸上伸啓	21
9	第631回	2023年10月1日	神になる人びと——南インド・ケーララ州のティヤム祭祀	竹村嘉晃（平安女学院大学准教授） 三尾 稔	55
10	第632回	2023年10月8日	「交感する神と人」の「場」としての寺院の様相	永田 郁（崇城大学教授） 三尾 稔	73
11	第633回	2023年10月15日	神がみを演じる——ネパールの仮面舞踊	北田 信（大阪大学外国語学部教授） 南 真木人	66
12	第634回	2023年10月22日	神を飾り、愛でる——ヒンドゥー神像の衣装選び	福内千絵（大阪芸術大学非常勤講師） 南 真木人	54
13	第635回	2023年10月29日	パブリック・アートと先住民文化——北西海岸先住民とアイヌ民族の事例から	齋藤玲子	36
14	第636回	2023年11月5日	神がみとかかわる方法あれこれ	三尾 稔	97
15	第637回	2023年11月12日	戦前期日本でつくられた『ヒンズー神像』の足跡をたどる	豊山亜希（近畿大学准教授） 上羽陽子	77
16	第638回	2023年11月19日	人と神とをつなぐ刺繍布——戸口飾り布トーラン	上羽陽子	59
17	第639回	2023年11月26日	カナダ北西海岸とアメリカ南西部の金属細工	伊藤敦規	35
18	第640回	2023年12月3日	オーストラリア先住民のアート	平野智佳子	36
19	第641回	2023年12月10日	探して、掘って、読み解く：ペルー海岸部に古代帝国の痕跡を求めて	松本雄一	34
20	第642回	2023年12月24日	聖地パレスチナのクリスマス	菅瀬晶子	50
21	第643回	2024年1月28日	奴隸制の歴史を展示する——オランダの博物館の試み	松尾瑞穂	18
22	第644回	2024年2月11日	デジタル化がもたらす社会の変化——北欧ノルウェーを例に	宮前知佐子	22
23	第645回	2024年2月25日	ベトナム西北部のフィールドワーク	樋永真佐夫	21
24	第646回	2024年3月10日	新規に加わったパキスタン資料をもう少しじっくり見たくなる話	吉岡 乾	28
25	第647回	2024年3月24日	企画展「水俣病を伝える」——フィールドワーク展示の試み	平井京之介	36
26	第648回	2024年3月31日	みんぱく「韓国パック」のリニューアル・プリビュー——子どもの伝統衣装	諸 昭喜	28

合計 1,236

組織研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

研究公演

文化人類学・民族学に関する理解を深めてもらうことを目的として、世界の諸民族の音楽や芸能などの公演を実施している。

● 令和5年度 研究公演一覧

みんなく映画会

上映される機会の少ない文化人類学・民族学に関する貴重な映像資料などを、教員の解説を交えて上映している。

● 令和5年度 みんぱく映画会一覧

- みんぱく映画会

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数 (人)
				会場参加
1	2023年7月29日	HARAJUKU 原宿	宮前知佐子 安倍オースタッド玲子（オスロ大学 教授） エイリーク・スヴェンソン（映画監督）	195
2	2023年11月3日	ガンジスに還る	三尾 稔	284

④ みんぱく映像民族誌シアター

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数 (人)	
				会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2023年1月13日	津軽のカミサマ	黒田賢治 大森康宏 (国立民族学博物館名誉教授)	40	36
2	2024年1月21日	千年の時を奏でる——モロッコのアンダルシア音楽祭	黒田賢治 堀内正樹 (成蹊大学元教授) 西尾哲夫 (国立民族学博物館名誉教授)	43	59
3	2024年2月10日	ジャワ島チルボンの木偶人形 芝居——ワヤン・ゴレック・チュバック	黒田賢治 福岡正太	40	34
4	2024年2月18日	面打ち——京都の能面師	黒田賢治 吉田憲司	32	60
				合計	155 189

● みんぱくワールドシネマ

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
					会場参加
1	第54回	2023年5月27日	ラ・ヨローナ 彷徨う女	菅瀬晶子 鈴木 紀	250
2	第55回	2023年9月30日	最後の渡り鳥たち	菅瀬晶子 松原正毅（国立民族学博物館名誉教授）	275
3	第56回	2024年1月27日	はちどり	菅瀬晶子 諸 昭喜	267
					合計 792

ワークショップ

本館の研究者の研究成果を社会に還元することをめざし、ものづくりなどの体験型プログラムを通して、世界の文化を紹介している。

● 令和5年度 ワークショップ一覧

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
1	2023年 4月8日 5月3日	モラ——色紙をかさねて、先住民族グナのアート体験	鈴木 紀	30
2	2023年 7月2日 10月22日	みんぱく Sama-Sama塾	信田敏宏	75
3	2023年 7月22日	フィールドワークに挑戦！——見る・感じる・描く オーストラリアの先住民アート	平野智佳子	12
4	2023年 9月24日	ヒンドゥー教の讃歌「バジヤン」を歌ってみよう	三尾 稔 ミーター・パンディット（北インド古 典音楽声楽家・Somaiya 大学教員） 虫賀幹華（京都大学白眉センター 特定 助教） 林 恵王（タブラー奏者）	32
5	2023年 10月9日	インドの日常の祈り 床絵（コーラム）を描く	三尾 稔 永田 郁（崇城大学芸術学部教授） 安森大樹（ルーテル学院高等学校非常 勤講師）	17
6	2023年 10月28日	ペーパークラフトでトーテムポールをつくろう	岸上伸啓	15
7	2023年 11月25日	カナダ北西海岸先住民のスクリーン版画に挑戦	岸上伸啓	17
8	2023年 12月23日 2024年 1月6日 1月7日	HAPPY 龍 YEAR! @みんぱく	企画課	500

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

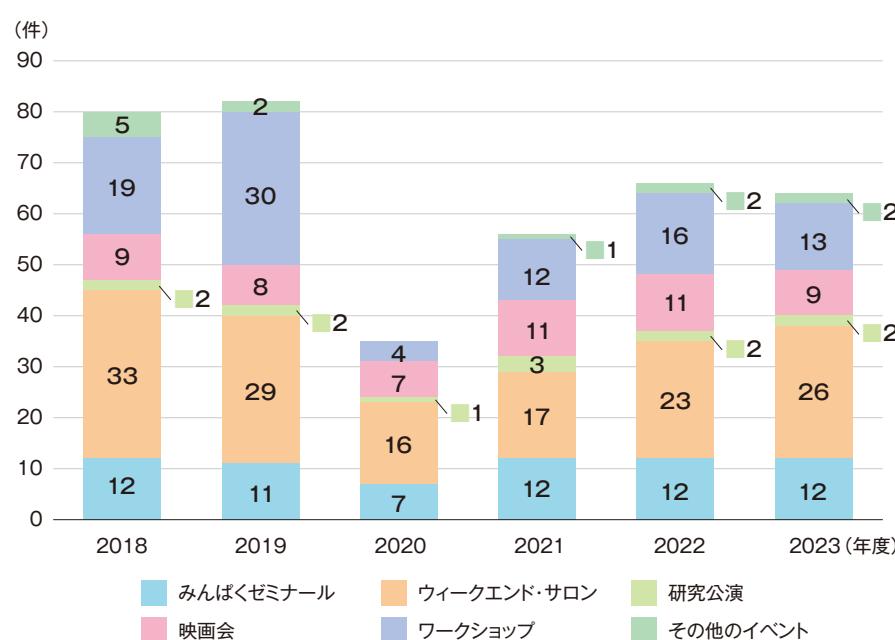
大学院教育

業務運営

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
9	2024年3月30日	水俣の海を感じる——語り部講話ヒシーグラス体験	吉永理巳子(一般社団法人 水俣病を語り継ぐ会代表理事) 吉永利夫(一般社団法人 水俣病を語り継ぐ会理事) 平井京之介	18
716				
1	2023年6月11日	音楽の祭日2023 in みんぱく		714
2	2023年11月30日	ミニパク オッタ カムイノミ		251
合計				965

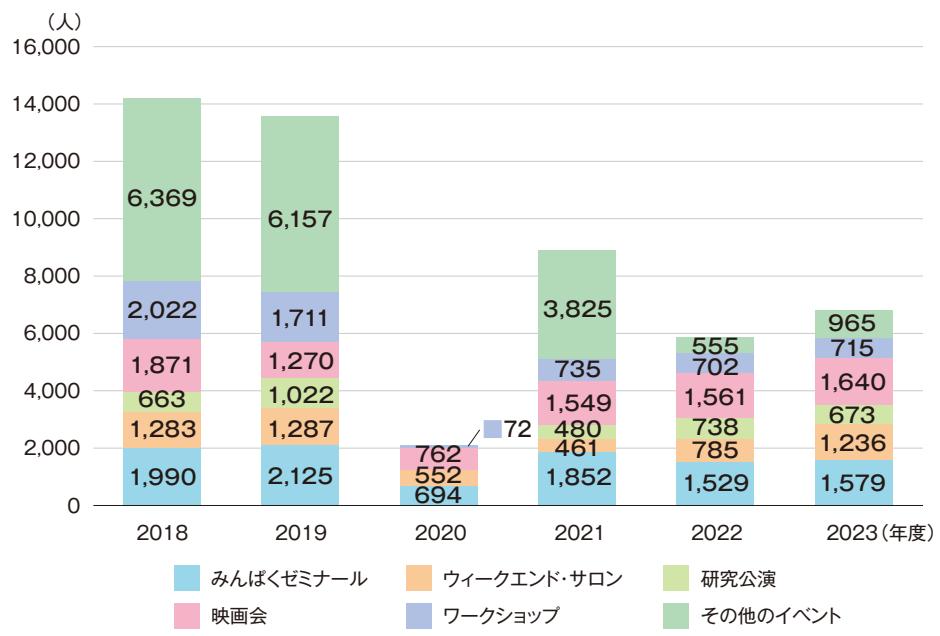
イベント開催件数と参加者数の推移

イベントの開催件数の推移



注：公開講演会は含まれていない

● イベントの参加者数の推移



注1：公開講演会は含まれていない

注2：2020年度の研究公演はオンライン配信で参加者の数が不明なので集計に含まれていない

注3：2021年度以降はオンライン参加者の数（オンライン同時接続数）を含む

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

产学連携

大学院教育

業務運営

7 産学連携

産学連携活動の実施状況

民間企業との共同研究

● 令和5年度 産学連携に関する協定一覧

締結日	相手機関名	協定の概要
R5.7.1	WHILL 株式会社	産学連携の推進・学術研究の振興・研究成果による社会貢献・その他諸活動の発展に向けた連携協力

知的財産形成・特許出願

● 令和5年度 特許・商標取得一覧

発明・商標の名称	発明者氏名（所属）	発明者 届出日	知的財産委員会 (旧発明委員会) 開催日	特許申請日及び 特許出願審査 請求日	出願番号	特許取得の結果
該当なし						

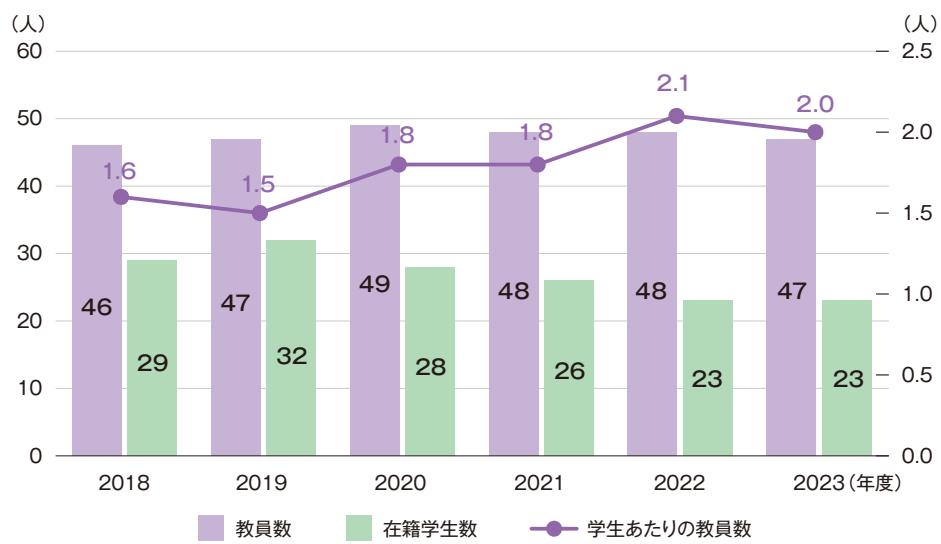
8 大学院教育

総合研究大学院大学

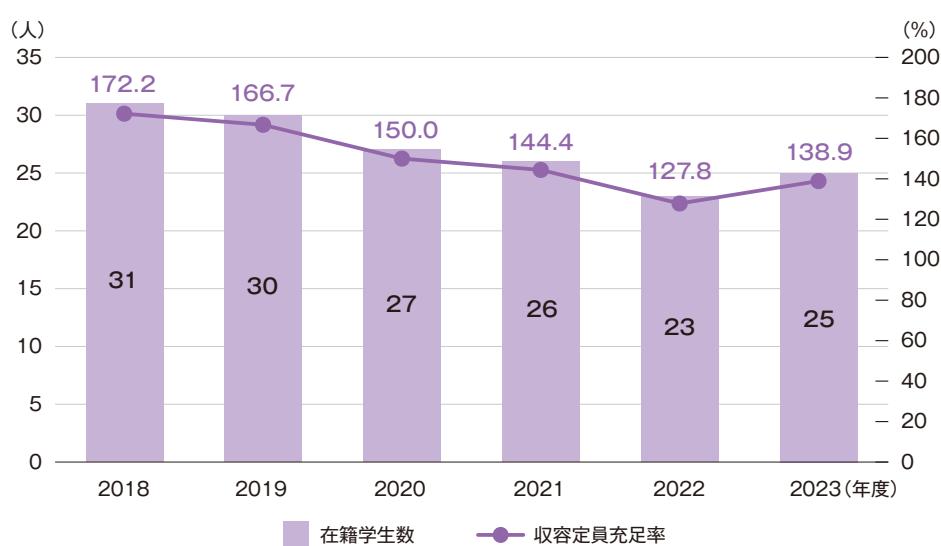
みんぱくには、総合研究大学院大学（総研大）の人類文化研究コース（博士後期課程）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。

8-1 教員数・在籍学生数

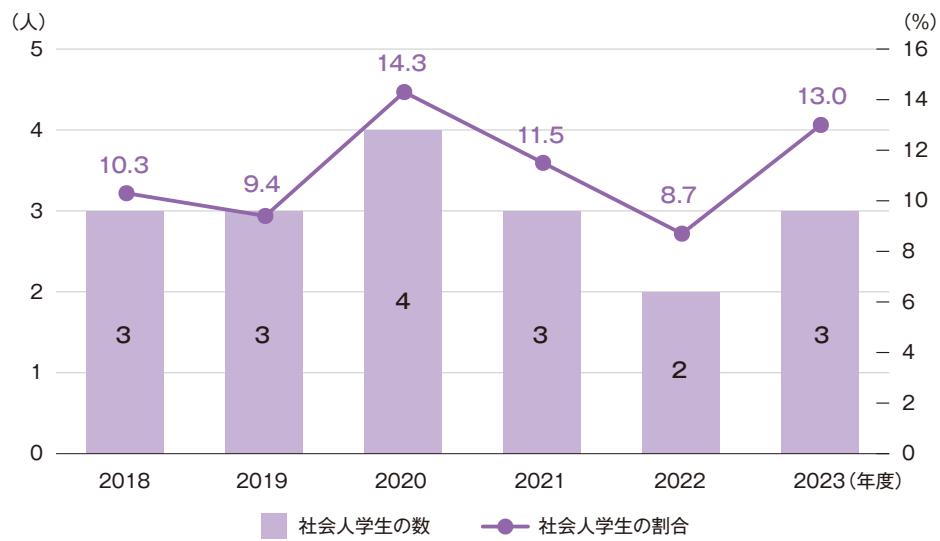
● 教員数と在籍学生数の推移



● 在籍学生数と収容定員充足率（在籍者数／収容定員）の推移



● 社会人学生の数と割合

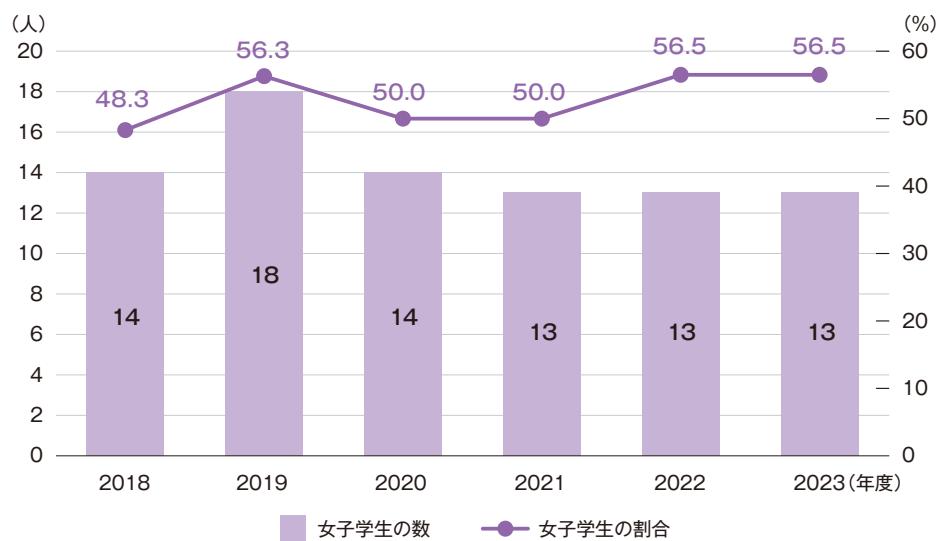


注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

注2：在籍基準日は3月31日

● 女子学生の数と割合

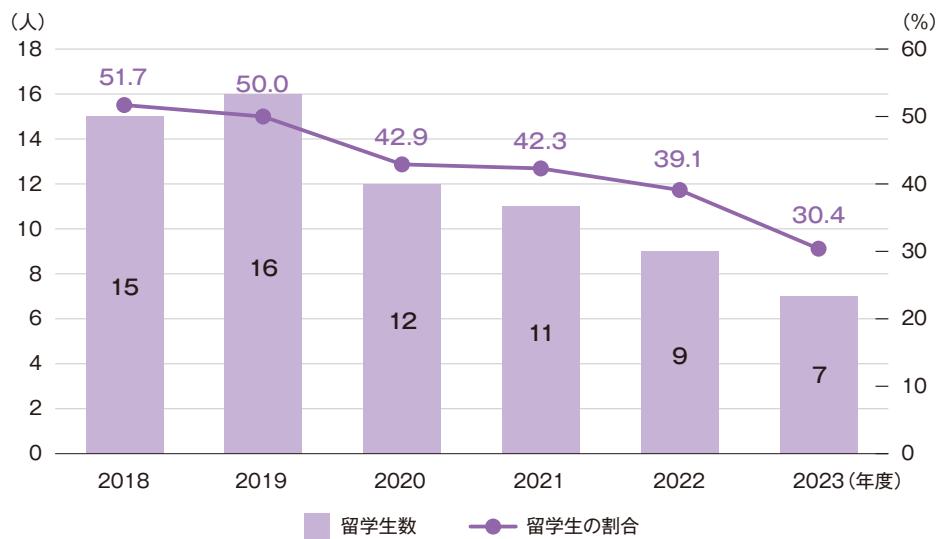


注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

注2：在籍基準日は3月31日

● 留学生の数と割合

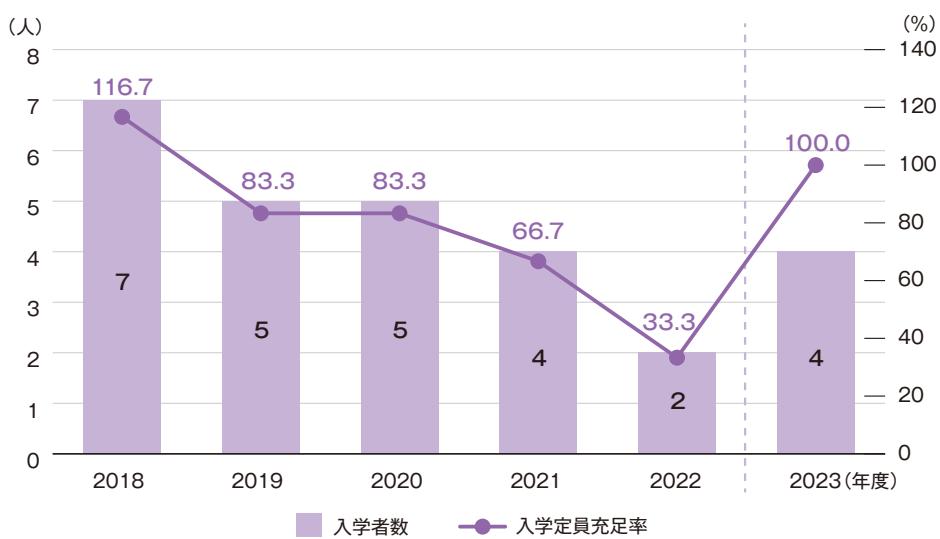


注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

注2：在籍基準日は3月31日

8-2 入学・志願状況

● 入学者数と定員充足率（入学者数／入学定員）の推移



注1：入試実施年度ではなく、入学年度である

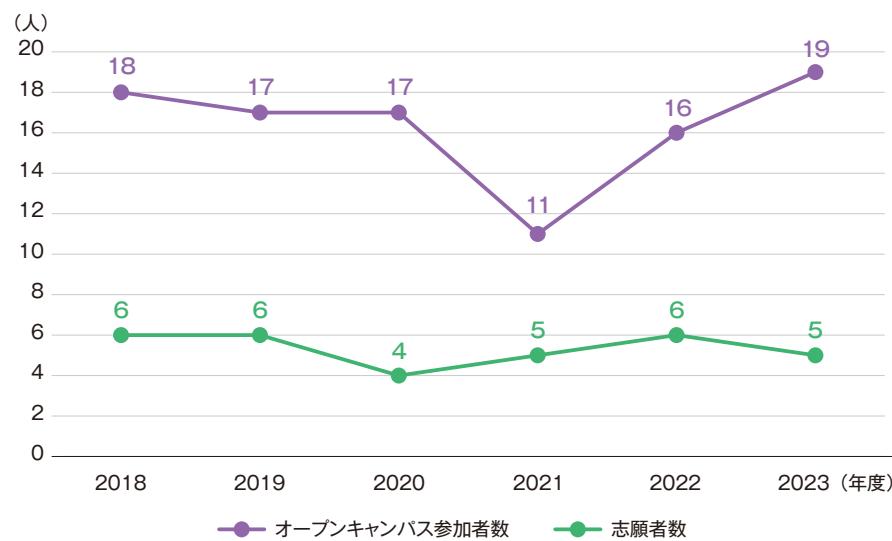
注2：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：人類文化研究コース

注3：2022年度以前：入学定員は各専攻3名の6名

2023年度以降：入学定員は4名

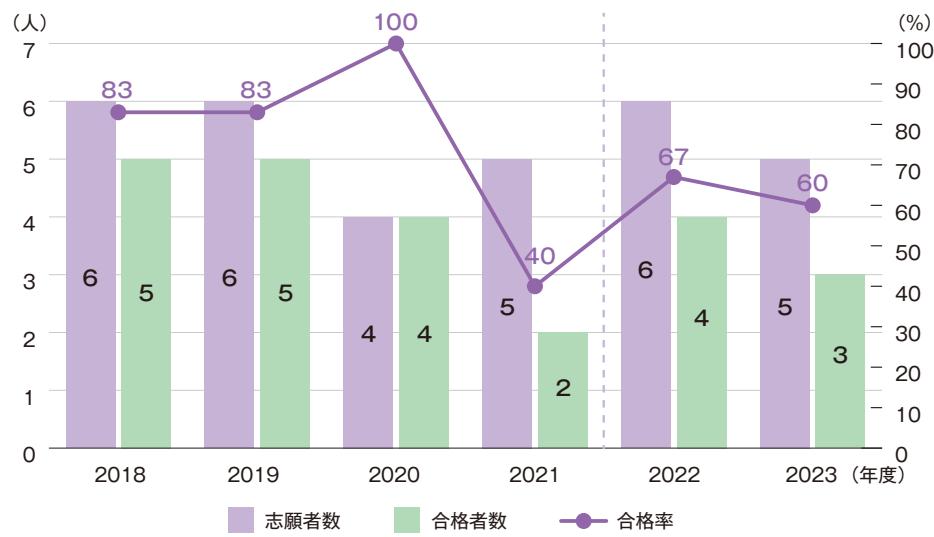
● オープンキャンパス参加者数と志願者数の推移



注1：入学年度ではなく、入試実施年度である

注2：2021年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2022年度以降：人類文化研究コース

● 志願者数、合格者数、合格率の推移



注1：入学年度ではなく、入試実施年度である

注2：2021年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2022年度以降：人類文化研究コース

8-3 学生支援状況

組織

大学による授業料免除実施

経済的理由により入学料や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援としての、入学料・授業料免除（収納猶予）制度。

● 授業料免除者（微収猶予者含む）数の推移

研究



注1：全額免除者、半額免除者、微収猶予者の合計

注2：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

共同利用

展示

国際連携

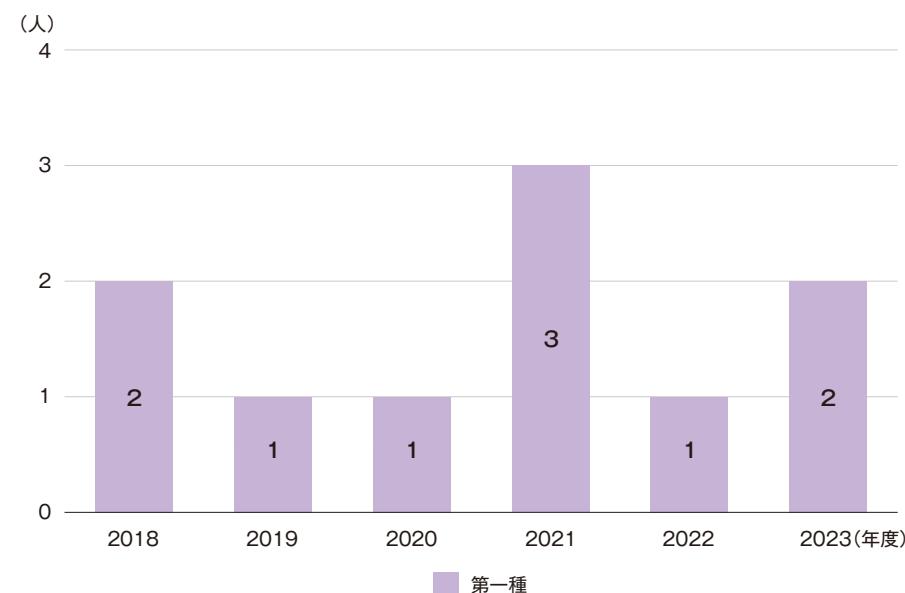
日本学生支援機構（JASSO）奨学金

社会連携

日本学生支援機構による奨学金制度。第一種（無利子）と第二種（有利子）がある。

● 日本学生支援機構（JASSO）奨学金の受給者数の推移

産学連携



注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

注2：すべて第一種。第二種は該当者なし

大学院教育

業務運営

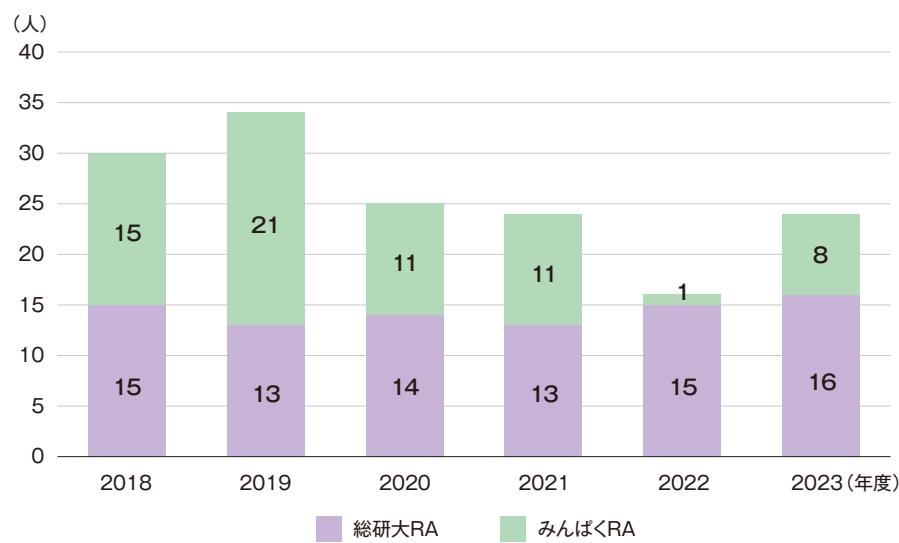
リサーチ・アシスタント (RA) 制度

本館教員の指示・監督の下、研究者の補助として研究活動に必要な様々な業務をおこないながら、給与を得る制度。

総研大RA：地域文化学専攻・比較文化学専攻、人類文化研究コースにおける教育研究プロジェクトにおける研究補助業務

みんぱくRA：国立民族学博物館が主催するプロジェクトにおける研究補助業務

● リサーチ・アシスタント (RA) 従事者の推移



注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

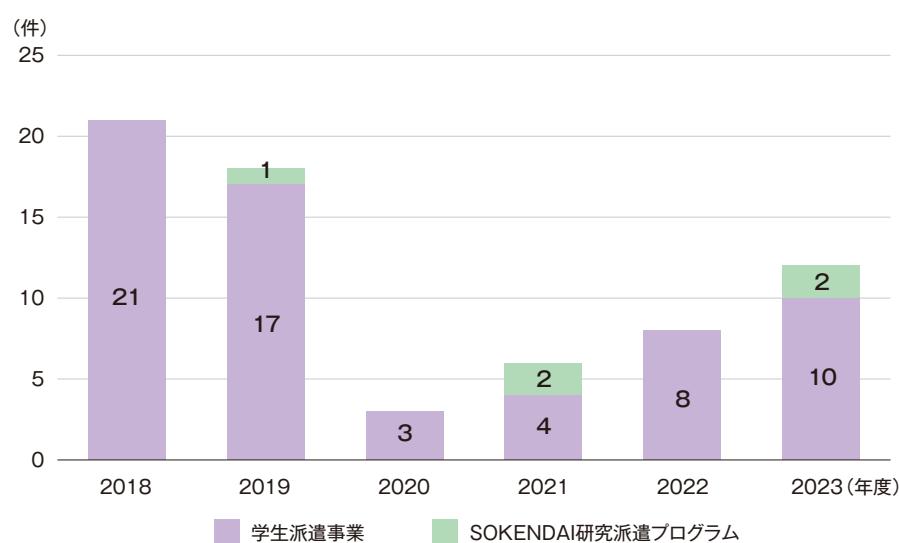
2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

学生派遣プログラム

SOKENDAI研究派遣プログラム（本部実施）：高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度。

学生派遣事業（専攻実施）：学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこなう。

● 学生向け研究支援事業の実施件数の推移



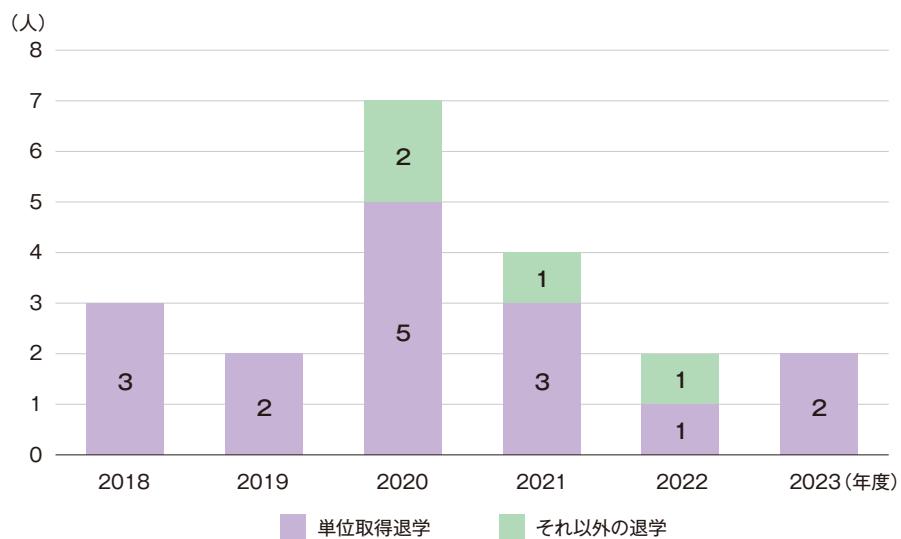
注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

8-4 退学者

組織
研究

● 退学者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

共同利用

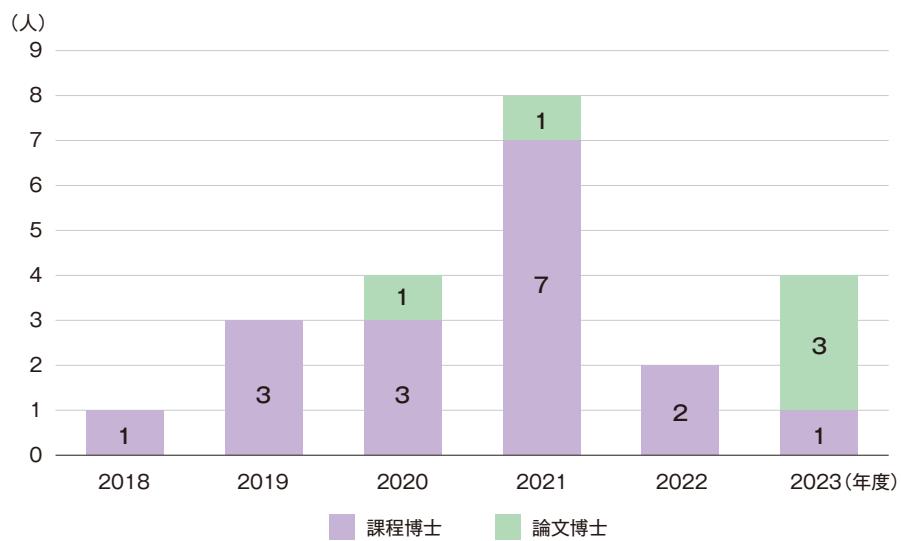
展示

国際連携

8-5 学位取得

社会連携

● 学位取得者数の推移



注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

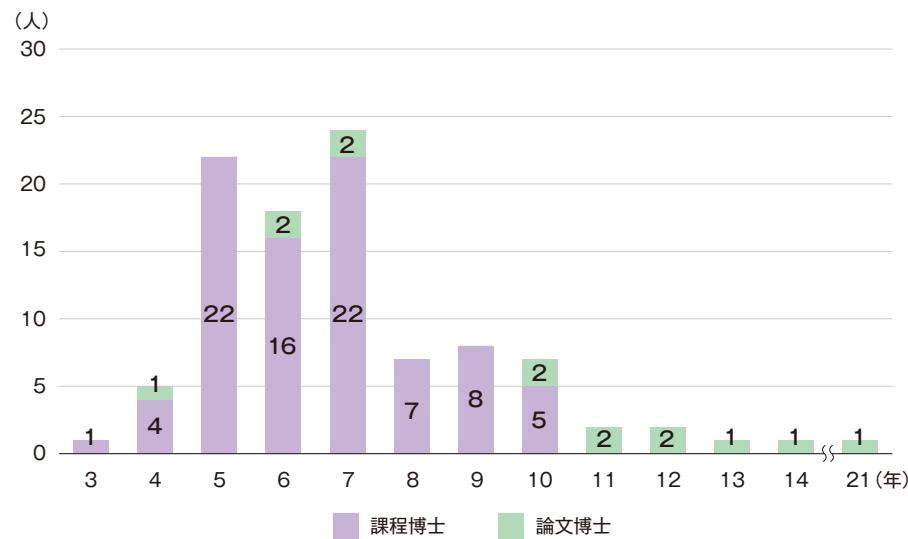
2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

産学連携

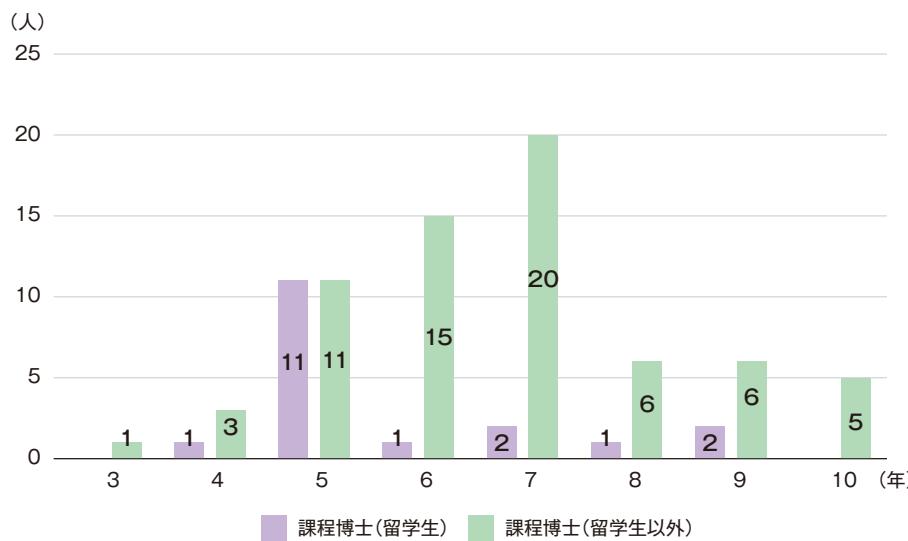
大学院教育

業務運営

● 学位取得までの年数



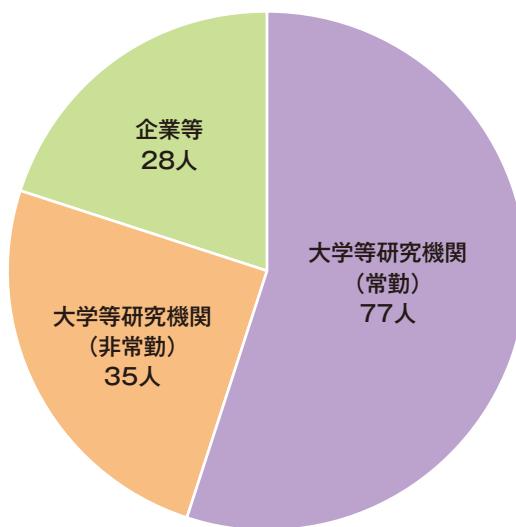
● 学位取得までの年数（留学生とそれ以外の比較）



8-6 卒業後の進路・就職

組織

● 修了生等の就職状況（令和5年10月1日現在）



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

研究

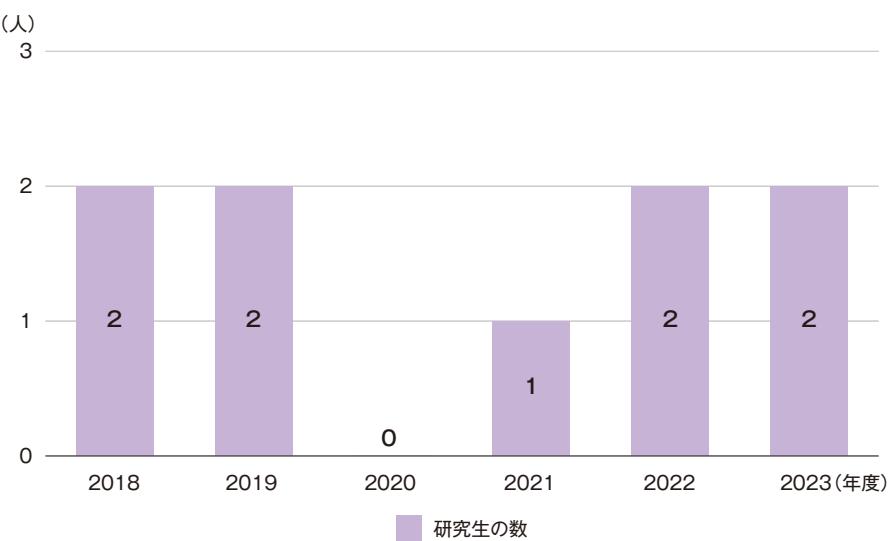
共同利用

展示

8-7 研究生

国際連携

● 研究生の数の推移



注：在籍基準日は3月31日

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

9 業務運営

9-1 収入・支出

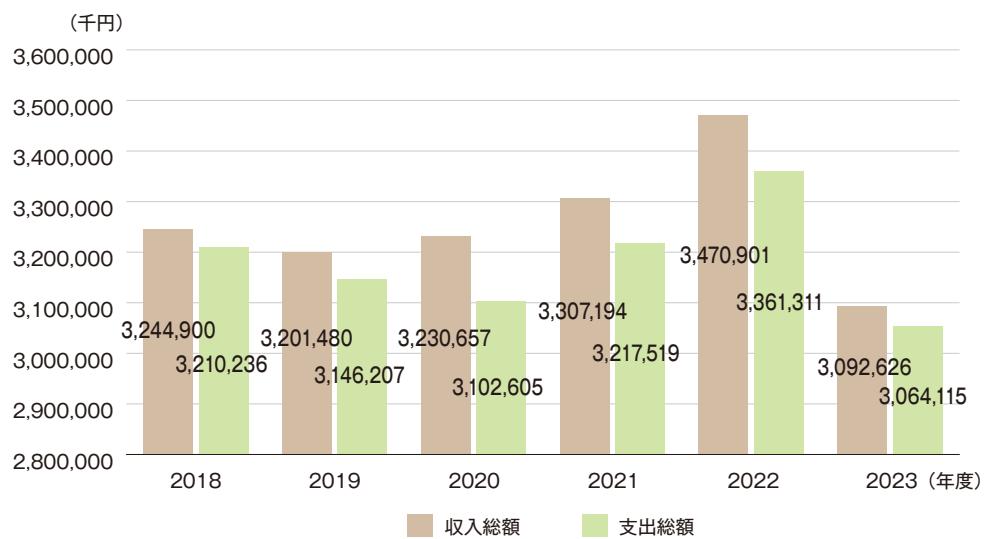
● 令和5年度 収支表

【収入】		(単位:千円)
項目	金額	
運営費交付金	2,704,850	
基幹運営費経費	2,492,397	
機構連携経費等	212,453	
自己収入(入場料等)	69,234	
総研大経費	45,180	
施設費	24,000	
補助金	0	
目的積立金	0	
科学研究費補助金(直接経費)	163,900	
科学研究費補助金(間接経費)	57,264	
寄付金	19,177	
共同研究・受託研究・受託事業	9,021	
	合計	3,092,626

【支出】		
項目	金額	
人件費	1,190,878	
物件費	1,684,388	
教育研究経費	323,292	
共同利用経費	989,969	
一般管理費	357,011	
大学院教育経費	14,116	
施設費(補助金含)	24,000	
共同研究・受託研究・受託事業	8,685	
科学研究費補助金(直接経費)	156,164	
	合計	3,064,115

※前年度繰越及び次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

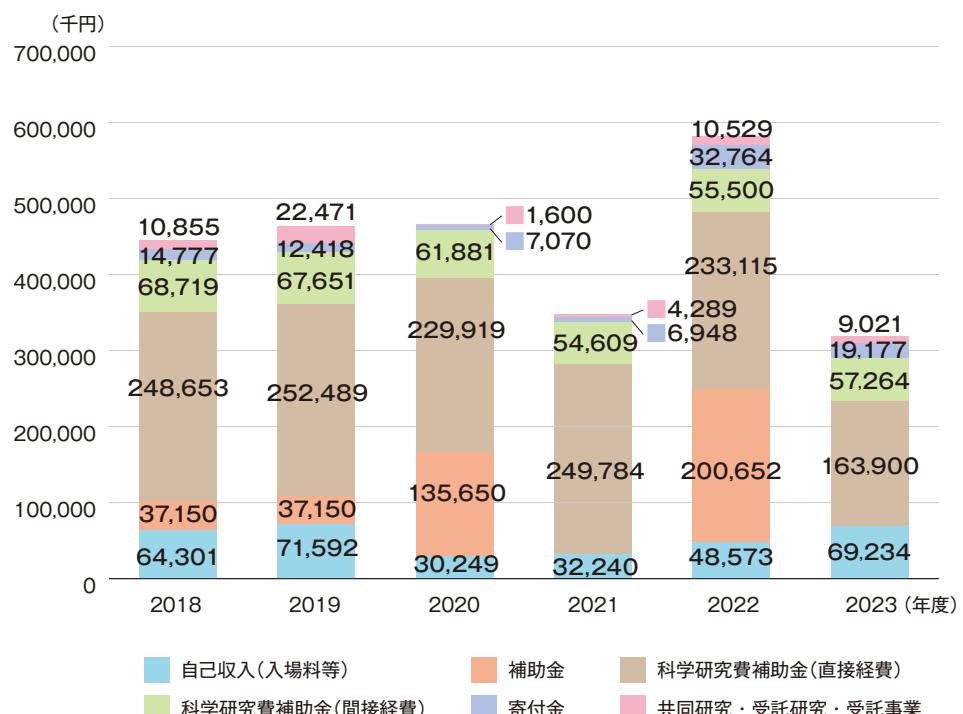
● 収入総額と支出総額の推移



注：前年度繰越および次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

9-2 自己収入と外部資金受入額の推移

● 自己収入および外部資金受入額の推移



注：大阪府北部地震の影響による臨時休館
2018年6月18日～8月22日
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
2020年2月28日～6月17日
2021年4月25日～6月23日

9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、2020年に入ってから世界中で感染が拡大し、世界的流行をもたらした。2020年4月7日には、大阪府が緊急事態措置を実施すべき区域に指定されるなど、みんぱくの活動にも大きな影響を与えた。

その影響は、教員、研究員、学生による現地調査の中止、学会参加や外国人研究員の招へい等の人的交流の停止、臨時休館や団体の受入制限など博物館活動の停止や規模縮小、大学院における対面授業の中止など多岐にわたる。程度の違いこそあれ、このファクトブックで扱ったすべての項目が影響を受けたと考えられる。そのうち、特に影響を大きかった活動制限について下記にまとめる。

なお、2023年度は2023年5月8日に「5類感染症」に移行したことに伴って、みんぱくの活動制限も大幅に緩和した。

新型コロナウイルス感染症による主な活動制限

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 臨時休館期間 : | • 2020年2月28日～6月17日 |
| | • 2021年4月25日～6月23日 |
| 団体受入の停止期間 : | • 2020年2月28日～7月8日 |
| | • 2021年4月25日～10月1日 |
| 図書室閉室期間 : | • 2020年2月28日～7月8日 |
| | • 2021年1月15日～3月3日 |
| | • 2021年4月25日～2022年10月1日 |



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

